

平塚市の便利で快適なまちづくりに関する
市民アンケート調査結果報告書

- 立地適正化計画策定に向けて -

令和5年3月

平塚市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の実施概要	1
3. アンケートの構成	2
4. 結果利用上の注意	3
第2章 結果の概要	4
問1. 回答者の属性	4
問2. 日常生活の実態	8
問3. 拠点のニーズ	46
問4. 居住環境のニーズ	64
問5. 防災への意識・意向	73
問6. 平塚市のまちづくりへの自由意見	78
第3章 まとめ	86
資料編	87

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

立地適正化計画の策定に向けた基礎資料として、以下に関する実態や意向・ニーズを把握する。

- ・ 日常的な生活サービスの利用状況や行動範囲などの実態
- ・ 平塚駅周辺を中心拠点や地域の拠点に関する意向
- ・ 住まいや防災に関する意向

2. 調査の実施概要

■実施方法

- ・ 調査対象：市内在住の18歳以上（成年）、約3,000人（住民基本台帳より市内7地域の人口で按分し無作為抽出）。
- ・ 調査方法：郵送により配付し、記入した調査票を返送。または、二次元コードからwebで回答。広報ひらつか8月第3金曜日号にて、調査実施について周知。
- ・ 調査期間：令和4年8月22日（月）～令和4年9月5日（月）
- ・ 回収結果：配布枚数は3013票。回収数は1013票（郵送：811票 Web：202票）。回答率は33.6%で、各地域とも概ね30%の回答を得た。

■地域区分図



■回収数・回収率

	総人口	人口按分	不足分上積	配布数	回収数	回収率
南部地域	39,689	462		462	166	35.9%
中心地域	40,591	473		473	161	34.0%
東部地域	58,138	677		678	209	30.8%
中部地域	27,884	325		325	115	35.4%
北部地域	23,317	272	13*	285	89	31.3%
西部地域	27,507	320		320	121	37.8%
旭地域	40,377	470		470	142	30.2%
不明					10	
合計	257,503	2,999	1,013	3,013	1,013	33.6%

※地域ごとの回答数に偏りが出ないように、配布数を追加した。

3. アンケートの構成

	目的・設問項目	クロス集計項目
問1.回答者の属性	回答者の属性(性別、年齢、居住地域、職業、家族構成、子供の人数・年齢、住宅種類、市内居住歴)について把握する。年齢、居住地、子育て世代*とのクロス集計で属性別の傾向を把握する。	居住地域別に年齢を把握する。
問2.日常生活の実態	普段の行動範囲や移動手段など日常生活の実態を把握し、生活圏域の検証や都市機能の適切な配置等の検討につなげる。	
2-1	普段利用している主な施設の利用頻度、目的地、交通手段、移動時間から、日常生活における行動範囲等実態を把握する。	目的地・移動手段では、居住地域・年齢別の傾向を把握する。
2-2	外出行動に係る交通利便性に対する評価を確認し、課題分析につなげる。加えて、コロナ禍による外出行動の変化について確認する。	交通利便性の評価は居住地域別での傾向を把握する。
2-3	日常生活において、自宅周辺(徒歩圏内)で欠かせない都市機能に関するニーズを把握する。	居住地域別・年齢別・子育て世代の傾向を把握する。
問3.拠点のニーズ	平塚駅周辺の中心拠点や地域の拠点となる場所、拠点におけるまちづくりの方向性を検討するためのニーズ等を把握する。	
3-1	平塚駅周辺への来訪にあたっての交通手段、来訪頻度、来訪時の理由を把握する。	居住地域別の傾向を把握する。
3-2	平塚駅周辺の交通利便性や商業機能、過ごしやすさなどの評価を把握し、現状・課題分析につなげる。	—
3-3	平塚駅周辺の望ましい将来像に関する意向を把握し、中心拠点の方向性の検討につなげる。	年齢別・子育て世代の傾向を把握する。
3-4	地域拠点の必要性について確認する。	居住地域別・年齢別・子育て世代の傾向を把握する。
3-5	地域拠点を必要とする場合の望ましい場所について確認し、拠点配置の検討につなげる。	居住地域別の傾向を把握する。
3-6	地域拠点として充実することが望ましい都市機能について確認する。	—
3-7	平塚駅周辺以外に拠点が不要ない理由について確認する。	—

問 4.居住環境のニーズ	定住意向や居住環境に必要な機能・環境についての意向を把握し、暮らしやすい地域づくりに必要な施策等検討につなげる。	
4-1	現在の居住地域での定住意向を確認する。	居住地域別・子育て世代の傾向を把握する。
4-2	転居・転出を考えている場合の理由について確認し、地域づくりの課題分析につなげる。	—
4-3	地域がより過ごしやすくなるための取組みについて意向を把握し、地域づくりの方向性等の検討につなげる。	居住地域別・年齢別・子育て世代の傾向を把握する。
問 5.防災意識・意向	居住地域における防災意識や市全体の防災対策に係る意向を把握し、防災指針等の検討につなげる。	
5-1	居住地域の防災対策について意向を把握し、課題分析につなげる。	居住地域別の傾向を把握する。
5-2	ハザードマップの認知度を確認する。	—
5-3	市全体の防災対策について意向を把握し、防災指針等の検討につなげる。	居住地域別の傾向を把握する。
問 6.市への自由意見	平塚市が今後魅力あるまちになるために必要な取組みについて意見を求め、施策検討につなげる。	

※「子育て世代」：本調査では、成人していない子供を持つ回答者（問 1-6.子供の人数・年齢で、「小学校入学前、小学生、中学生、高校生」を選択）を「子育て世代」としてクロス集計を行った。必ずしも 20 代・30 代が該当する訳ではないため、年齢別のクロス集計結果と異なる場合がある。

4. 結果利用上の注意

次の通り集計を実施した。

- ・図表中の「n」は、各設問の有効回答者数を示す。
- ・結果は百分率で表示し、小数第 2 位を四捨五入して算出した。従って、端数処理の関係上、個々の選択肢の百分率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答の比率（%）は、その設問の回答者数（n）を基数として算出した。従って、複数回答の設問は、全ての比率を合計すると 100%を超えることがある。
- ・設問ごとに有効回答数を判断しているため、年齢別や居住地域別クロス集計の回答者数の合計と単純集計での年齢、居住地域の回答者数の合計が異なる場合がある。
- ・グラフ内の割合の表記のうち、0%は非表示とした。
- ・クロス集計のうち、年齢の「18-29 歳」や、2-1-2 行き先・目的先、2-1-3 移動手段の「(7)コミュニティ施設の利用（公民館、集会所など）」「(9)幼稚園・保育園等への送迎」「(10)福祉・介護施設の利用」「(11)文化活動、趣味や習い事」については、回答者数が少ないため、参考値として取り扱う。

第2章 結果の概要

問1. 回答者の属性（あなた自身についておたずねします）

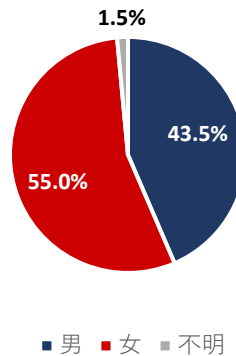
●結果概要

- ・回答者は60歳以上が約半数を占め、高齢者が多く[問1-2, p.4]、職業は3割程度が無職・年金生活[問1-4, p.5]、家族構成も子供の年齢層が社会人である回答者が7割いる[問1-6-1, p.6]など、子育てを終えた世代が多い。
- ・住まいは持ち家（一戸建て）が7割を占め[問1-7, p.7]、居住歴は30年以上が6割程度いる[問1-8, p.7]など、長く住み続けている人が多い。

問1-1 性別

- ・「男」(43.5%)「女」(55.0%)と、女性の割合がやや大きい。

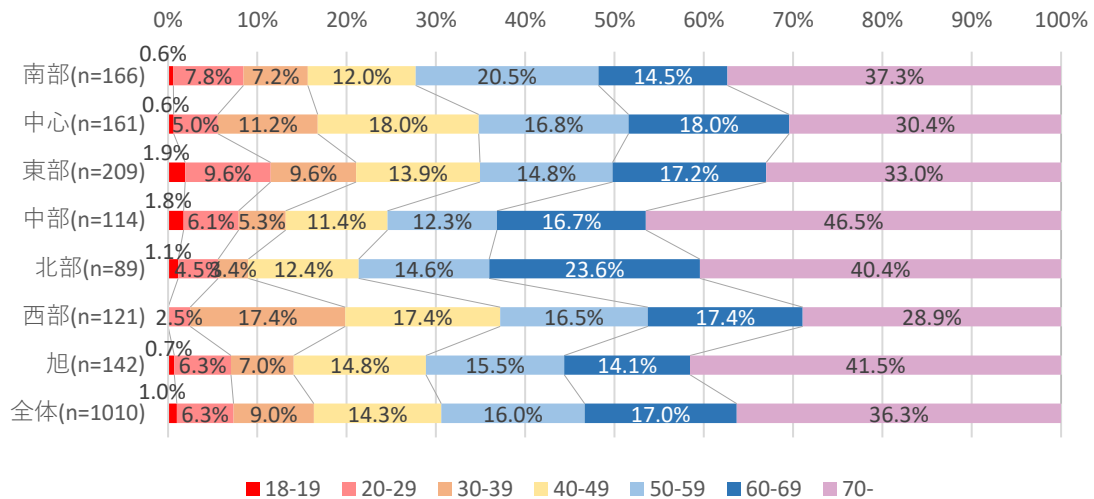
1-1 性別 (n=998)



問1-2 年齢

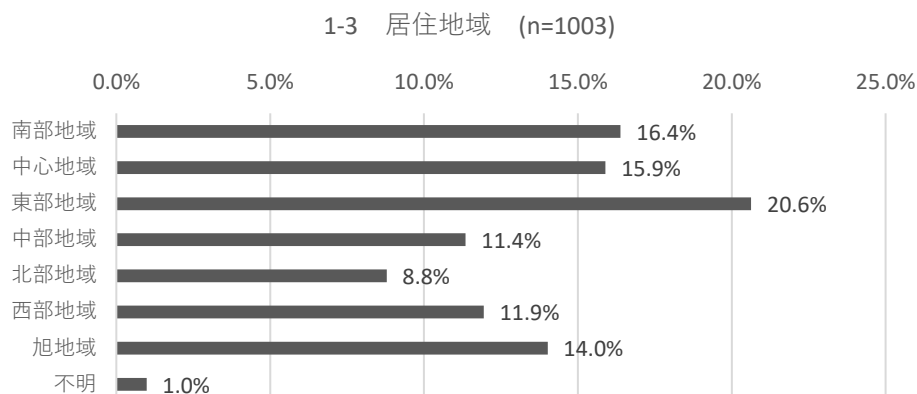
- ・全市では、「70歳以上」(36.3%)「60-69歳」(17.0%)が高く、合計で5割を超える。高齢者の割合が高い。

1-2.年齢×1-3.居住地域



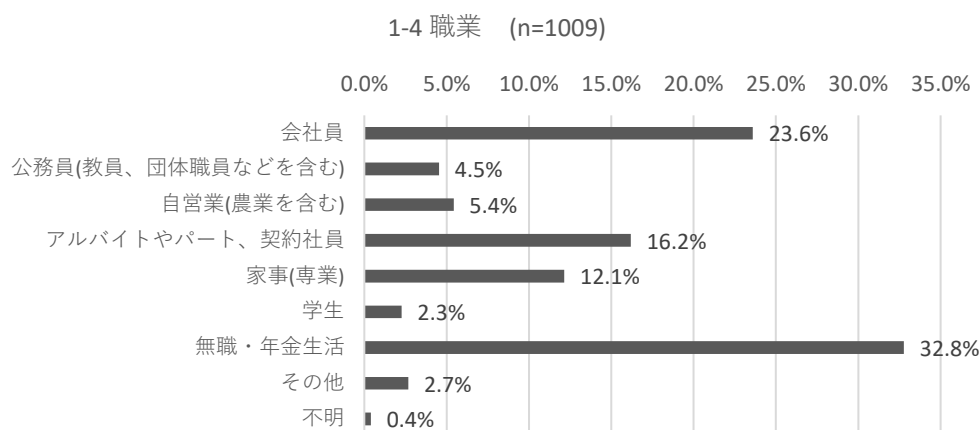
問 1-3 居住地域

・「東部地域」(20.6%)が最も多く、「北部地域」(8.8%)が最も少ない。地域にやや偏りがある。



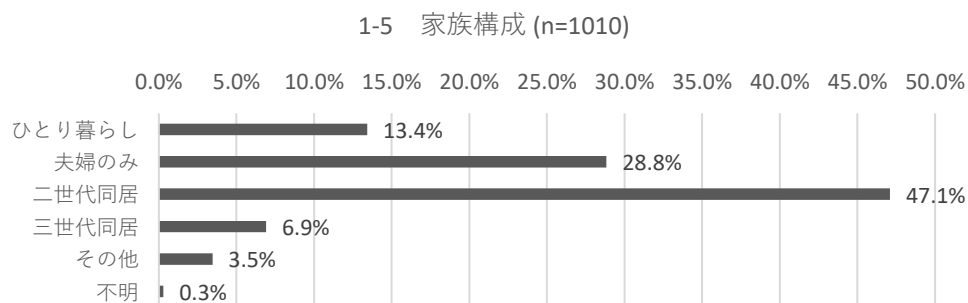
問 1-4 職業

・「無職・年金生活」(32.8%)が最も多く、次いで、「会社員」(23.6%)が多い。「学生」(2.3%)が最も少ない。



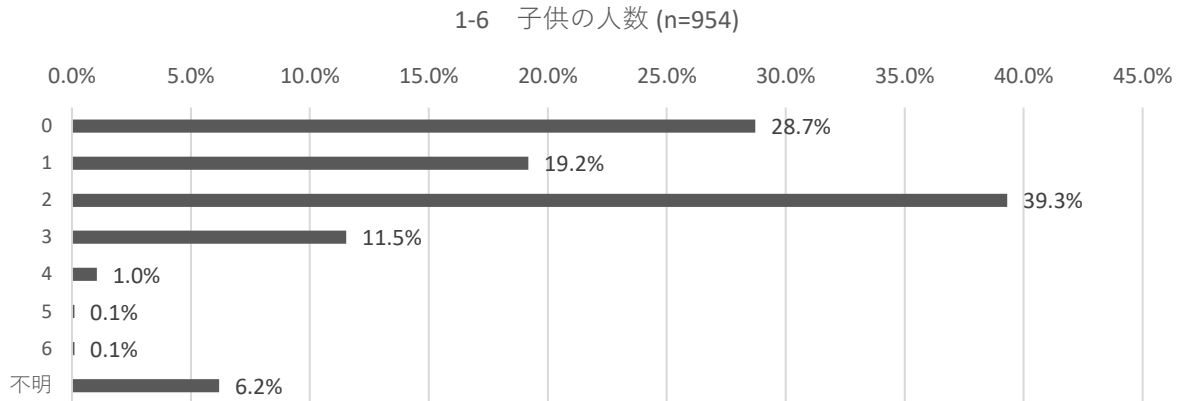
問 1-5 家族構成

・「二世世代同居」(47.1%)が最も多い。次いで、「夫婦のみ」(28.8%)、「ひとり暮らし」(13.4%)が多い。



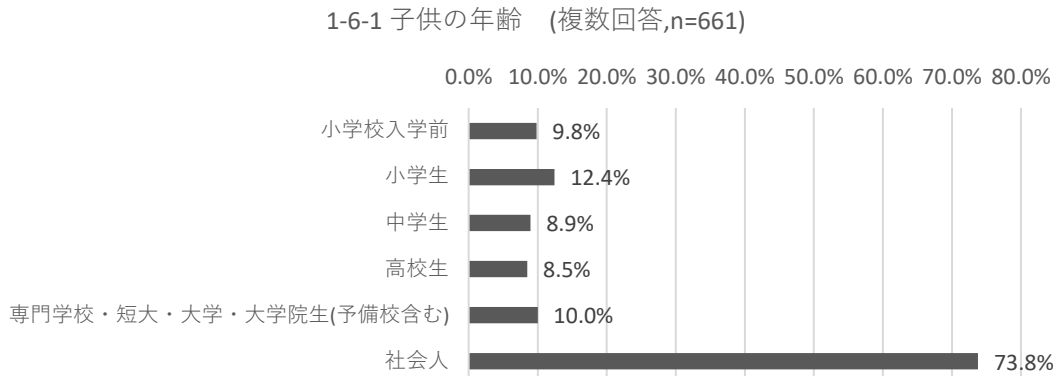
問 1-6 子供の人数

・「2人」(39.3%)が最も多く、次いで、「0人」(28.7%)「1人」(19.2%)となっている。



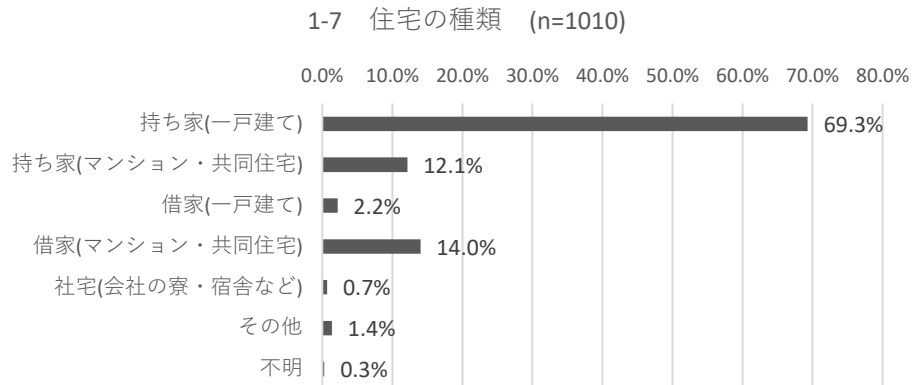
問 1-6-1 子供の年齢 (複数回答)

・「社会人」(73.8%)が最も多い。他は比較的差はない。



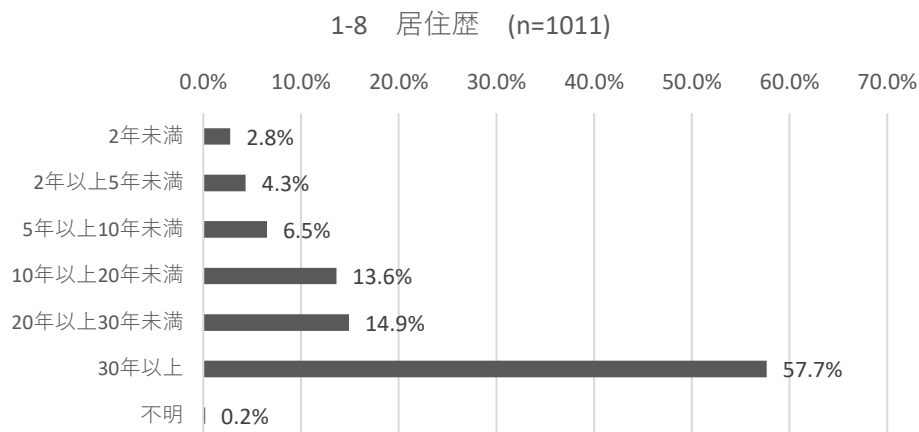
問 1-7 住宅の種類

・「持ち家(一戸建て)」(69.3%)が最も多い。次いで、「借家(マンション・共同住宅)」(14.0%)、「持ち家(マンション・共同住宅)」(12.1%)が多い。



問 1-8 居住歴

・「30年以上」(57.7%)が最も多く、居住歴が非常に長い人が6割近く回答しており、比較的居住年数の長い人が回答している傾向が見られる。



問2. 日常生活の実態（日常生活について）

●結果概要

- ・週1回以上行っているものは、食料品や日用品・最寄品の買物、通勤・通学、飲食の順に多い。このうち、食料品や日用品・最寄り品の買物は、8割程度の人が週1回以上行っている。[問2-1-1 (p.8-9)]
- ・食料品や日用品・最寄品の買物は、いずれの地域も住んでいる地域内での利用が多く、移動時間も20分以内が多い。小田急線沿線駅周辺の利用は、中部地域で最も多く、地域内の1割程度が利用している。[問2-1-2×1-3 (p.17)]
- ・通院や、コミュニティ施設、金融機関や福祉・介護施設の利用も、住んでいる地域内での利用が多い。[問2-1-2×1-3 (p.18,20,21)]
- ・移動手段は、一般的に自家用車が多く[問2-1-3 (p.23)]、地域別では南部地域、中心地域は徒歩や自転車の利用が比較的多い。[問2-1-3×1-3 (p.30-35)]
- ・交通便利性への満足度（移動手段や移動時間）は、一般的に不満の割合が低い。[問2-2-1(p.37)] 食料品など日用品・最寄品の買物については、満足している人の割合が高い。[問2-2-1×1-3 (p.38)]
- ・日常生活において自宅周辺（徒歩圏）に欠かせない施設では、全ての地域、全ての年齢層で食料品・生活用品などの店舗が最も多い。次いで、金融機関やコンビニエンスストア、診療所や医院が多く、30代では子育て関連施設や教育施設も多い。[問2-3×1-2・1-6 (p.42)]

問2-1 以下の(1)～(12)の行動や施設利用の「利用頻度」と、主な「行き先」、「移動手段」、「移動時間」について、以下の選択肢からそれぞれ1つ選んで該当する番号を書いてください。利用頻度が「⑥行かない、ほとんど行かない」場合は、行き先や移動手段、移動時間をご回答いただく必要はありません。

問2-1-1 行動・施設利用の頻度

- ・「週5回以上」の高頻度の利用は、「(5)通勤・通学」(32.1%)、「(1)買い物（食料品など日用品・最寄品）」(13.7%)が比較的多い。

●活動ごとの傾向

<比較的高頻度な傾向が見られる活動>

- ・「(1)買い物（食料品など日用品・最寄品）」は、「週1～2回」(37.7%)、「週3～4回」(30.9%)が多い。

<比較的低頻度な傾向が見られる活動>

- ・「(2)買い物（家電、衣料品など買回品）」は、「月1回以下」(42.5%)、「月2～3回」(23.5%)が多い。
- ・「(3)飲食（レストランやカフェなど）」は、「行かない、ほとんど行かない」(26.8%)、「月2～3回」(24.9%)、「月1回以下」(20.0%)が多い。
- ・「(4)病院・診療所での受診・通院」は、「月1回以下」(46.7%)、「行かない、ほとんど行かない」(23.6%)、「月2～3回」(15.3%)が多い。

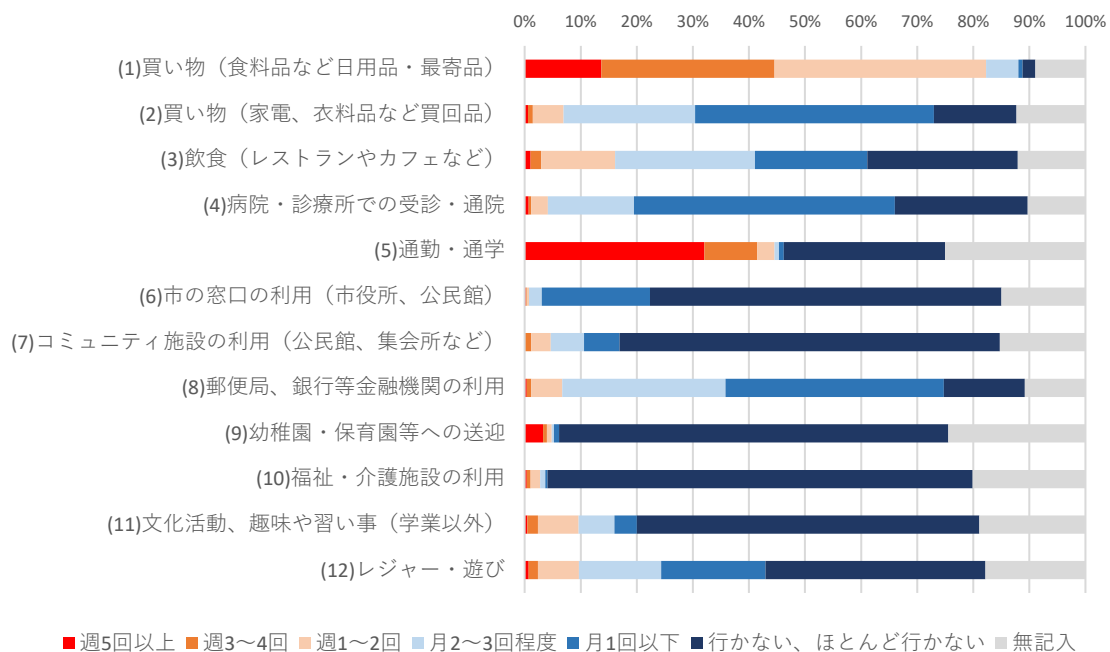
- ・「(6)市の窓口の利用 (市役所、公民館)」は、「行かない、ほとんど行かない」(62.5%)、「月1回以下」(19.2%)が多い。
- ・「(7)コミュニティ施設の利用 (公民館、集会所など)」は、「行かない、ほとんど行かない」(67.6%)が多い。
- ・「(8)郵便局、銀行等金融機関の利用」は、「月1回以下」(38.8%)、「月2～3回程度」(29.0%)
- ・「(10)福祉・介護施設の利用」は、「行かない、ほとんど行かない」(75.6%)が多い。
- ・「(11)文化活動、趣味や習い事 (学業以外)」は、「行かない、ほとんど行かない」(60.9%)が多い。
- ・「(12)レジャー・遊び」は、「行かない、ほとんど行かない」(39.1%)が多い。次いで、「月1回以下」(18.6%)、「月2～3回」(14.6%)が多い。

<回答者によって高頻度・低頻度が分かれる活動>※

- ・「(5)通勤・通学」は、「週5回以上」(32.1%)、「行かない、ほとんど行かない」(28.6%)が多い。
- ・「(9)幼稚園・保育園等への送迎」は、「行かない、ほとんど行かない」(69.2%)が多い。次いで「週5回以上」(3.3%)。

※回答者に高齢者が多いことが要因と考えられる

2-1-1 行動・施設利用の頻度

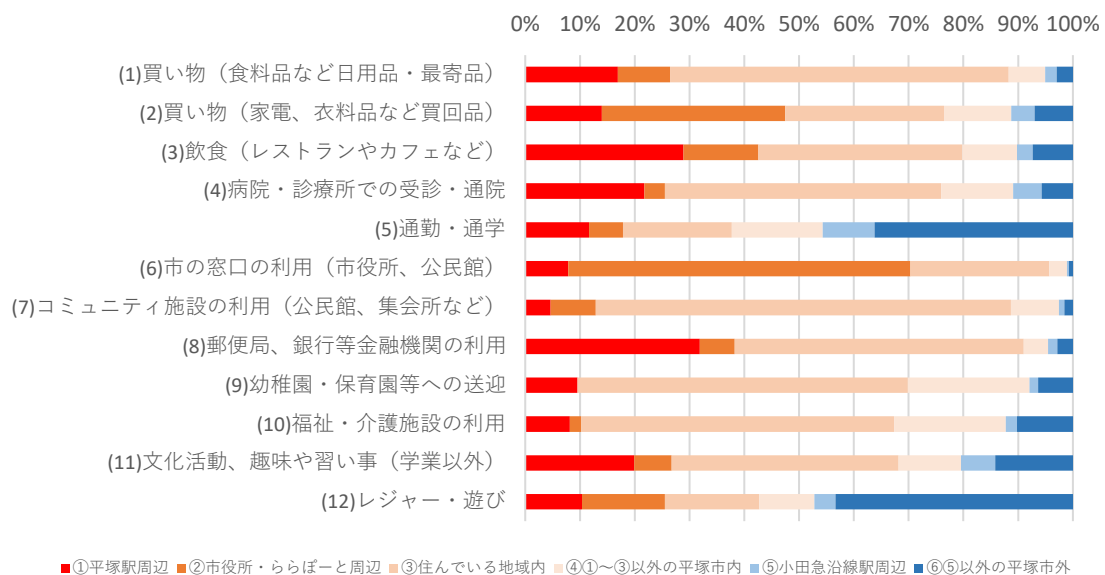


	(1)買い物 (食料品など日用品・最寄品)	(2)買い物 (家電、衣料品など買回品)	(3)飲食 (レストランやカフェなど)	(4)病院・診療所での受診・通院	(5)通勤・通学	(6)市の窓口の利用 (市役所、公民館)	(7)コミュニティ施設の利用 (公民館、集会所など)	(8)郵便局、銀行等金融機関の利用	(9)幼稚園・保育園等への送迎	(10)福祉・介護施設の利用	(11)文化活動、趣味や習い事 (学業以外)	(12)レジャー・遊び
週5回以上	13.7%	0.6%	1.1%	0.7%	32.1%	0.2%	0.0%	0.4%	3.3%	0.4%	0.5%	0.7%
週3～4回	30.9%	0.9%	2.0%	0.5%	9.4%	0.2%	1.2%	0.8%	0.7%	0.7%	1.9%	1.7%
週1～2回	37.7%	5.5%	13.1%	3.0%	3.1%	0.4%	3.5%	5.5%	0.9%	1.7%	7.2%	7.3%
月2～3回程度	5.7%	23.5%	24.9%	15.3%	0.8%	2.3%	5.9%	29.0%	0.4%	0.9%	6.4%	14.6%
月1回以下	0.8%	42.5%	20.0%	46.7%	1.0%	19.2%	6.3%	38.8%	0.9%	0.4%	3.9%	18.6%
行かない、ほとんど行かない	2.3%	14.7%	26.8%	23.6%	28.6%	62.5%	67.6%	14.4%	69.2%	75.6%	60.9%	39.1%
無記入	8.9%	12.2%	12.1%	10.3%	25.1%	15.2%	15.5%	11.1%	24.7%	20.3%	19.2%	18.1%
回答者数	923	889	890	909	759	859	856	901	763	807	819	830

問 2-1-2 行き先・目的先

- ・「③住んでいる地域内」を目的地としている人が5割を超える活動は、「(1)買い物（食料品など日用品・最寄品）」(61.8%)、「(4)病院・診療所での受診・通院」(50.4%)「(7)コミュニティ施設の利用（公民館、集会所など）」(75.8%)、「(8)郵便局、銀行等金融機関の利用」(52.8%)、「(9)幼稚園・保育園等への送迎」(60.3%)、「(10)福祉・介護施設の利用」(57.1%)であり、居住地域内での利用が多い活動になる。
- ・「②市役所・ららぽーと周辺」を目的としている人が多い傾向のある活動は、「(2)買い物（家電、衣料品など買回品）」(33.5%)、「(6)市の窓口の利用（市役所、公民館）」(62.5%)での利用が多い。
- ・「⑥⑤以外の平塚市外」を目的としている人が多い傾向のある活動は、「(5)通勤・通学」(36.2%)、「(12)レジャー・遊び」(43.3%)である。
- ・「(3)飲食（レストランやカフェなど）」では、「①平塚駅周辺」・「③住んでいる地域内」が比較的同程度であった。まちなかでの飲食は、地域内と中心拠点の両方が同程度利用されている。

2-1-2 行き先・目的先



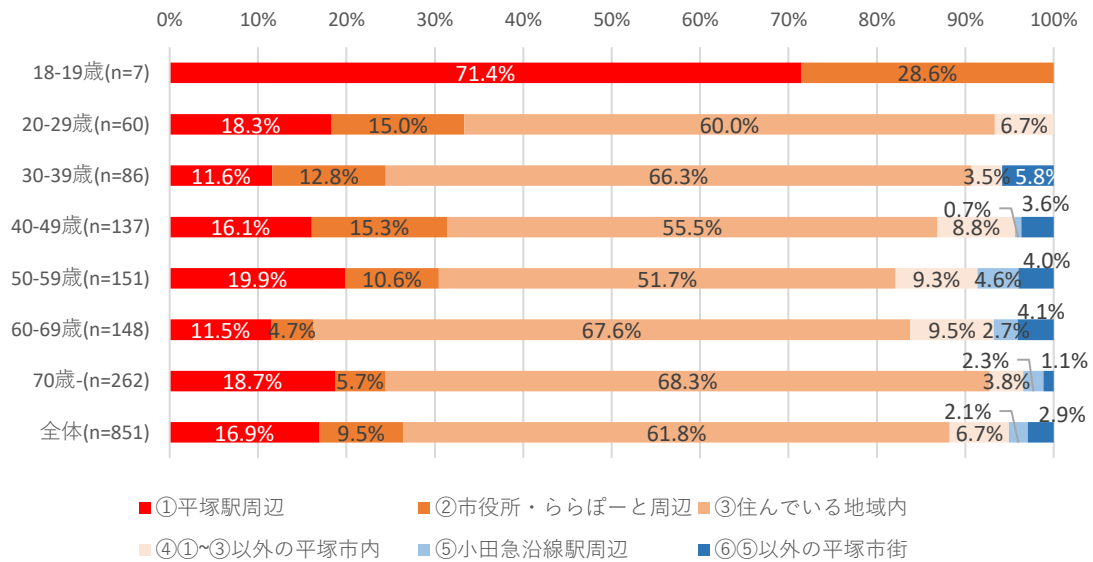
	(1)買い物（食料品など日用品・最寄品）	(2)買い物（家電、衣料品など買回品）	(3)飲食（レストランやカフェなど）	(4)病院・診療所での受診・通院	(5)通勤・通学	(6)市の窓口の利用（市役所、公民館）	(7)コミュニティ施設の利用（公民館、集会所など）	(8)郵便局、銀行等金融機関の利用	(9)幼稚園・保育園等への送迎	(10)福祉・介護施設の利用	(11)文化活動、趣味や習い事（学業以外）	(12)レジャー・遊び
①平塚駅周辺	16.9%	14.0%	28.9%	21.8%	11.7%	7.9%	4.6%	31.9%	9.5%	8.2%	19.9%	10.4%
②市役所・ららぽーと周辺	9.5%	33.5%	13.7%	3.7%	6.2%	62.5%	8.2%	6.4%	0.0%	2.0%	6.8%	15.1%
③住んでいる地域内	61.8%	29.0%	37.2%	50.4%	19.9%	25.4%	75.8%	52.8%	60.3%	57.1%	41.5%	17.2%
④①～③以外の平塚市内	6.7%	12.3%	10.0%	13.2%	16.6%	3.2%	8.8%	4.4%	22.2%	20.4%	11.4%	10.1%
⑤小田急沿線駅周辺	2.1%	4.3%	2.8%	5.2%	9.4%	0.4%	1.0%	1.7%	1.6%	2.0%	6.3%	3.9%
⑥⑤以外の平塚市外	2.9%	7.0%	7.3%	5.7%	36.2%	0.7%	1.5%	2.8%	6.3%	10.2%	14.2%	43.3%
回答者数	851	701	599	615	403	280	194	703	63	49	176	337

▶1-2 年齢とのクロス集計

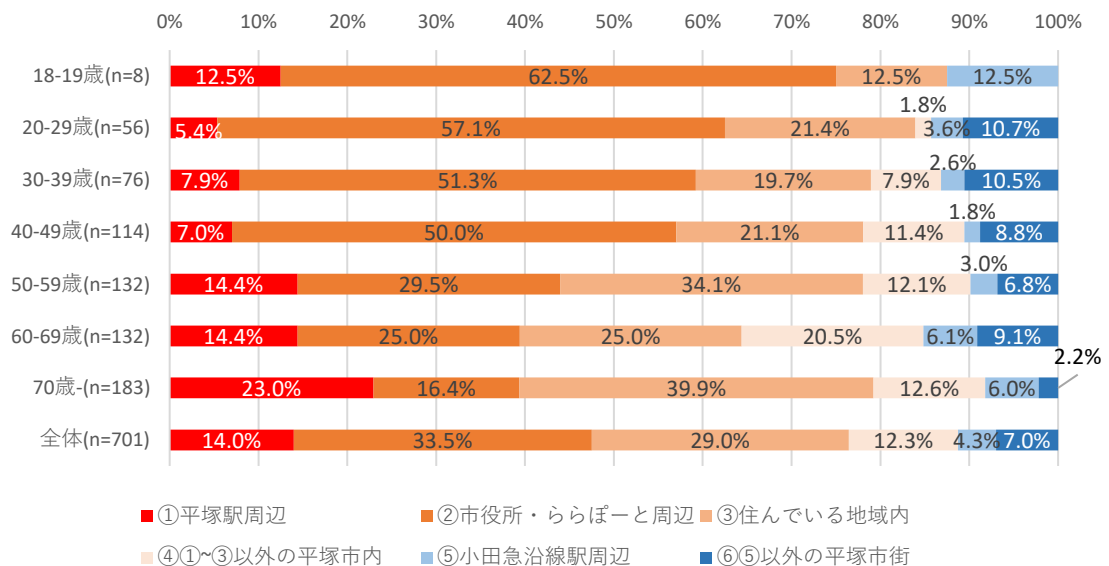
各世代の活動別で、主な目的先となるエリアの大きな傾向を把握する。

- ・年齢別にみると、日用品の買い物は年齢による大きな違いはなく、③住んでいる地域内が多い。一方、40代までの買回品の買い物は②市役所・ららぽーと周辺が多く、30代の飲食では①平塚駅周辺が少なく、70代以上の通院は③住んでいる地域内が多いなど、年齢による違いがある。

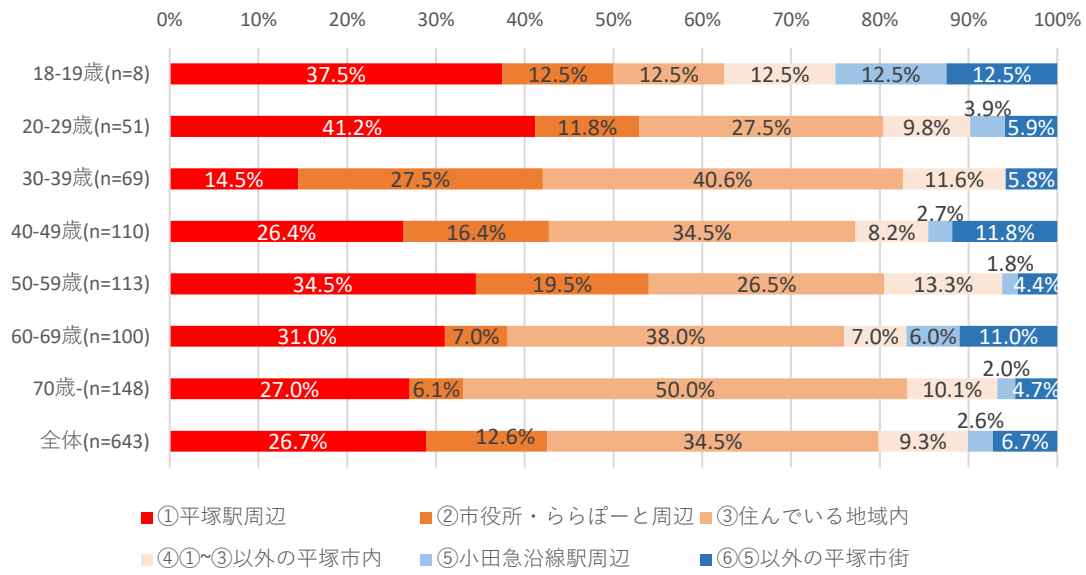
2-1-2目的先（買い物：日用品）×1-2年齢



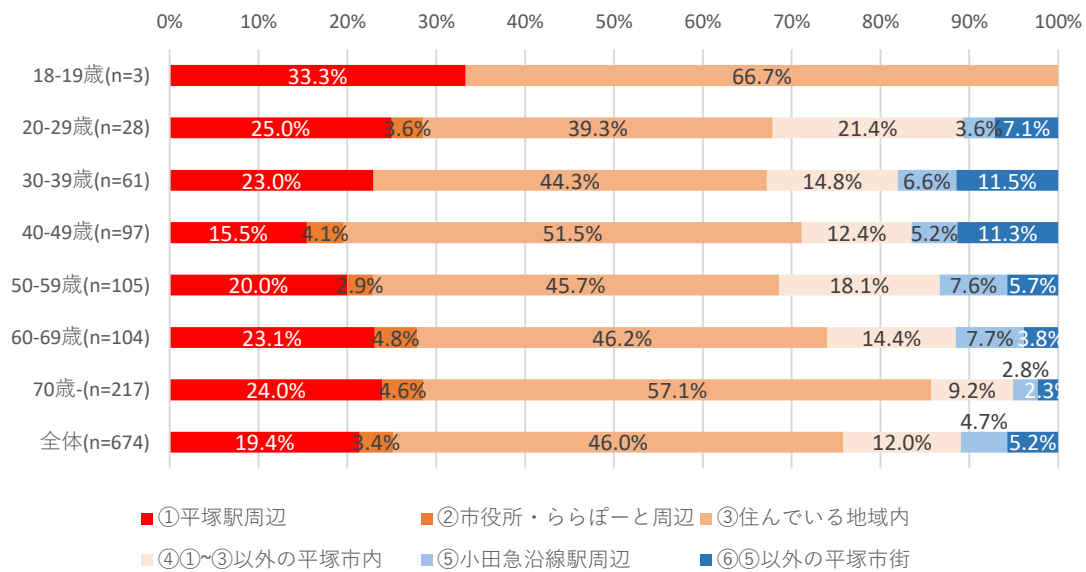
2-1-2目的先（買い物：買回品）×1-2年齢



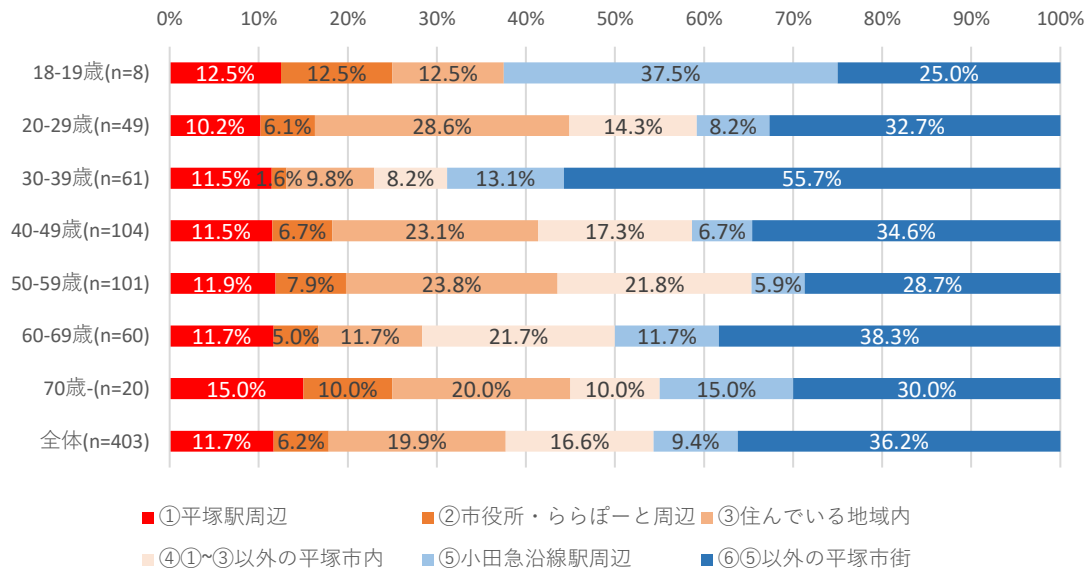
2-1-2目的先（飲食）×1-2年齢



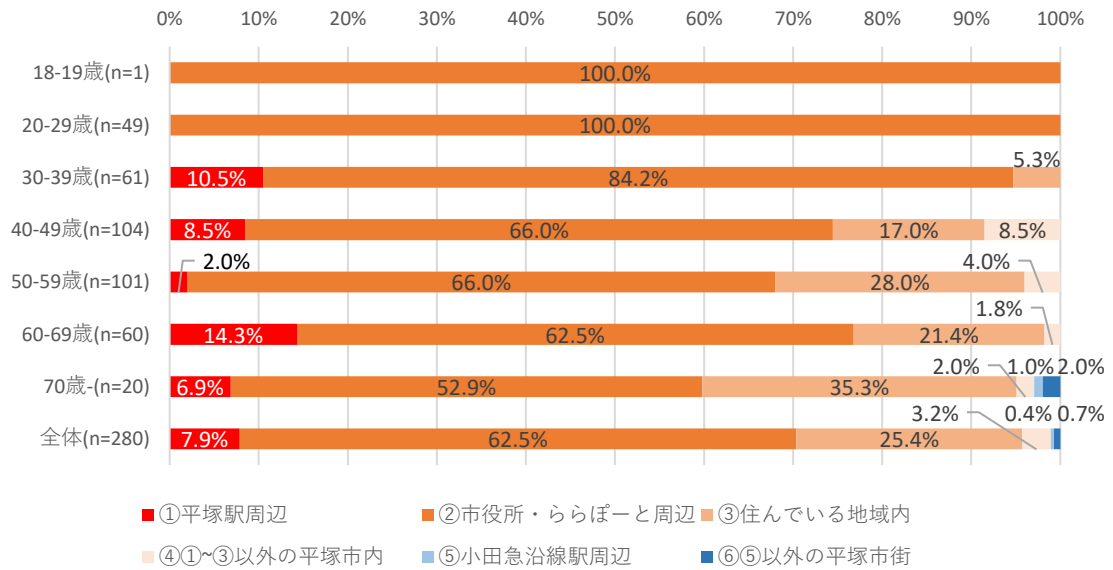
2-1-2目的先（病院・診療所）×1-2年齢



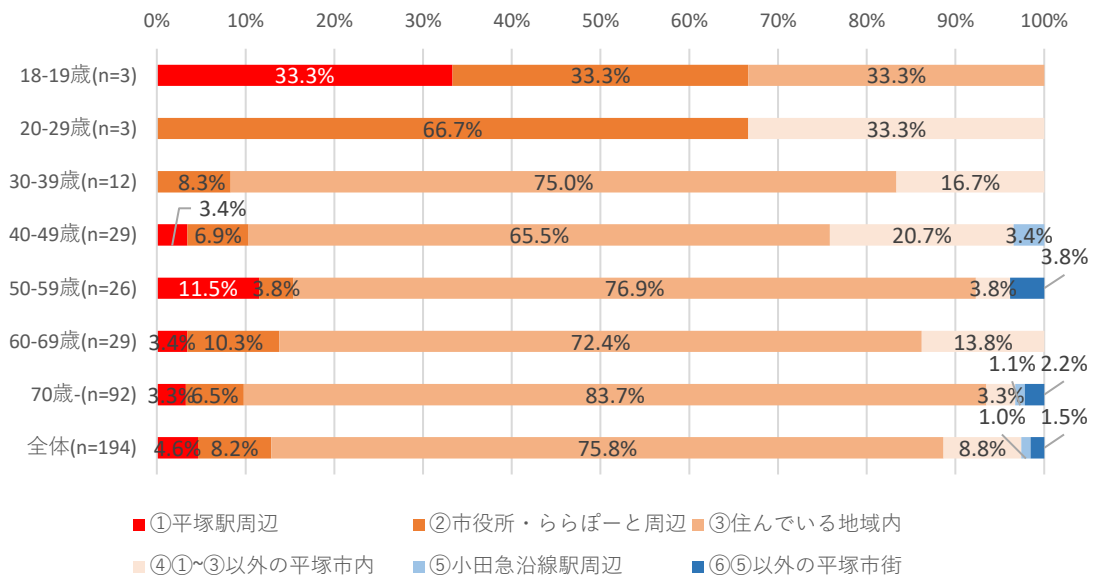
2-1-2目的先（通勤・通学）×1-2年齢



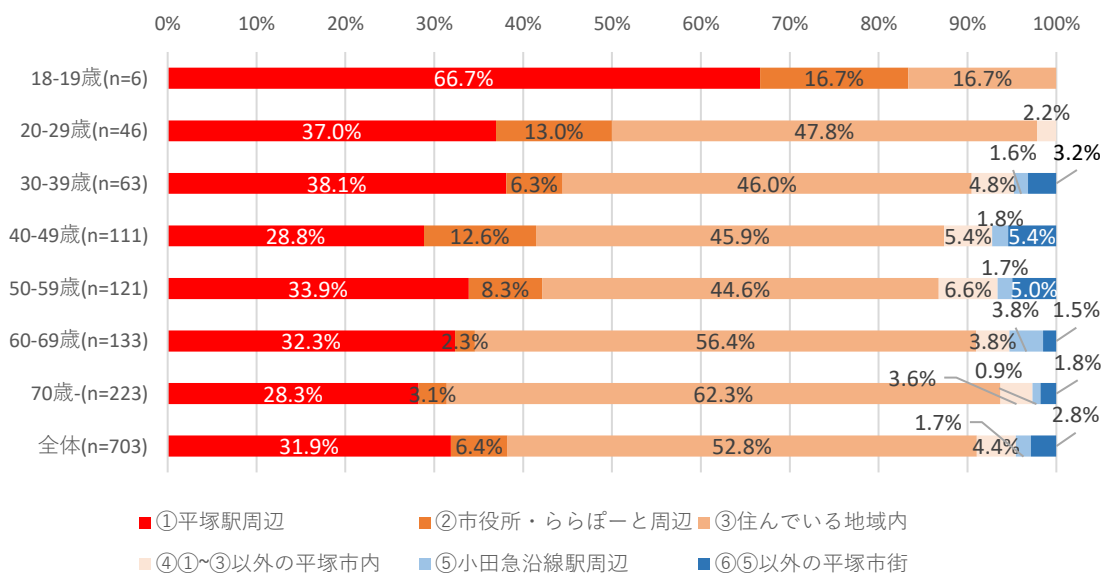
2-1-2目的先（行政利用）×1-2年齢



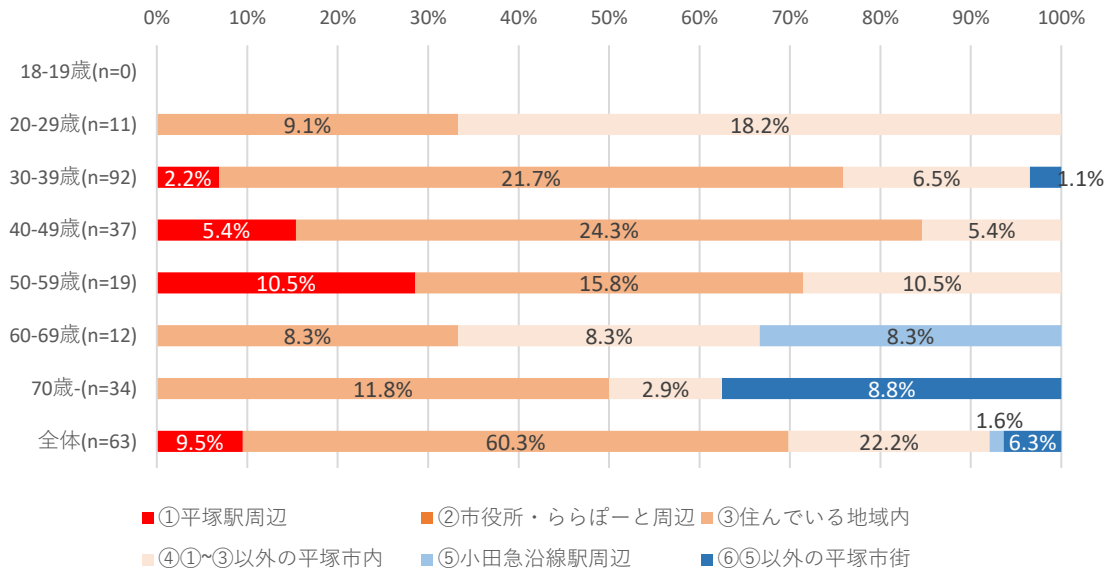
2-1-2目的先（コミュニティ施設の利用）×1-2年齢



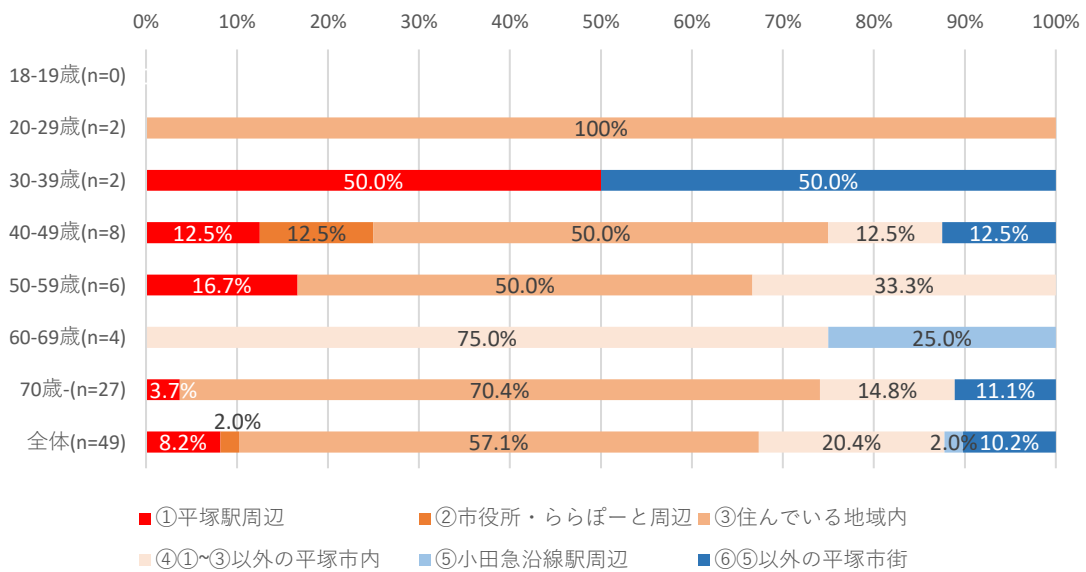
2-1-2目的先（郵便局・金融機関の利用）×1-2年齢



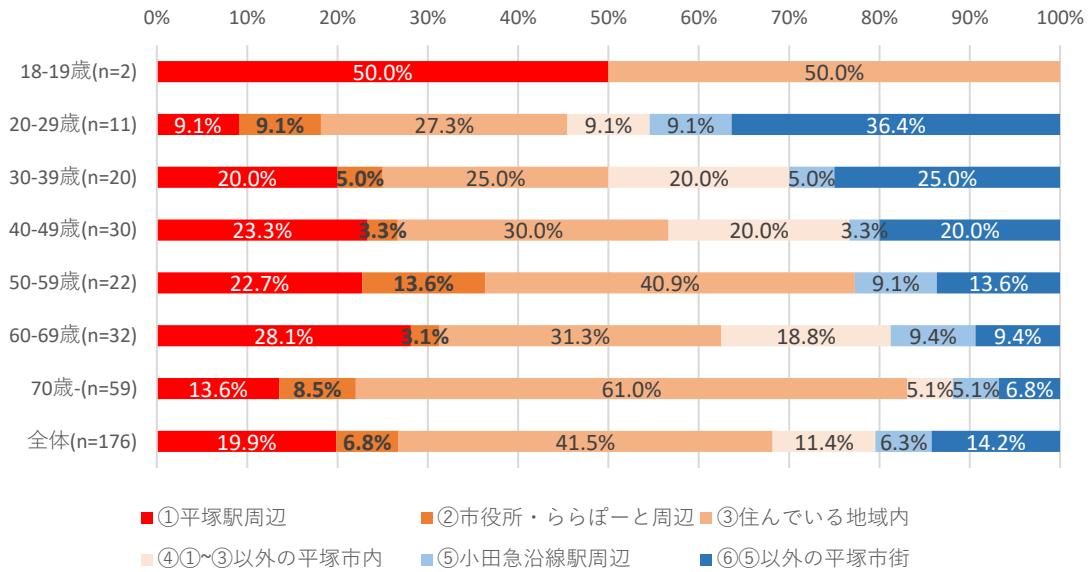
2-1-2目的先（幼稚園・保育園等の送迎）×1-2年齢



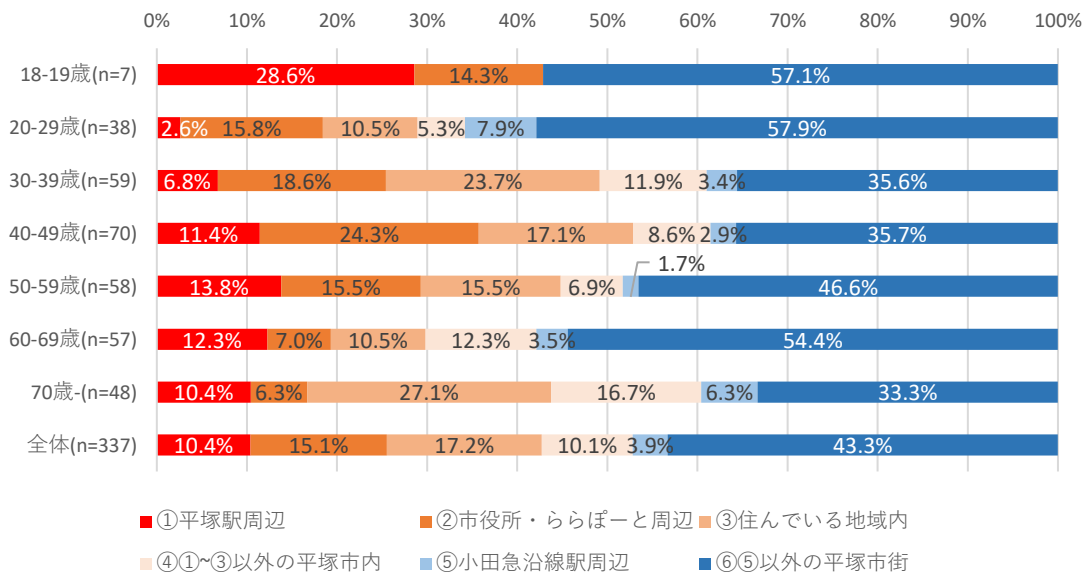
2-1-2目的先（福祉・介護）×1-2年齢



2-1-2目的先（文化活動・趣味）×1-2年齢



2-1-2目的先（レジャー・遊び）×1-2年齢

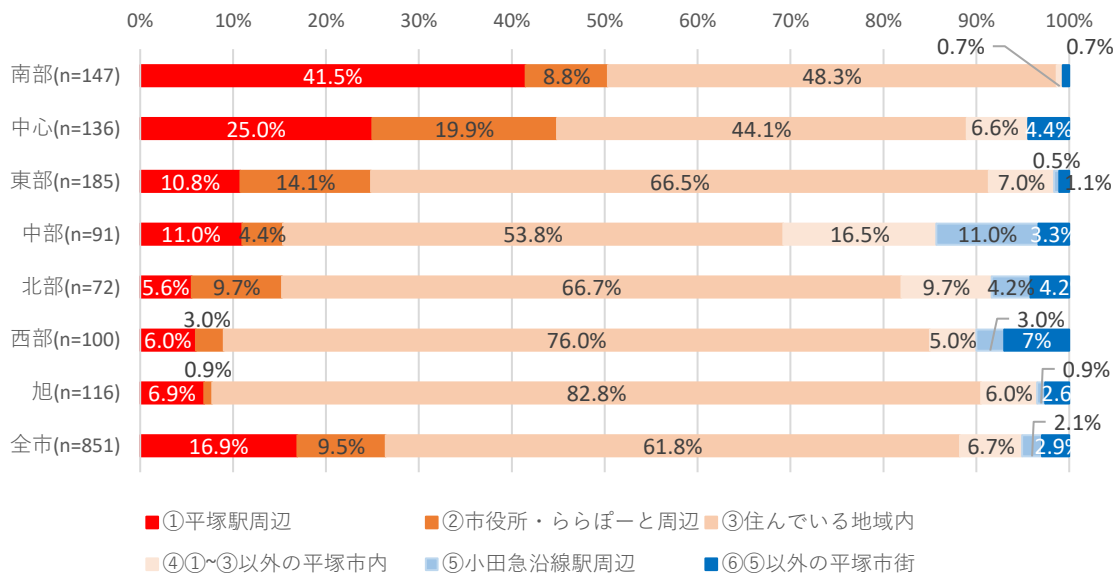


▶1-3 居住地域とのクロス集計

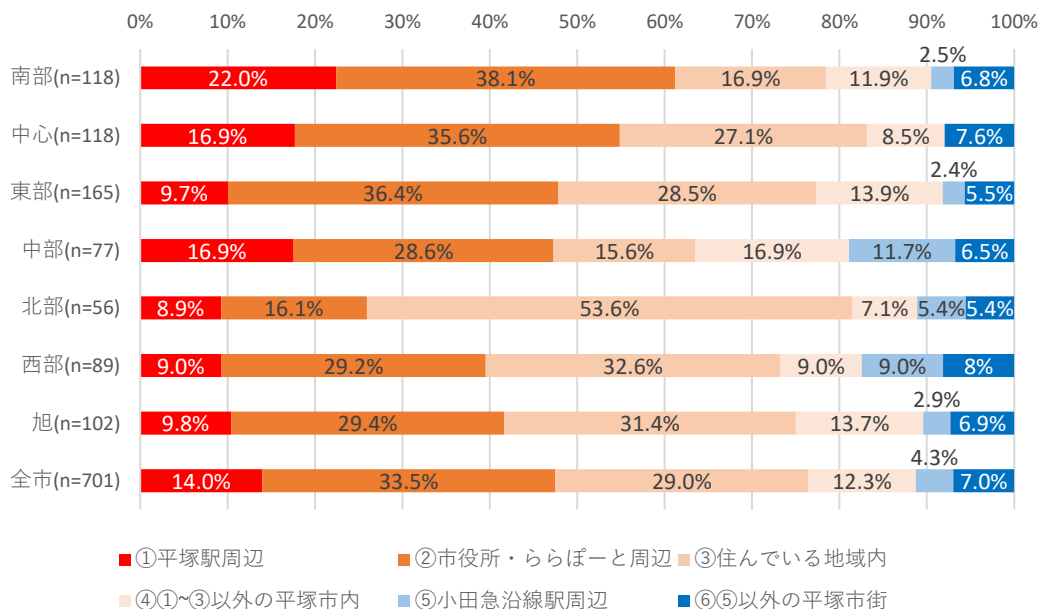
各地域の活動別で、主な目的先となるエリアの大きな傾向を把握する。

- ・地域によって異なる傾向が見られたのは、中部・西部地域での、買回品の買い物、飲食、病院・診療所での通院等で⑤小田急線駅周辺の利用が比較的多く、中部地域での日用品の買い物も⑤小田急線駅周辺の利用が11.0%と比較的多い。

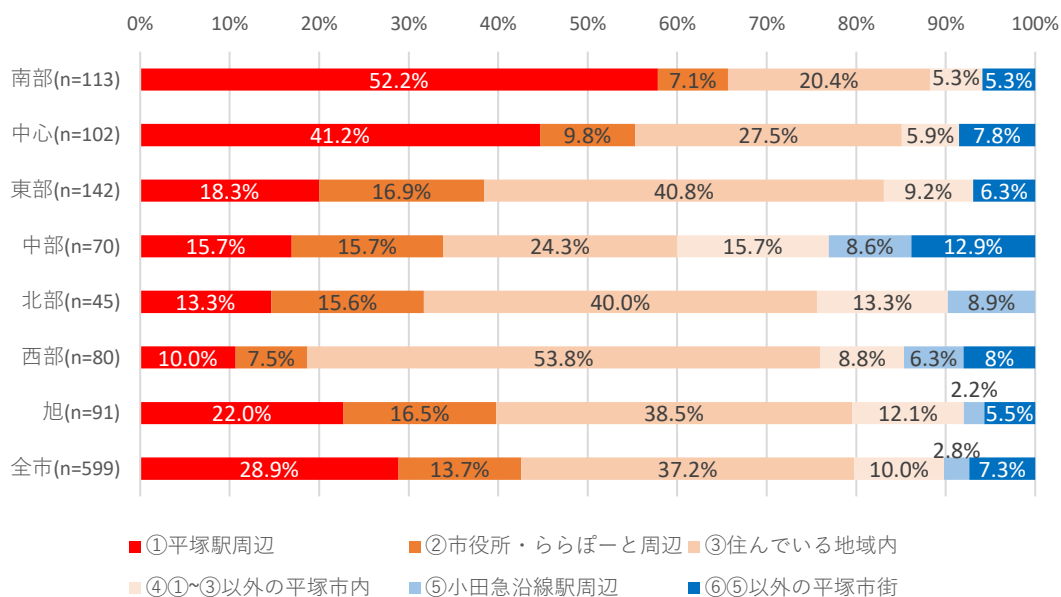
2-1-2目的先（買い物：日用品）×1-3居住地域



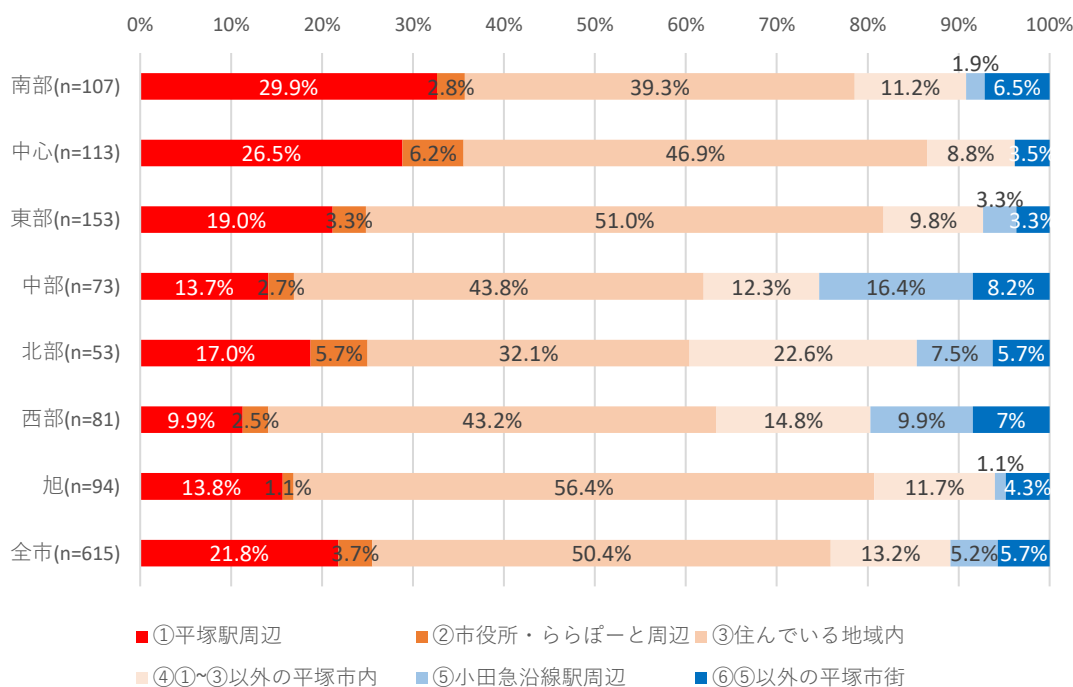
2-1-2目的先（買い物：買回品）×1-3居住地域



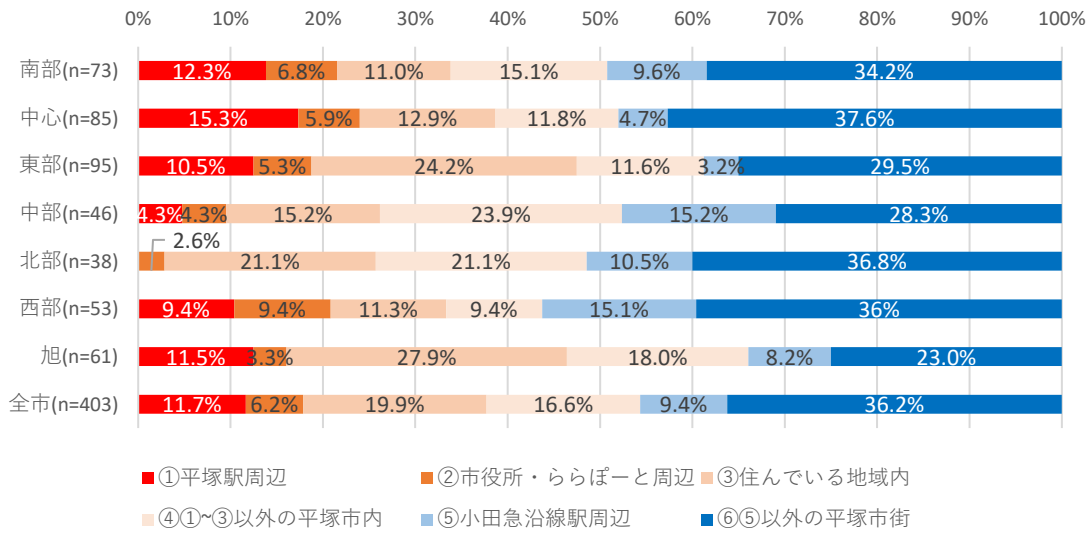
2-1-2目的先（飲食）×1-3居住地域



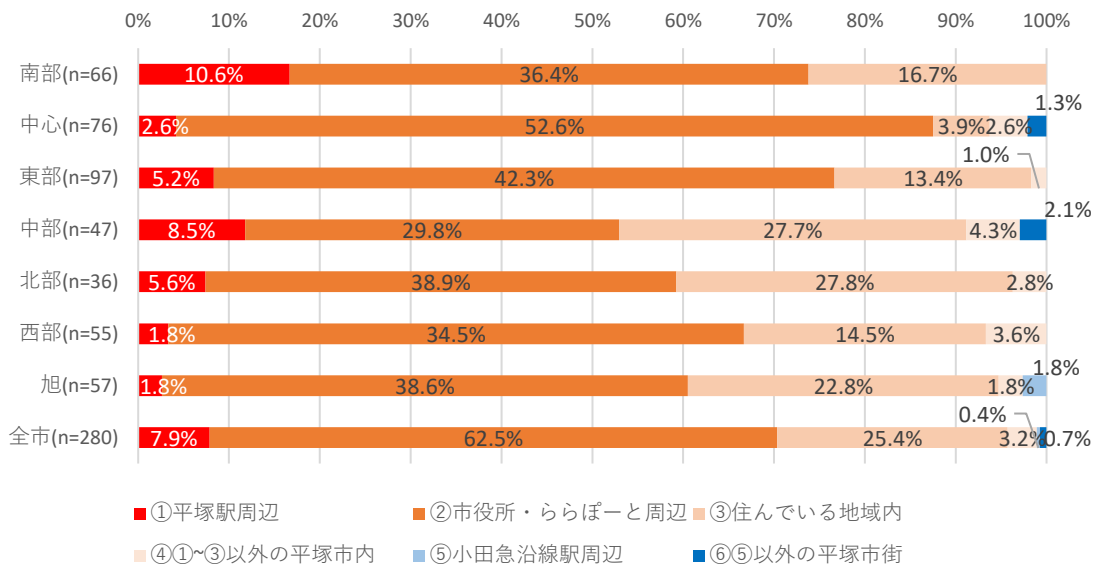
2-1-2目的先（病院・診療所）×1-3居住地域



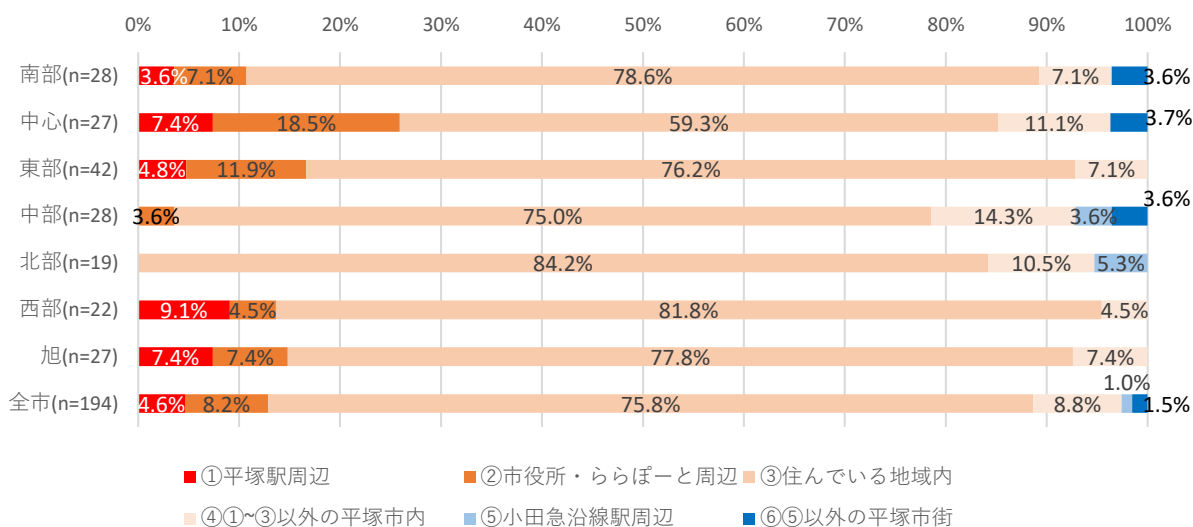
2-1-2目的先（通勤・通学）×1-3居住地域



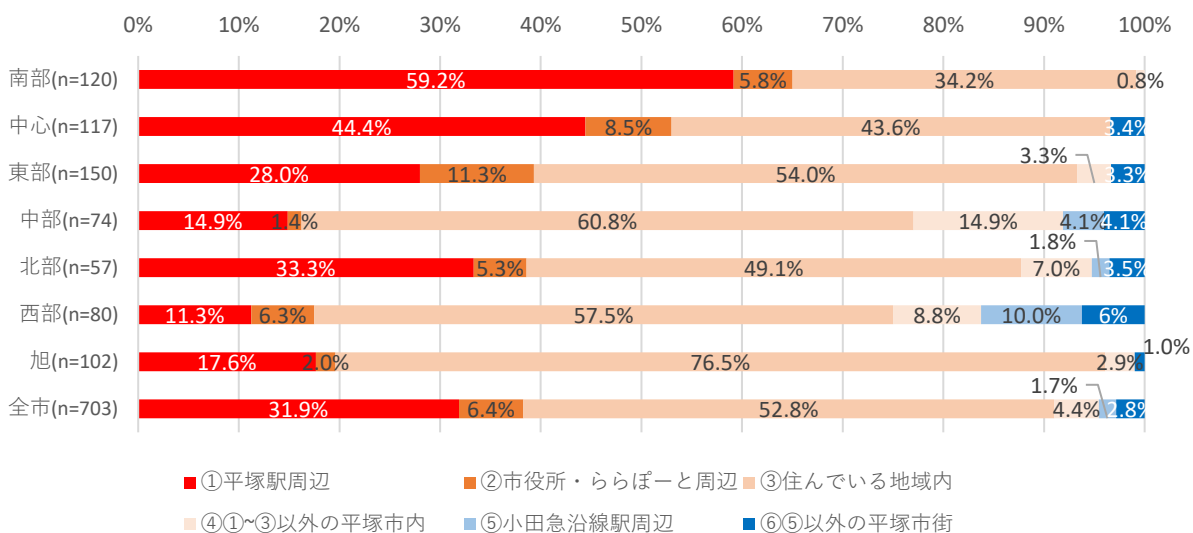
2-1-2目的先（行政利用）×1-3居住地域



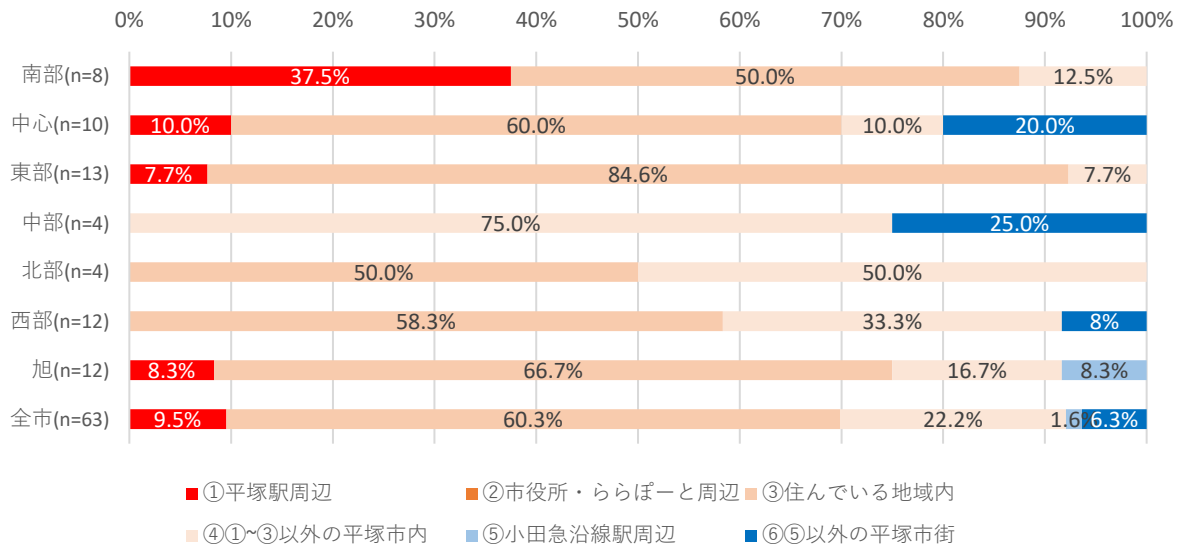
2-1-2目的先（コミュニティ施設の利用）×1-3居住地域



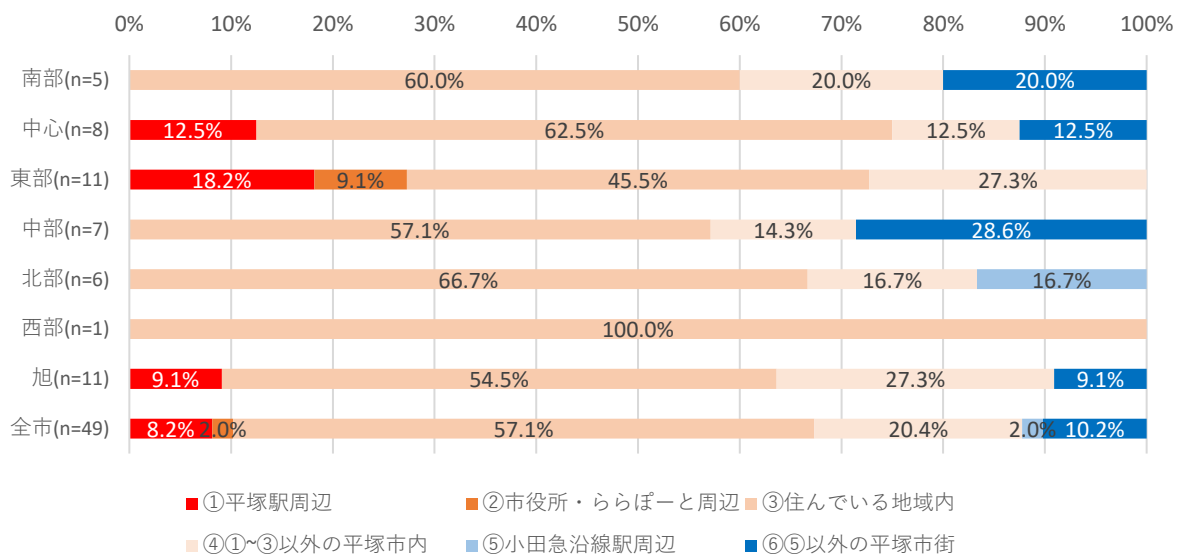
2-1-2目的先（郵便局・金融機関の利用）×1-3居住地域



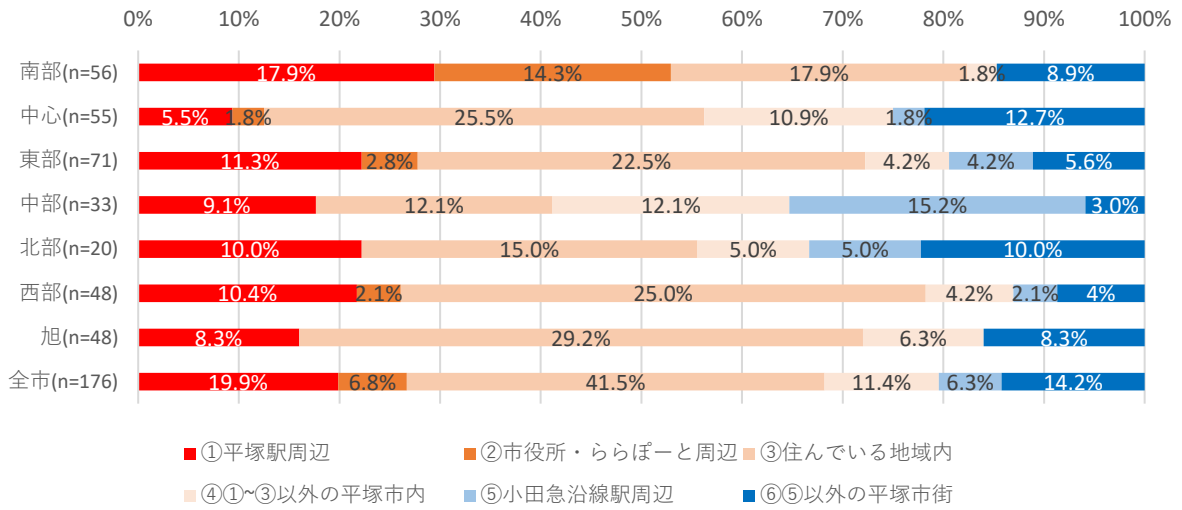
2-1-2目的先（幼稚園・保育園等への送迎）×1-3居住地域



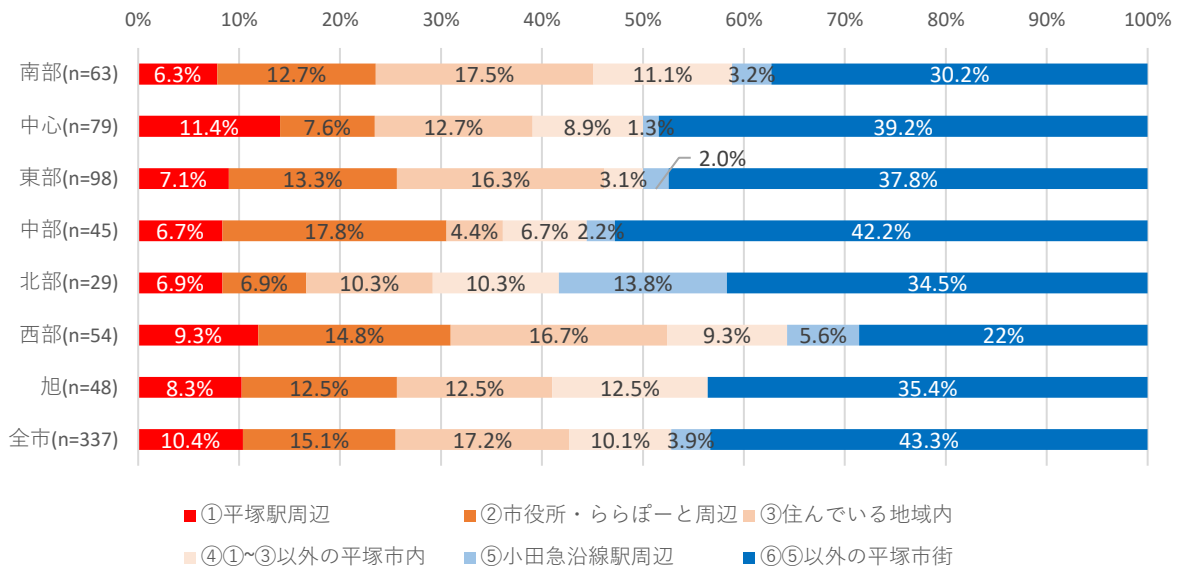
2-1-2目的先（福祉・介護施設の利用）×1-3居住地域



2-1-2目的先（文化活動・趣味）×1-3居住地域



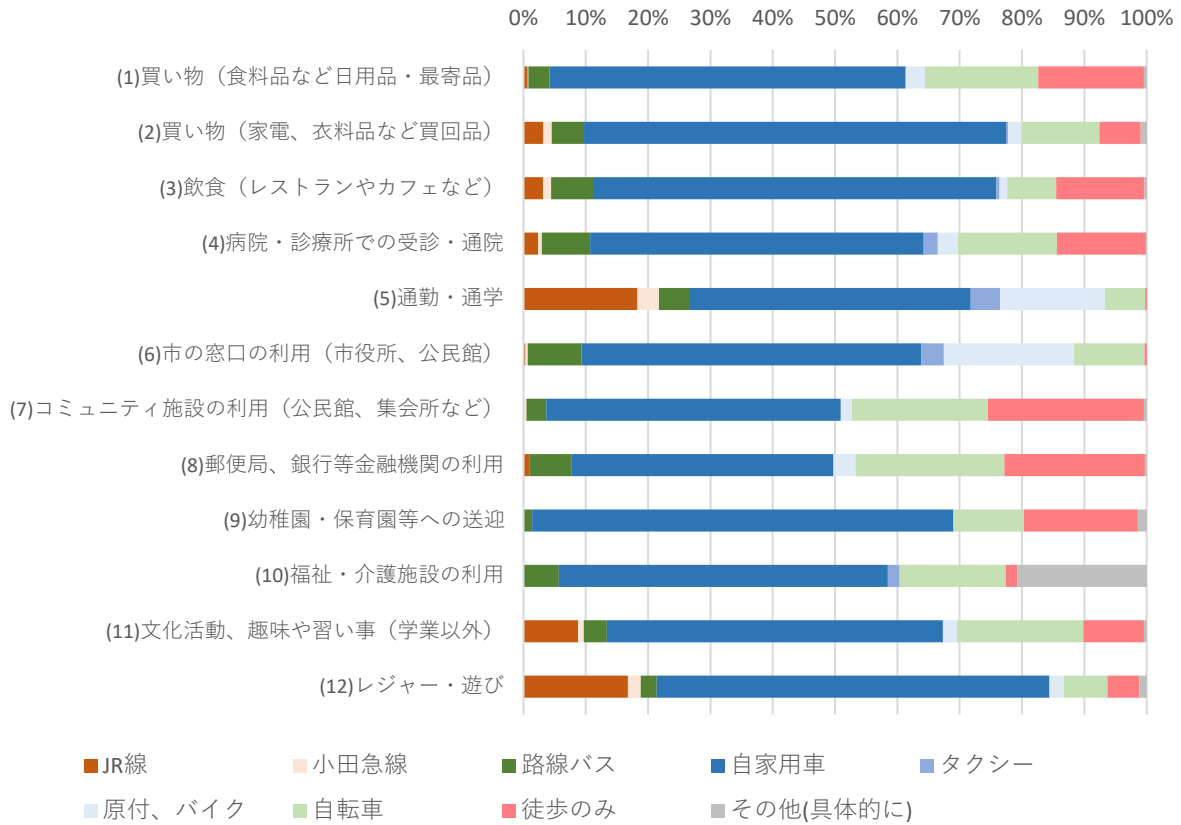
2-1-2目的先（レジャー・遊び）×1-3居住地域



問 2-1-3 移動手段

・全般に、「自家用車」での移動が多い。

2-1-3 移動手段



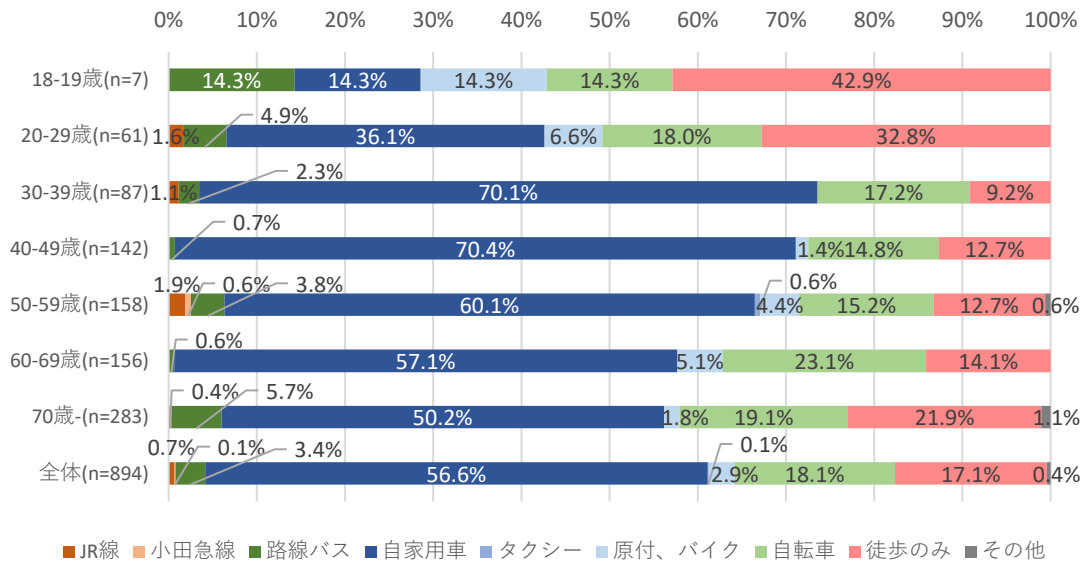
	(1)買い物 (食料品など日用品・最寄品)	(2)買い物 (家電、衣料品など買回品)	(3)飲食 (レストランやカフェなど)	(4)病院・診療所での受診・通院	(5)通勤・通学	(6)市の窓口の利用 (市役所、公民館)	(7)コミュニティ施設の利用 (公民館、集会所など)	(8)郵便局、銀行等金融機関の利用	(9)幼稚園・保育園等への送迎	(10)福祉・介護施設の利用	(11)文化活動、趣味や習い事 (学業以外)	(12)レジャー・遊び
JR線	0.7%	3.2%	3.1%	2.4%	18.5%	0.3%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	8.8%	16.9%
小田急線	0.1%	1.3%	1.3%	0.6%	3.4%	0.3%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	2.1%
路線バス	3.4%	5.2%	6.9%	7.7%	4.9%	8.6%	3.2%	6.7%	1.4%	5.7%	3.7%	2.6%
自家用車	57.0%	67.7%	64.5%	53.5%	44.8%	54.6%	47.1%	41.9%	67.6%	52.8%	53.9%	62.9%
タクシー	0.1%	0.3%	0.5%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	1.9%	0.0%	0.0%
原付、バイク	3.0%	2.3%	1.3%	3.2%	4.7%	3.6%	1.8%	3.5%	0.0%	0.0%	2.3%	2.3%
自転車	18.1%	12.6%	8.0%	16.0%	16.7%	20.9%	21.7%	24.1%	11.3%	17.0%	20.3%	7.0%
徒歩のみ	17.1%	6.6%	14.1%	14.3%	6.7%	11.3%	25.3%	22.5%	18.3%	1.9%	9.7%	5.1%
その他(具体的に)	0.4%	0.9%	0.3%	0.1%	0.2%	0.3%	0.5%	0.3%	1.4%	20.8%	0.5%	1.2%
回答者数	894	755	637	677	466	302	221	747	71	53	217	431

▶1-2 年齢とのクロス集計

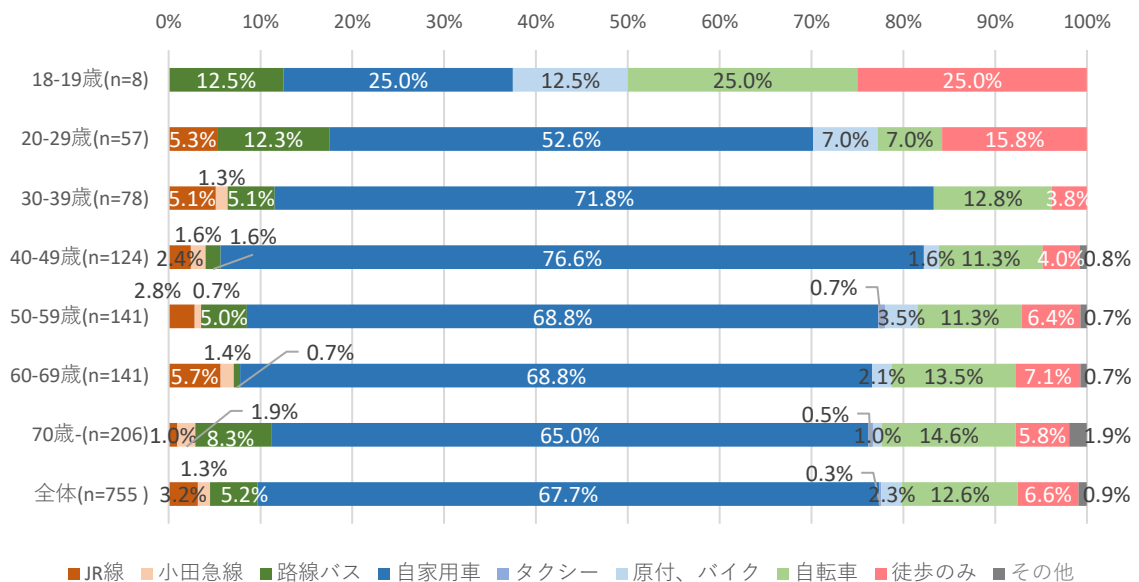
各世代の活動別で、利用する移動手段の大きな傾向を把握する。

- ・年齢別では、20代までは日用品の買い物や飲食での自家用車の利用が比較的少なく、徒歩が多い。30代以上ではいずれの利用目的でも、自家用車の利用が多い。

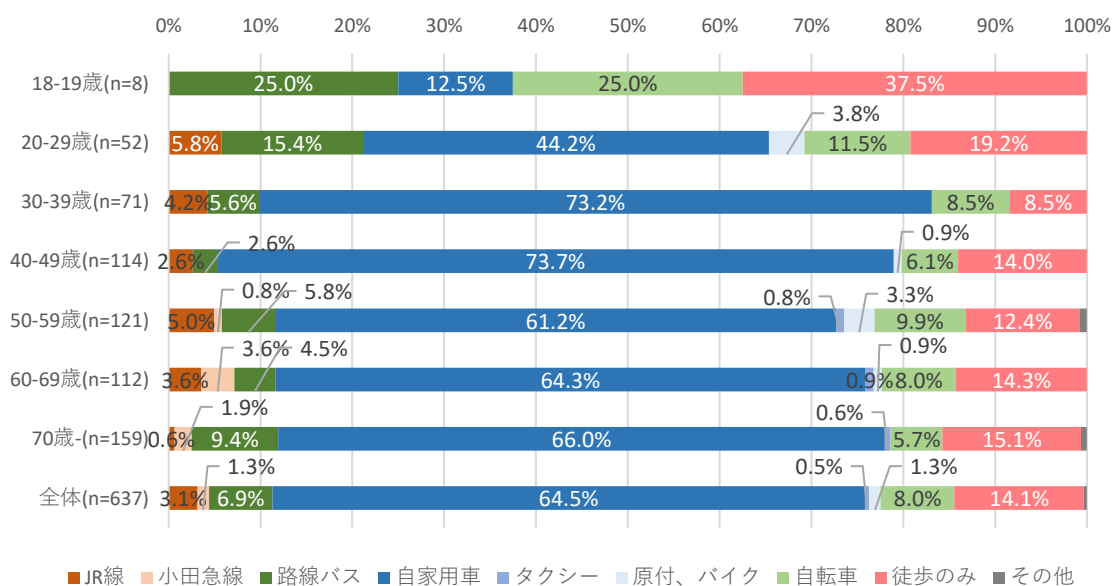
2-1-3移動手段（買い物：日用品）×1-2年齢



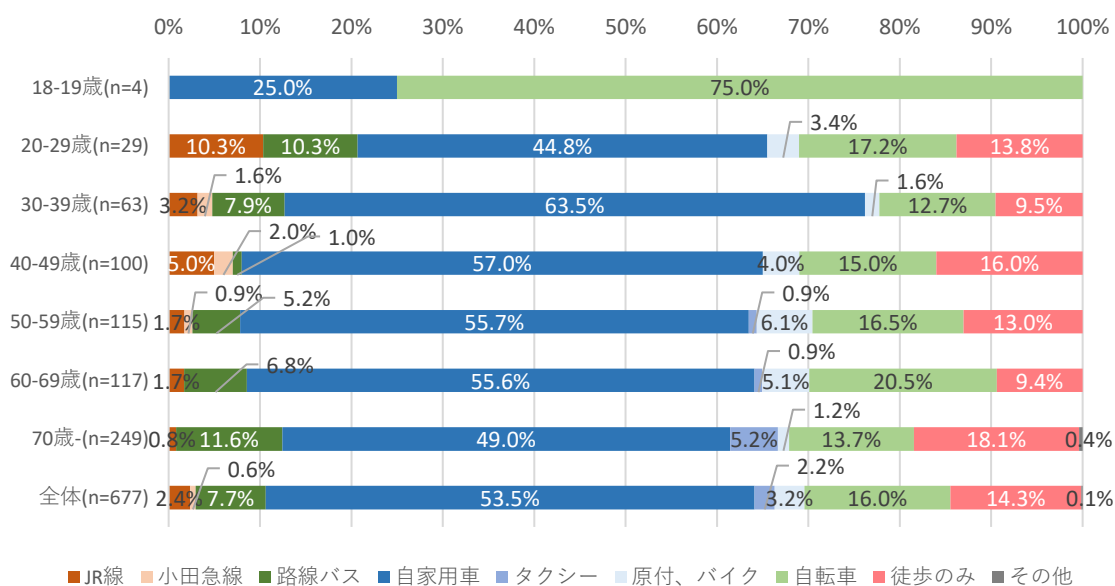
2-1-3移動手段（買い物：買回品）×1-2年齢



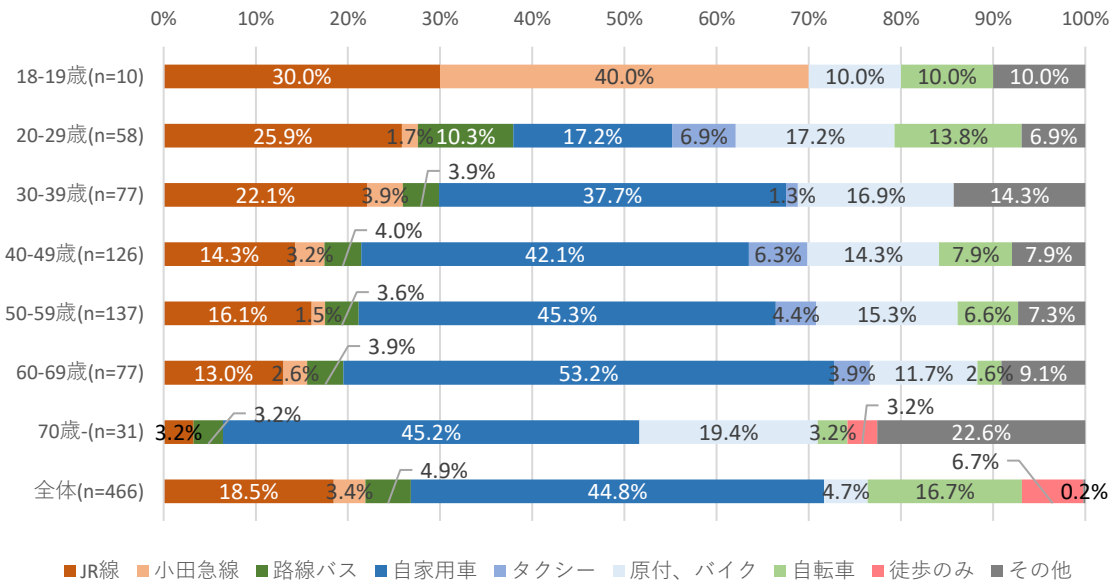
2-1-3移動手段（飲食）×1-2年齢



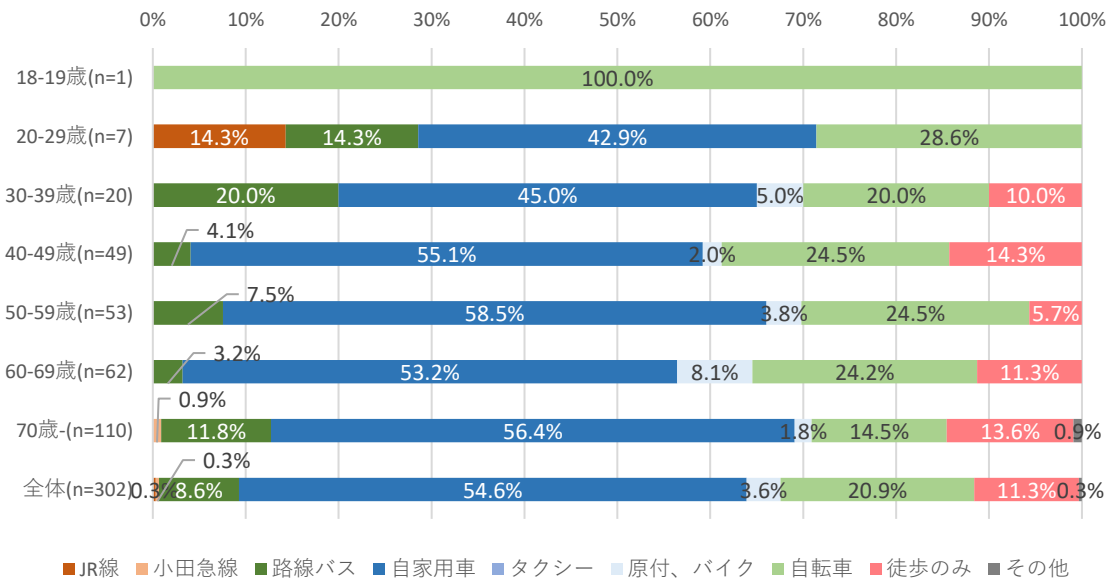
2-1-3移動手段（病院・診療所）×1-2年齢



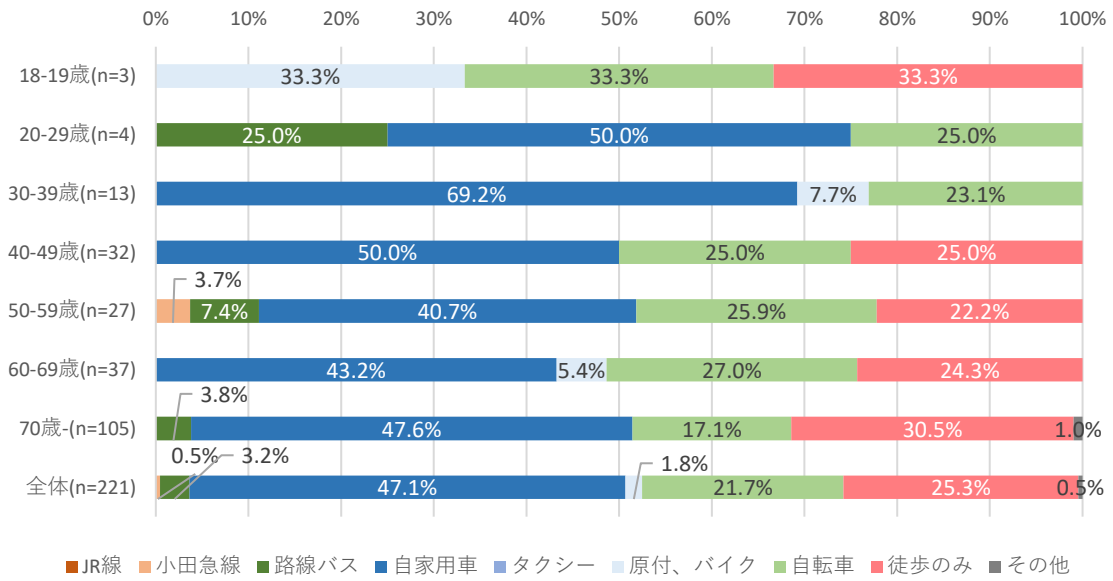
2-1-3移動手段（通勤・通学）×1-2年齢



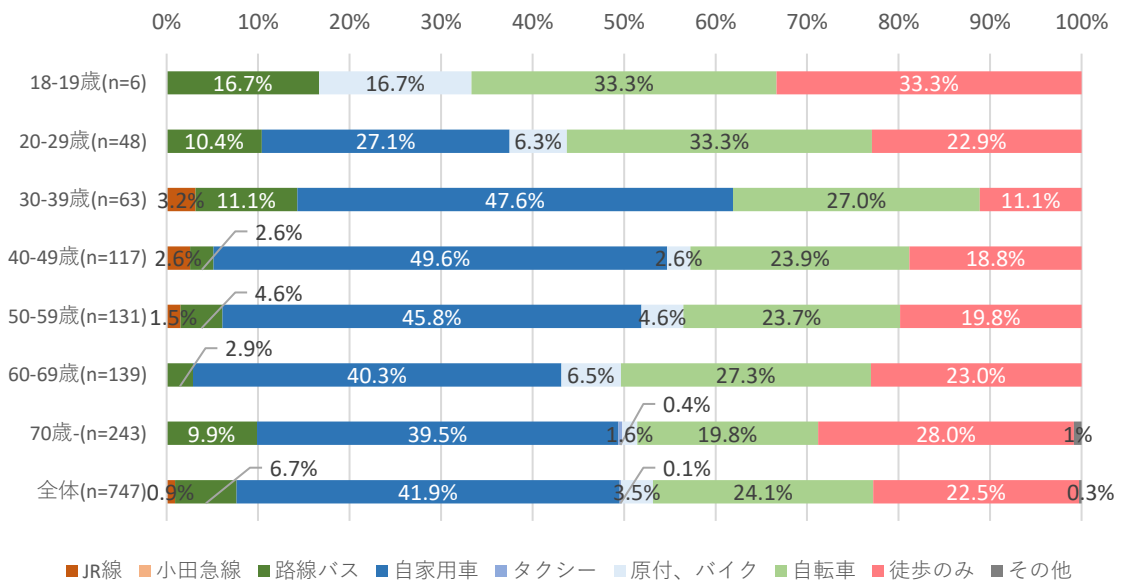
2-1-3移動手段（行政利用）×1-2年齢



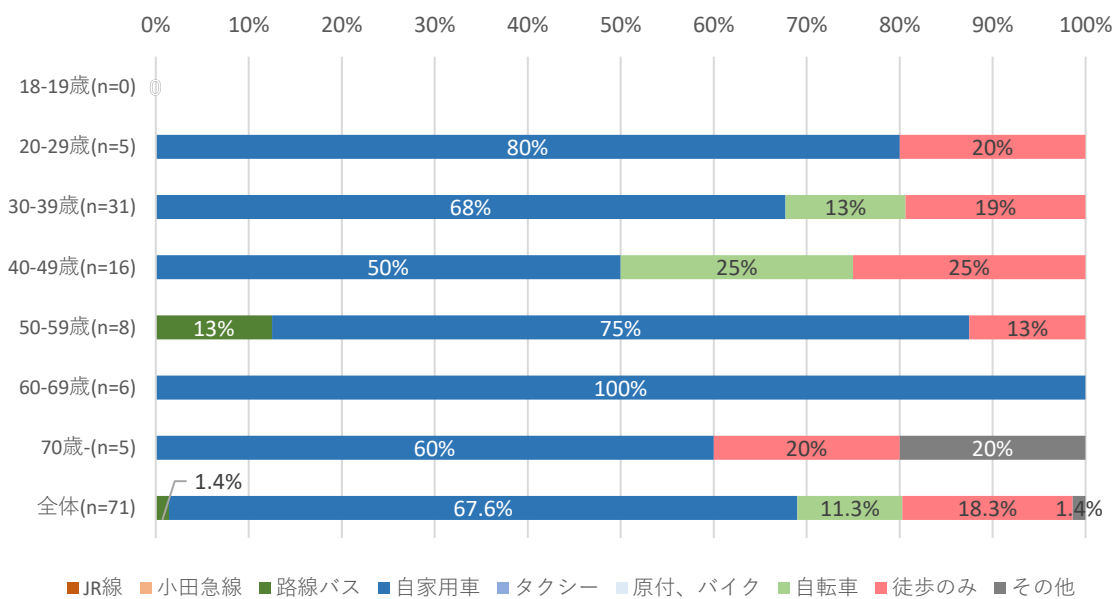
2-1-3移動手段（コミュニティ施設の利用）×1-2年齢



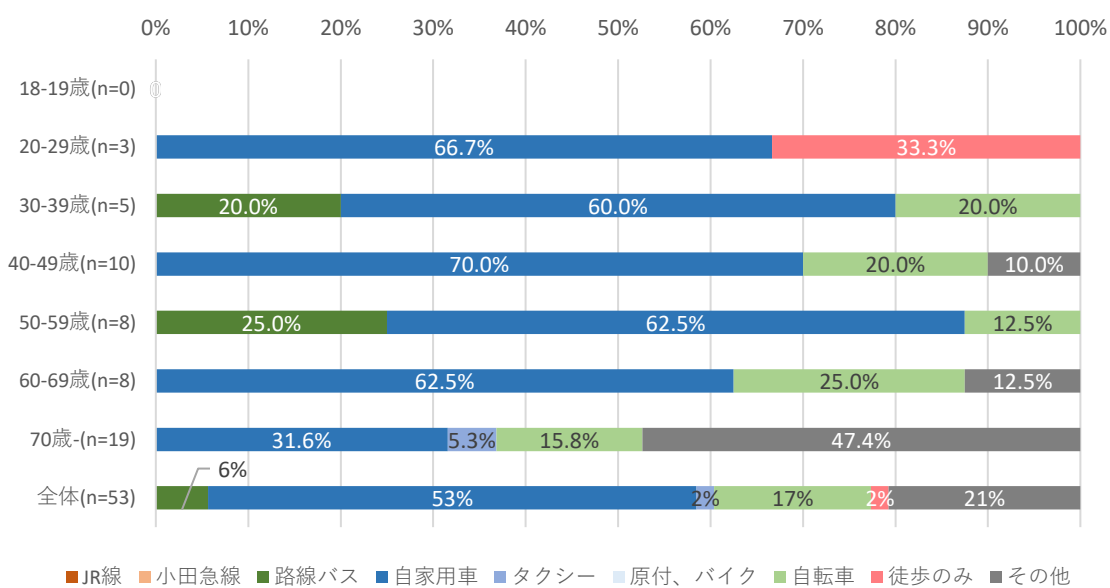
2-1-3移動手段（郵便局・金融機関）×1-2年齢



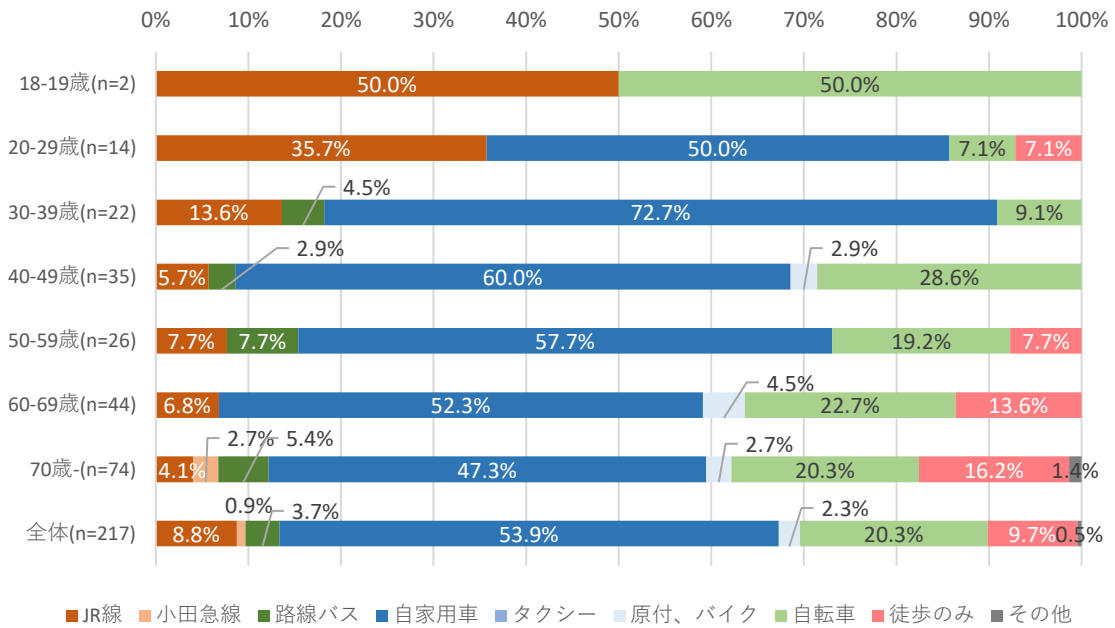
2-1-3移動手段（幼稚園・保育園等への送迎）×1-2年齢



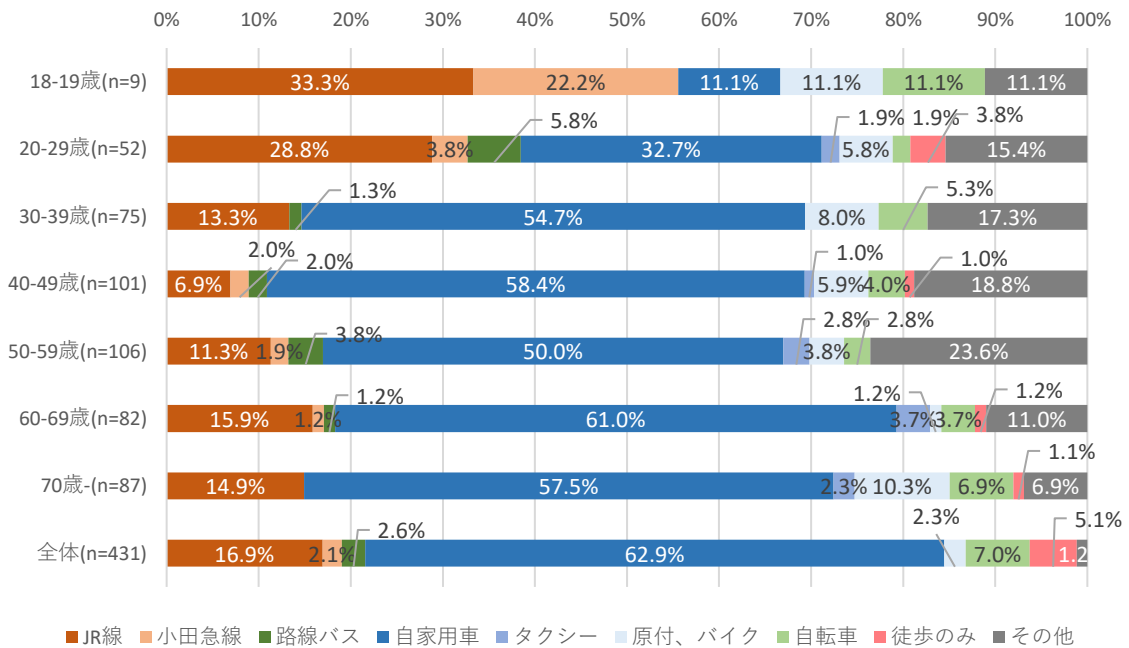
2-1-3移動手段（福祉・介護施設の利用）×1-2年齢



2-1-3移動手段（文化活動・趣味）×1-2年齢



2-1-3移動手段（レジャー・遊び）×1-2年齢

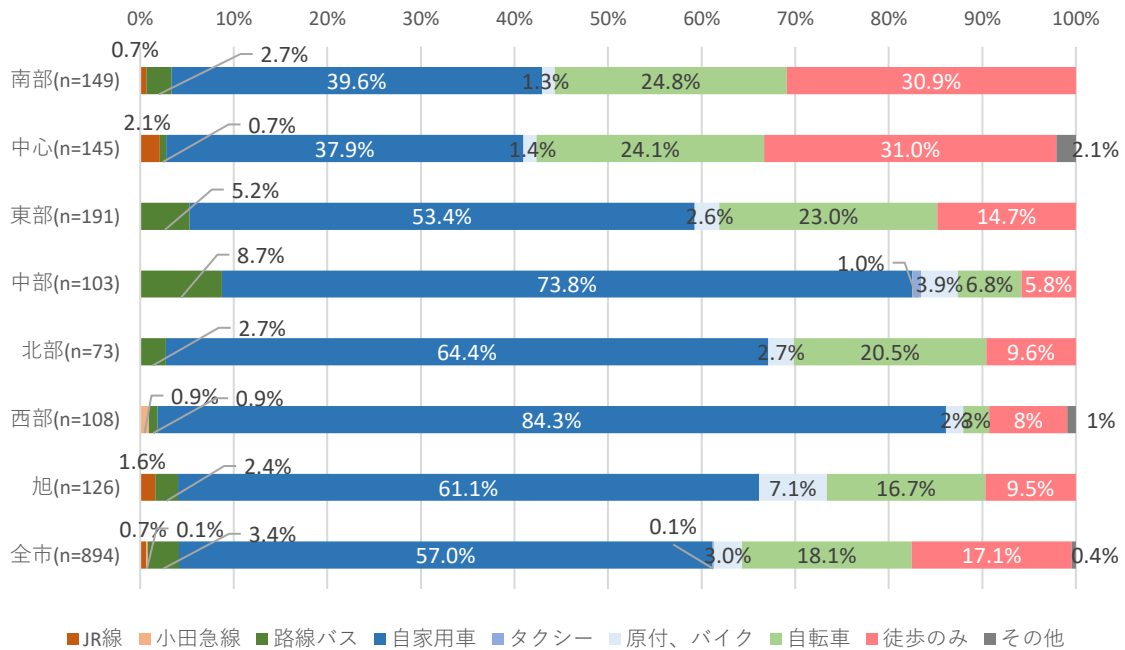


▶1-3 居住地域とのクロス集計

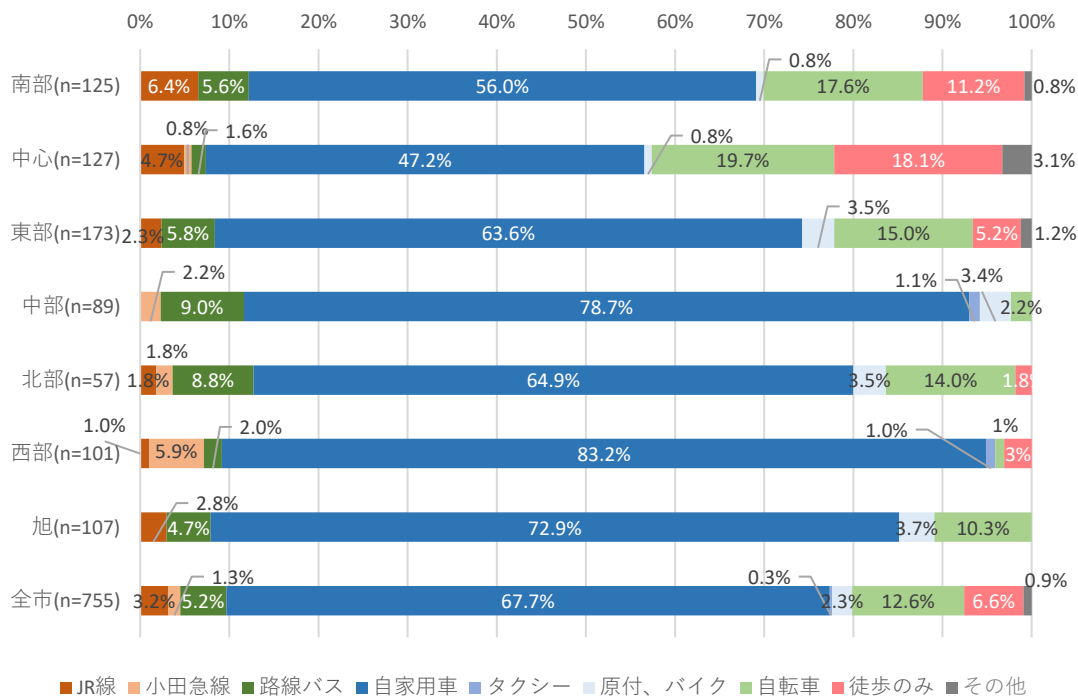
各地域の活動別で、利用する移動手段の大きな傾向を把握する。

- ・地域別では、南部・中心地域は、通勤・通学を除き、自転車や徒歩のみでの移動が比較的多い。中部・北部・西部・旭地域では自家用車での移動が多い。

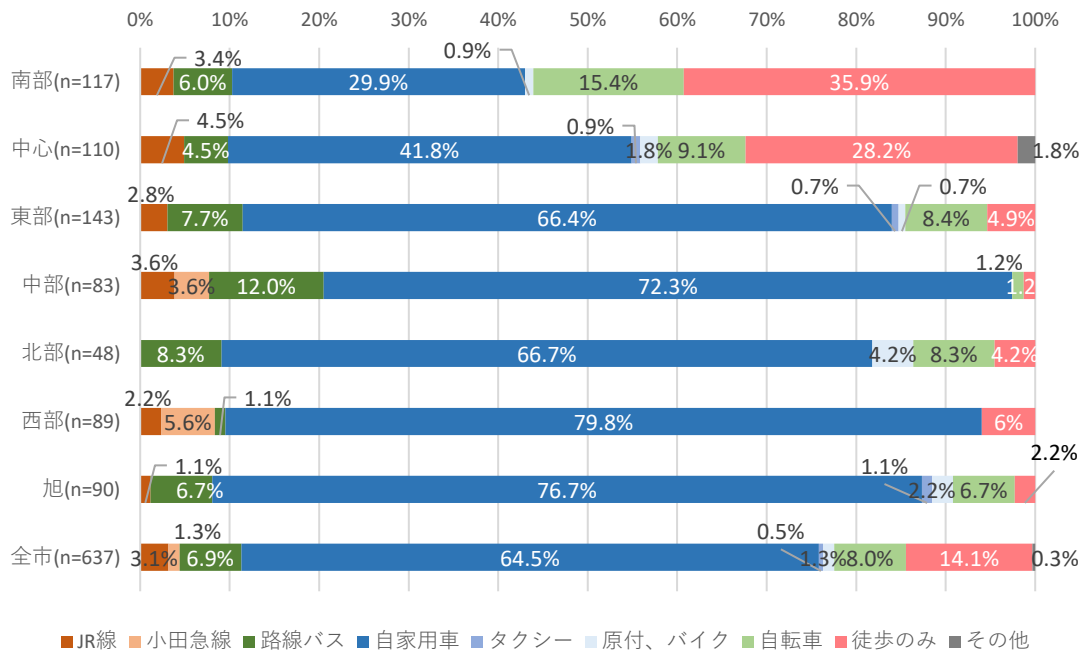
2-1-3移動手段（買い物：日用品）×1-3居住地域



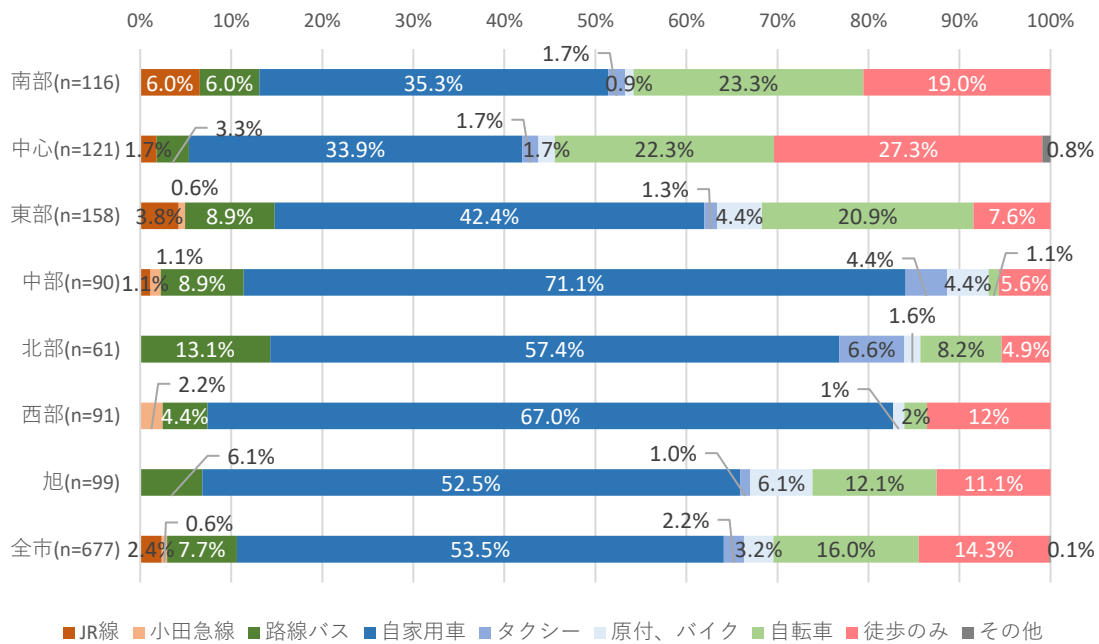
2-1-3移動手段（買い物：買回品）×1-3居住地域



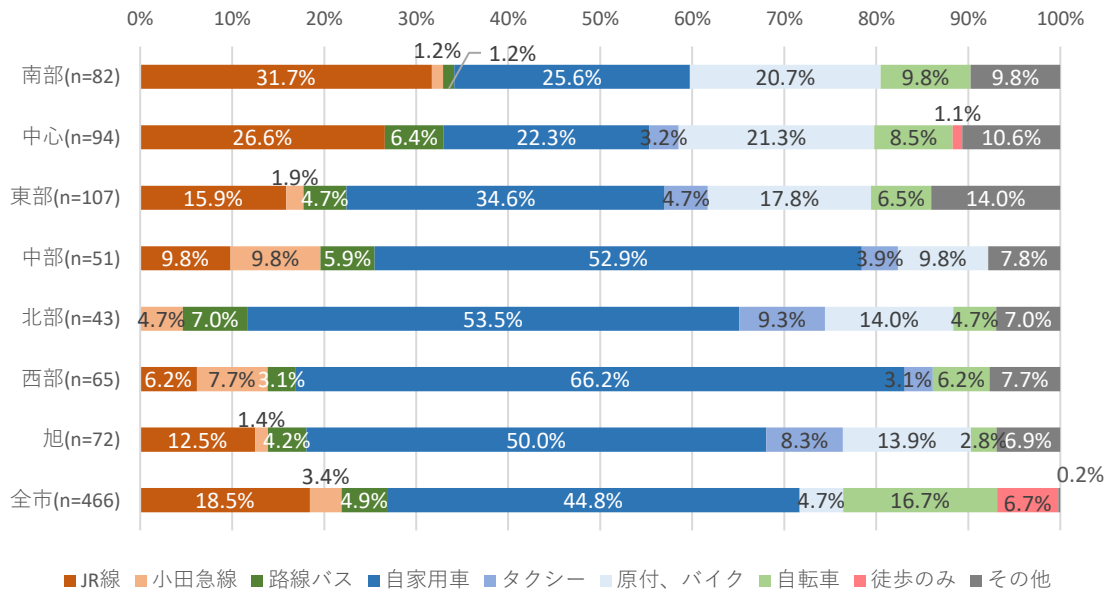
2-1-3移動手段（飲食）×1-3居住地域



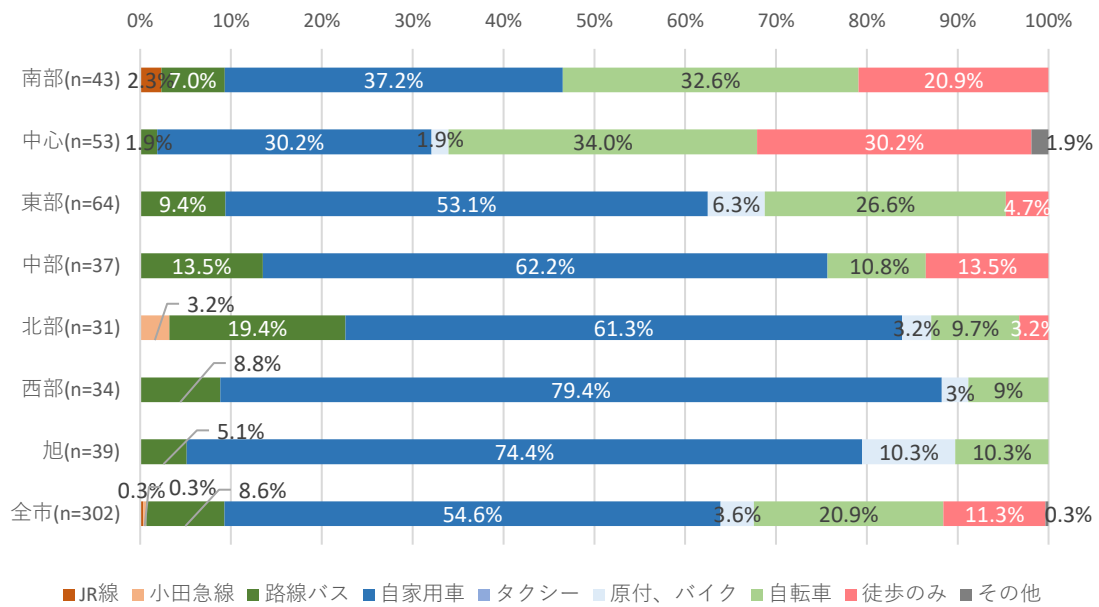
2-1-3移動手段（病院・診療所）×1-3居住地域



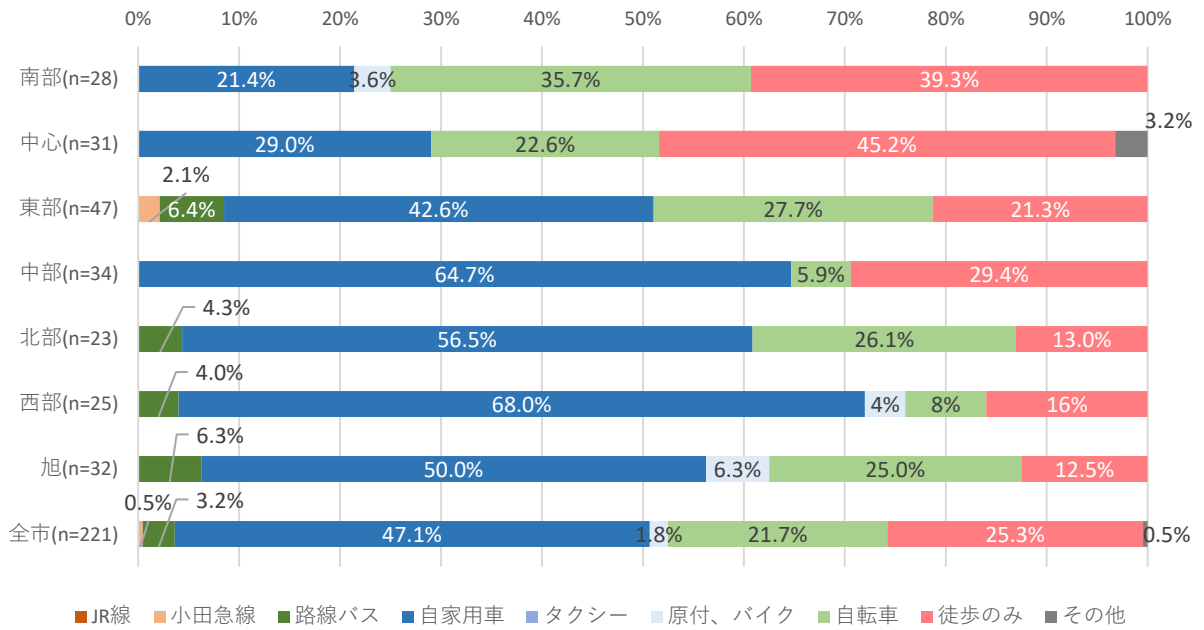
2-1-3移動手段（通勤・通学）×1-3居住地域



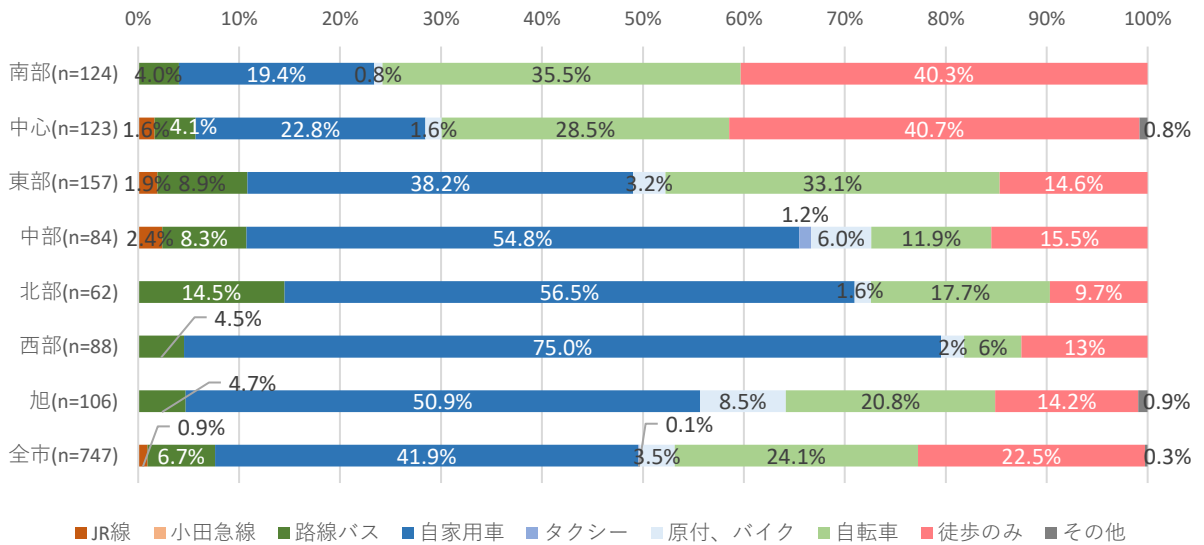
2-1-3移動手段（行政利用）×1-3居住地域



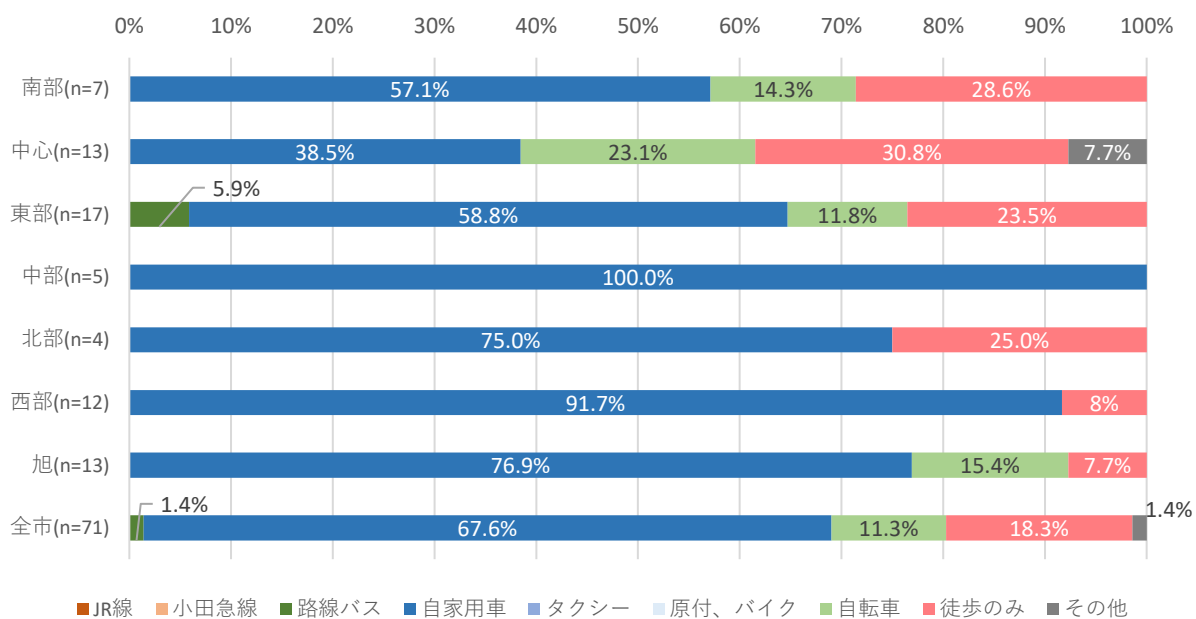
2-1-3移動手段（コミュニティ施設の利用）×1-3居住地域



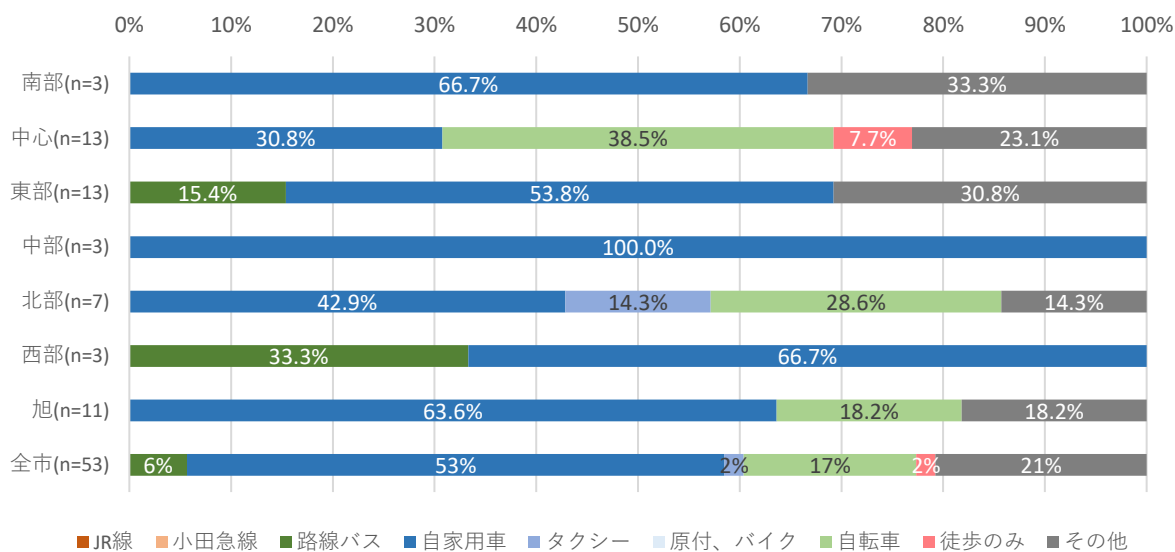
2-1-3移動手段（郵便局・金融機関の利用）×1-3居住地域



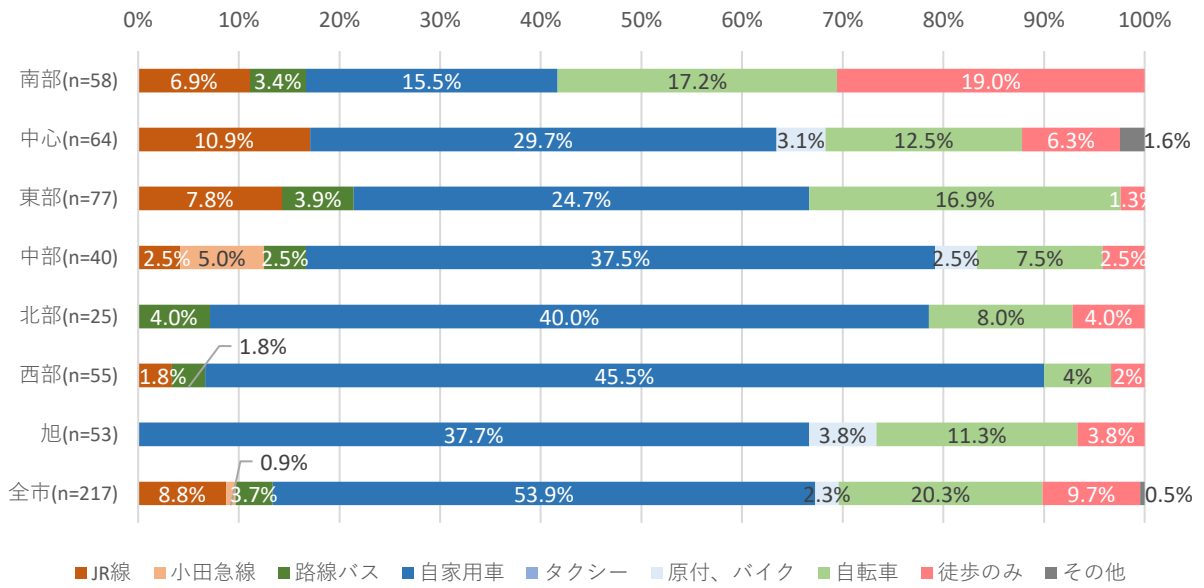
2-1-3移動手段（幼稚園・保育園等への送迎）×1-3居住地域



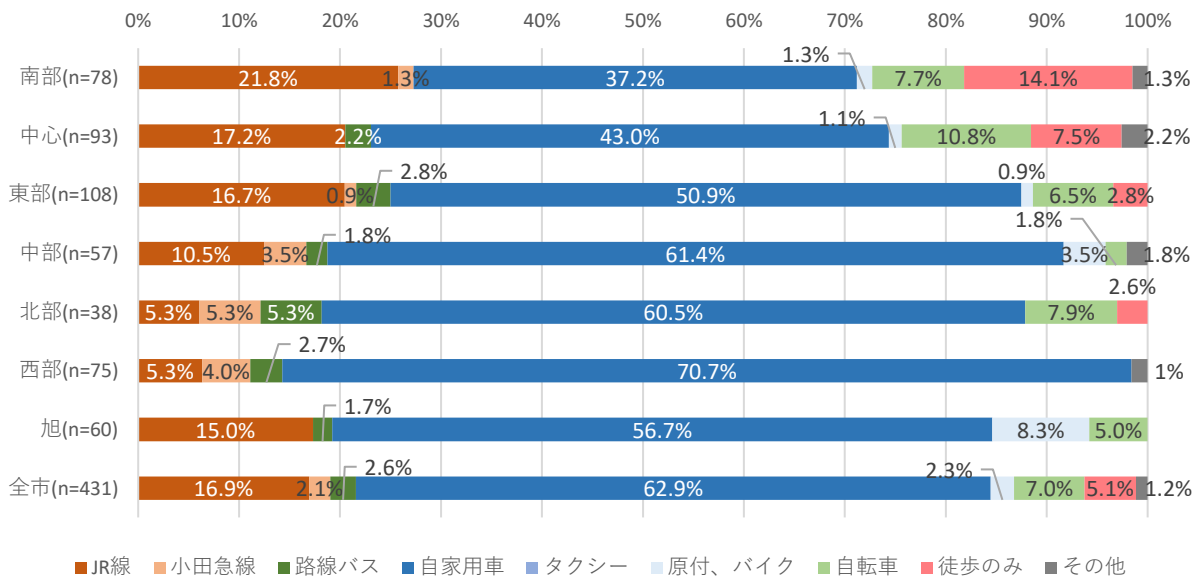
2-1-3移動手段（福祉・介護施設）×1-3居住地域



2-1-3移動手段（文化活動・趣味）×1-3居住地域



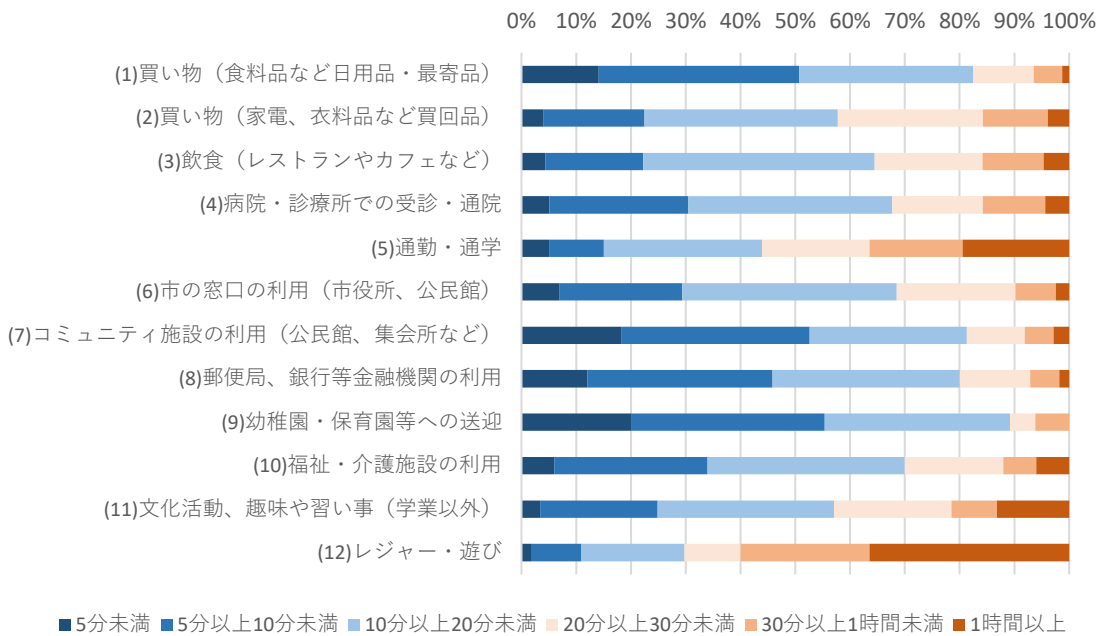
2-1-3移動手段（レジャー・遊び）×1-3居住地域



問 2-1-4 移動時間

- ・「5分未満」「5分以上10分未満」「10分以上20分未満」の合計で8割を超える活動は、「(1)買い物（食料品など日用品・最寄品）」「(7)コミュニティ施設の利用（公民館、集会所など）」「(9)幼稚園・保育園等への送迎」であり、短い移動時間での活動になる。
- ・他と比較して、「1時間以上」「30分以上1時間未満」の割合が多い活動は、「通勤・通学」「レジャー・遊び」になり、長い移動時間での活動になる。

2-1-4 移動時間



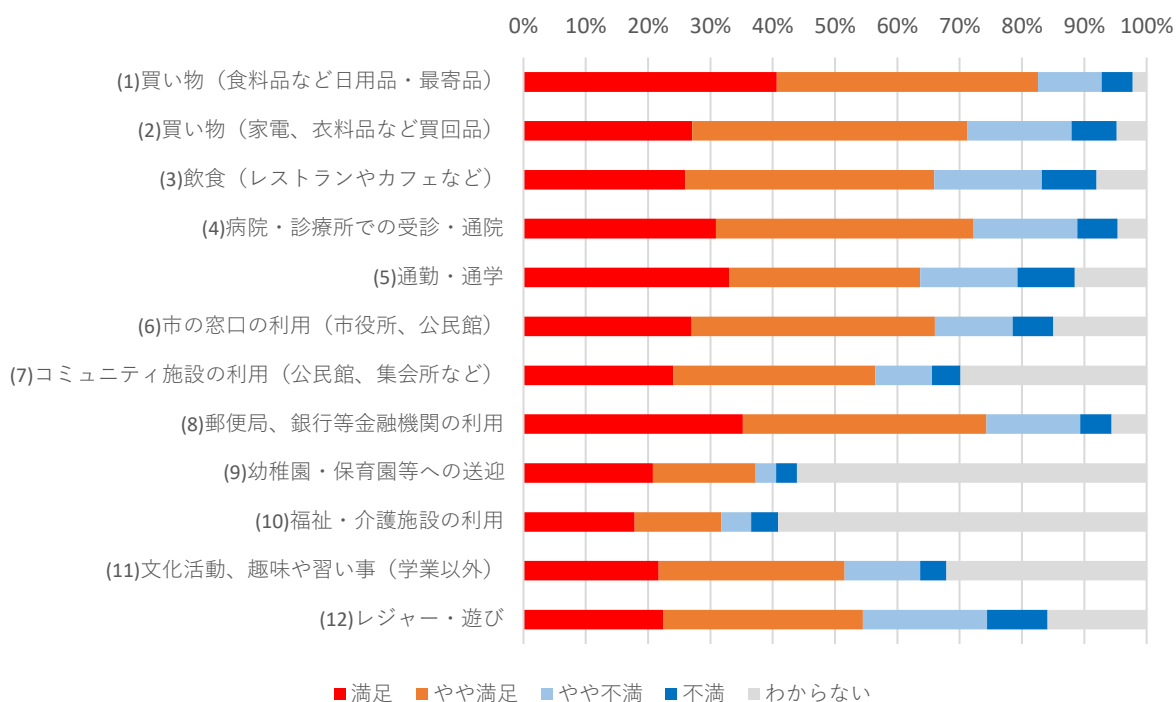
	(1)買い物 (食料品など日用品・最寄品)	(2)買い物 (家電、衣料品など買回品)	(3)飲食（レストランやカフェなど）	(4)病院・診療所での受診・通院	(5)通勤・通学	(6)市の窓口の利用（市役所、公民館）	(7)コミュニティ施設の利用（公民館、集会所など）	(8)郵便局、銀行等金融機関の利用	(9)幼稚園・保育園等への送迎	(10)福祉・介護施設の利用	(11)文化活動、趣味や習い事（学業以外）	(12)レジャー・遊び
5分未満	14.1%	4.0%	4.3%	5.1%	5.0%	7.0%	18.2%	12.0%	20.0%	6.0%	3.4%	1.9%
5分以上10分未満	36.6%	18.4%	17.9%	25.4%	10.0%	22.4%	34.4%	33.8%	35.4%	28.0%	21.5%	9.0%
10分以上20分未満	31.8%	35.3%	42.2%	37.2%	28.8%	39.2%	28.7%	34.2%	33.8%	36.0%	32.2%	18.8%
20分以上30分未満	11.0%	26.5%	19.7%	16.5%	19.7%	21.7%	10.5%	12.9%	4.6%	18.0%	21.5%	10.2%
30分以上1時間未満	5.2%	11.8%	11.2%	11.4%	17.0%	7.3%	5.3%	5.3%	6.2%	6.0%	8.3%	23.6%
1時間以上	1.3%	3.9%	4.6%	4.4%	19.4%	2.4%	2.9%	1.8%	0.0%	6.0%	13.2%	36.4%
回答者数	880	743	625	666	458	286	209	731	65	50	205	420

問 2-2 先の問 2-1 で回答した主な行き先までの移動手段や移動時間についてどのように感じていますか。また、コロナ禍により、令和 2 年 2 月以前と比べて外出頻度など変化しましたか。以下の各項目の満足度と外出頻度をそれぞれ 1 つ選んで番号に○を書いてください。(問 2-1 の「利用頻度」で⑥を選択した行動のご回答は不要です。)

問 2-2-1 満足度（移動手段や移動時間について）

- ・全般に、「満足」「やや満足」を合計した『満足している人』の割合が多く、満足度は高い傾向にある。
- ・「(9)幼稚園・保育園等への送迎」「(10)福祉・介護施設の利用」は、「わからない」の割合が5割を超え、非常に多い。「(7)コミュニティ施設の利用（公民館、集会所など）」、「(11)文化活動、趣味や習い事（学業以外）」も、「わからない」の割合が3割近くあり多い。

2-2-1 移動時間・手段の満足度



	(1)買い物 (食料品など日用品・最寄品)	(2)買い物 (家電、衣料品など買回品)	(3)飲食 (レストランやカフェなど)	(4)病院・診療所での受診・通院	(5)通勤・通学	(6)市の窓口の利用 (市役所、公民館)	(7)コミュニティ施設の利用 (公民館、集会所など)	(8)郵便局、銀行等金融機関の利用	(9)幼稚園・保育園等への送迎	(10)福祉・介護施設の利用	(11)文化活動、趣味や習い事 (学業以外)	(12)レジャー・遊び
満足	40.6%	27.1%	26.0%	30.9%	33.0%	27.0%	24.1%	35.2%	20.8%	17.8%	21.7%	22.5%
やや満足	41.9%	44.2%	39.9%	41.3%	30.7%	39.0%	32.4%	39.1%	16.5%	13.9%	29.9%	32.0%
やや不満	10.2%	16.7%	17.3%	16.7%	15.6%	12.4%	9.1%	15.0%	3.3%	4.8%	12.1%	19.9%
不満	4.9%	7.2%	8.8%	6.5%	9.2%	6.5%	4.6%	5.0%	3.3%	4.3%	4.2%	9.7%
わからない	2.3%	4.8%	8.0%	4.7%	11.5%	15.0%	29.9%	5.6%	56.1%	59.1%	32.1%	15.9%
回答者数	930	831	736	774	512	474	395	798	212	230	355	547

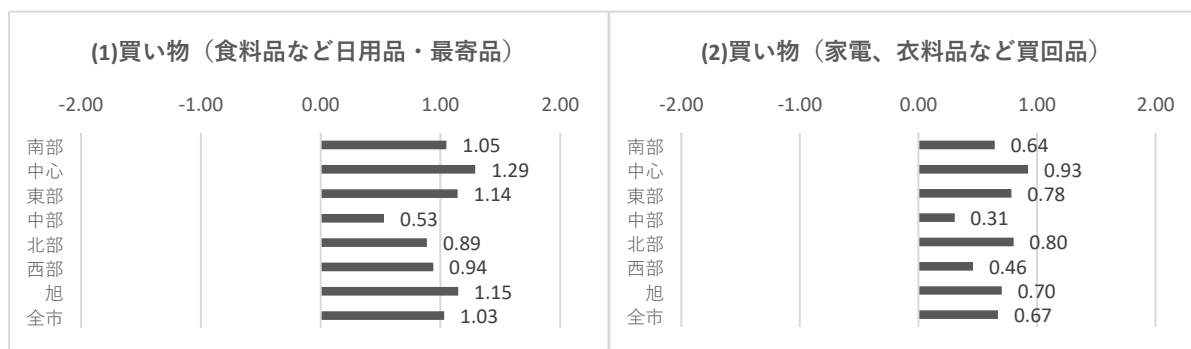
▶1-3 居住地域とのクロス集計

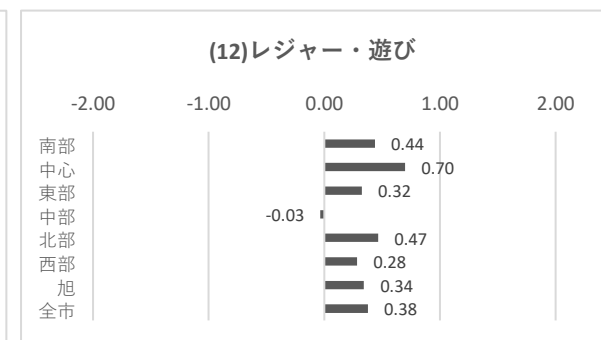
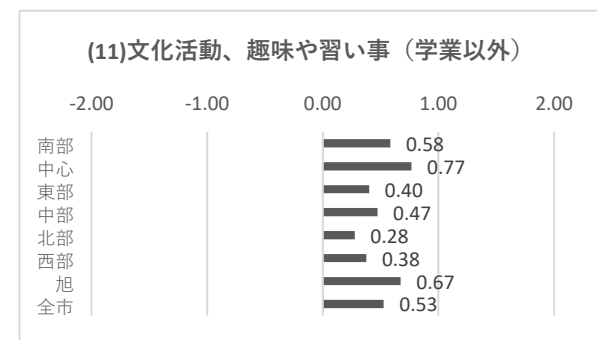
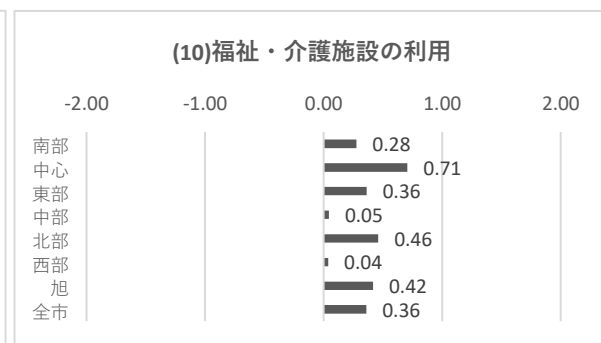
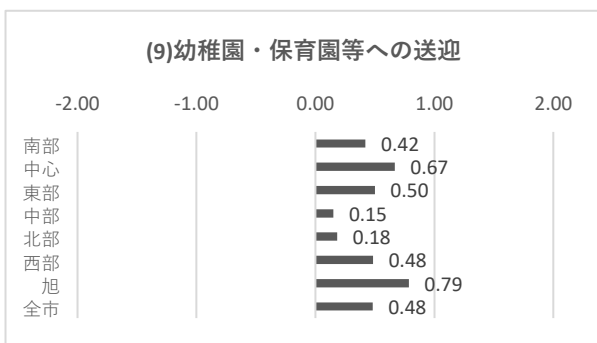
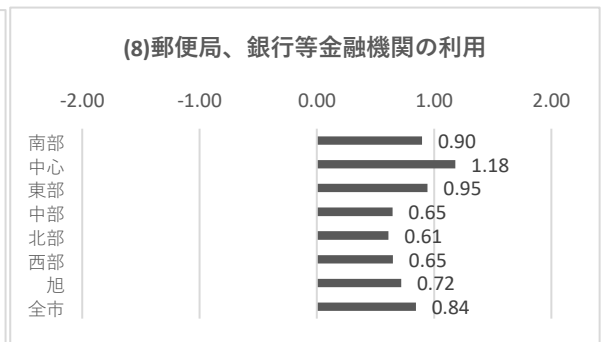
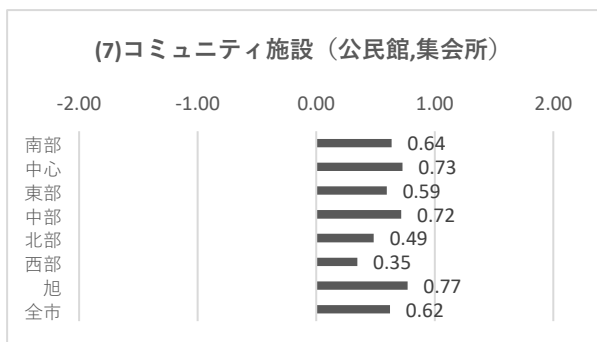
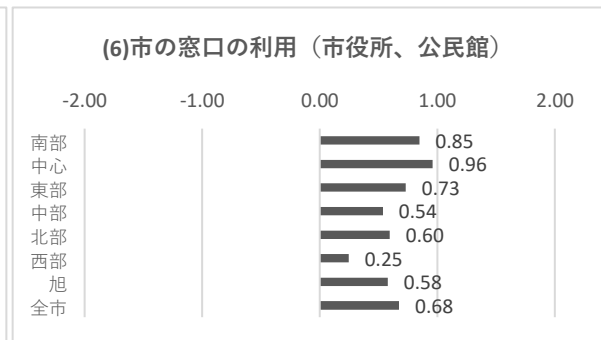
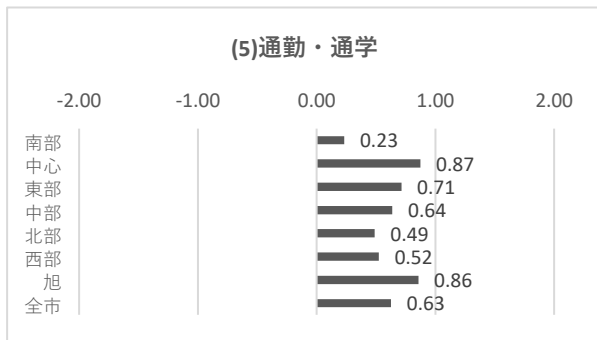
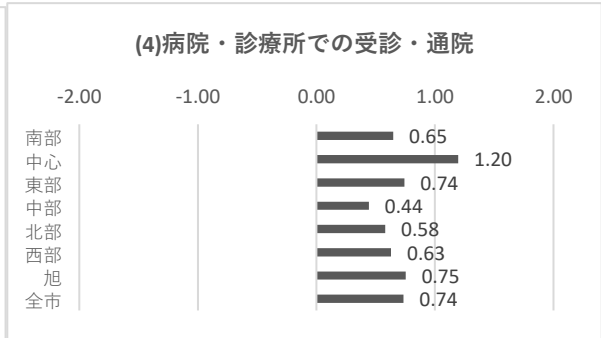
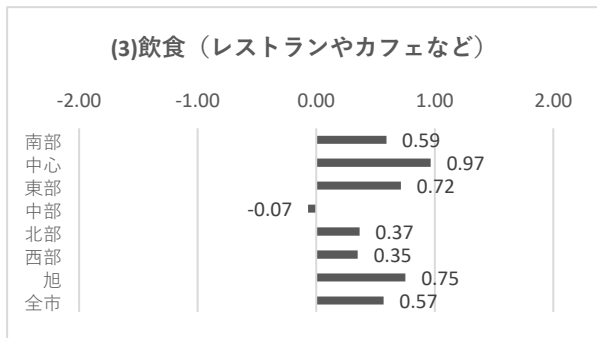
「満足」 = 2、「やや満足」 = 1、「やや不満」 = -1、「不満」 = -2 として、地域別で各施設への交通利便性の満足度の平均値を算出した。

- ・全市で見ると、「(1)買い物（食料品など日用品・最寄品）」の平均点が 1.03 と高く、比較的満足している。
- ・全体で見ると、中部地域・北部地域・西部地域が低くなる傾向にあり、中部地域での「飲食」「レジャー・遊び」で平均点が 0 以下となっていた。

●各地域での満足度

- ・「(1)買い物（食料品など日用品・最寄品）」は、各地域比較的高いが、中部地域のみ 0.53 と低くなる。
- ・「(2)買い物（家電、衣料品など買回品）」は、中部地域が 0.31、西部地域が 0.46 と低い。
- ・「(3)飲食（レストランやカフェなど）」は、中部地域が -0.07 と最も低い。次いで北部地域が 0.37、西部地域が 0.35 と低い。
- ・「(4)病院・診療所での受診・通院」は、中心地域が 1.2 と最も高く、中部地域が 0.44 と最も低い。
- ・「(5)通勤・通学」は、中心地域が 0.87、旭地域が 0.86 と高く、南部地域が 0.23 と最も低い。
- ・「(6)市の窓口の利用（市役所、公民館）」は、中心地域が 0.96 と最も高く、西部地域が 0.25 と最も低い。
- ・「(7)コミュニティ施設の利用（公民館、集会所など）」は、西部地域が 0.35 と最も低い。
- ・「(8)郵便局、銀行等金融機関の利用」は、中心地域が 1.18 と最も高い。
- ・「(9)幼稚園・保育園等への送迎」は、旭地域が 0.79 と最も高く、中部地域が 0.15、北部地域が 0.18 と最も低い。
- ・「(10)福祉・介護施設の利用」は、中心地域が 0.71 と最も高く、西部地域が 0.04、中部地域が 0.05 と低い。
- ・「(11)文化活動、趣味や習い事（学業以外）」は、中心地域が 0.77、旭地域が 0.67 と高く、北部地域 0.28、西部地域が 0.38 と低い。
- ・「(12)レジャー・遊び」は、中心地域が 0.70 と最も高く、中部地域が -0.03 と最も低い。

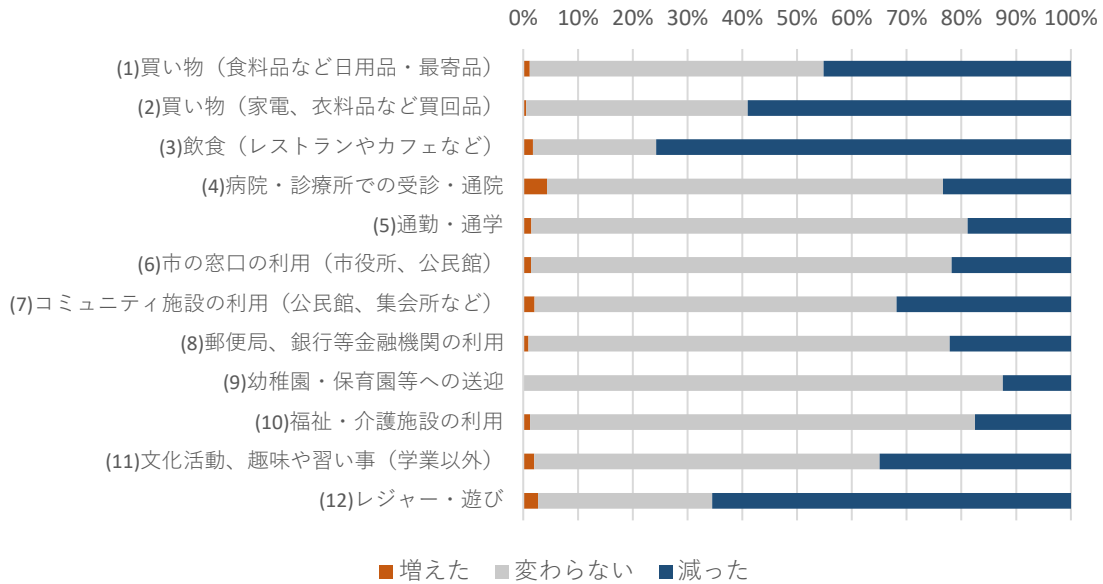




問 2-2-2 コロナ禍での外出頻度変化

・「(2)買い物（家電、衣料品など買回品）」(59.0%)「(3)飲食（レストラン・カフェなど）」(75.7%)、「(12)レジャー・遊び」(65.5%)は、「減った」が5割を超え、外出頻度の変化が大きい傾向が見られる。その他の回答では、「変わらない」が多い傾向にある。

2-2-2 コロナ禍での外出頻度変化

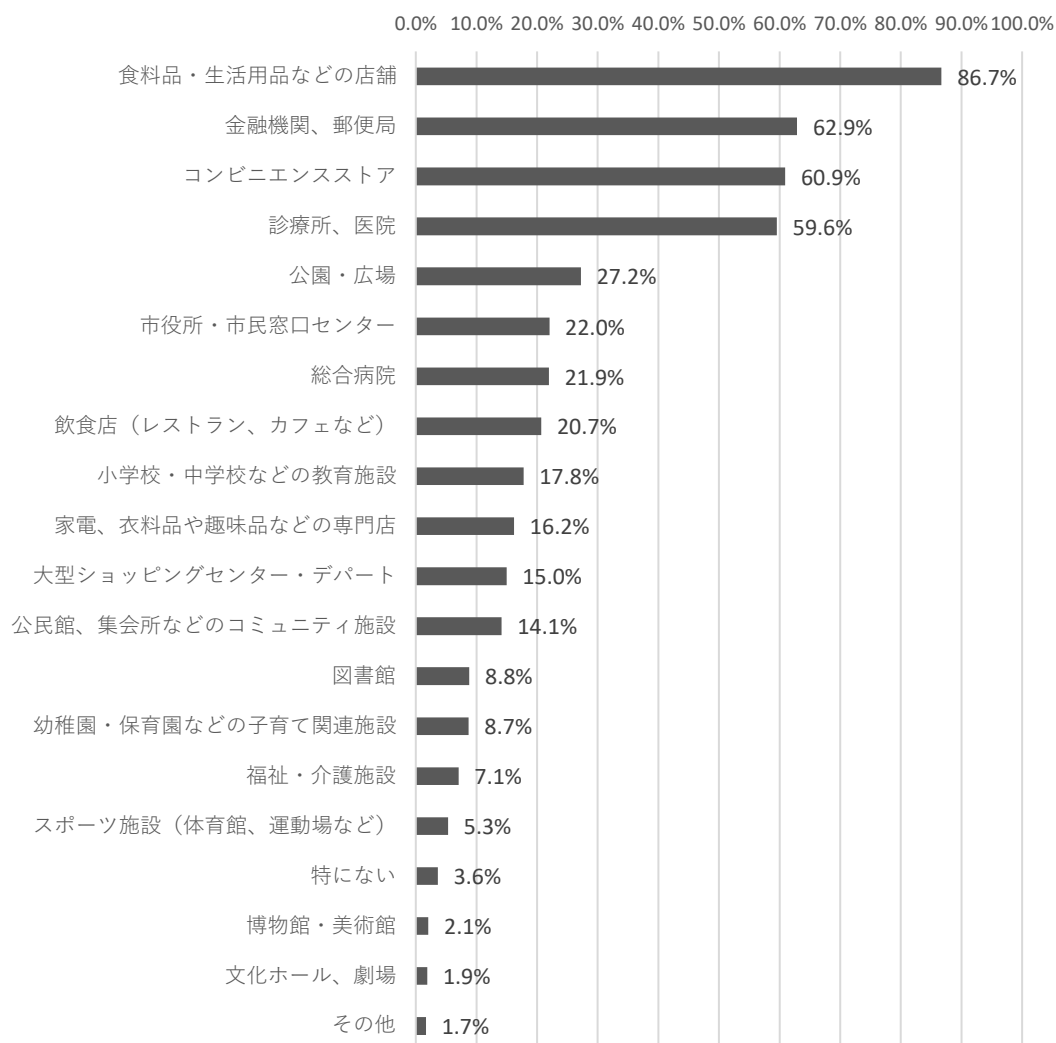


	(1)買い物 (食料品など日用品・最寄品)	(2)買い物 (家電、衣料品など買回品)	(3)飲食（レストランやカフェなど）	(4)病院・診療所での受診・通院	(5)通勤・通学	(6)市の窓口の利用（市役所、公民館）	(7)コミュニティ施設の利用（公民館、集会所など）	(8)郵便局、銀行等金融機関の利用	(9)幼稚園・保育園等への送迎	(10)福祉・介護施設の利用	(11)文化活動、趣味や習い事（学業以外）	(12)レジャー・遊び
増えた	1.2%	0.5%	1.8%	4.3%	1.5%	1.4%	2.1%	1.0%	0.0%	1.3%	2.0%	2.7%
変わらない	53.7%	40.5%	22.5%	72.3%	79.7%	76.8%	66.1%	76.9%	87.6%	81.3%	63.1%	31.8%
減った	45.2%	59.0%	75.7%	23.3%	18.8%	21.8%	31.8%	22.1%	12.4%	17.5%	34.9%	65.5%
回答者数	846	754	683	690	467	422	336	733	153	160	298	513

問 2-3 日常生活において自宅周辺(徒歩圏)に欠かせないと考える施設

・「食料品・生活用品などの店舗」(86.7%)が最も多い。次いで、「金融機関、郵便局」(62.9%)、「コンビニエンスストア」(60.9%)、「診療所、医院」(59.6%)と多い。これらが、徒歩圏内に必要不可欠な施設として挙げられている。

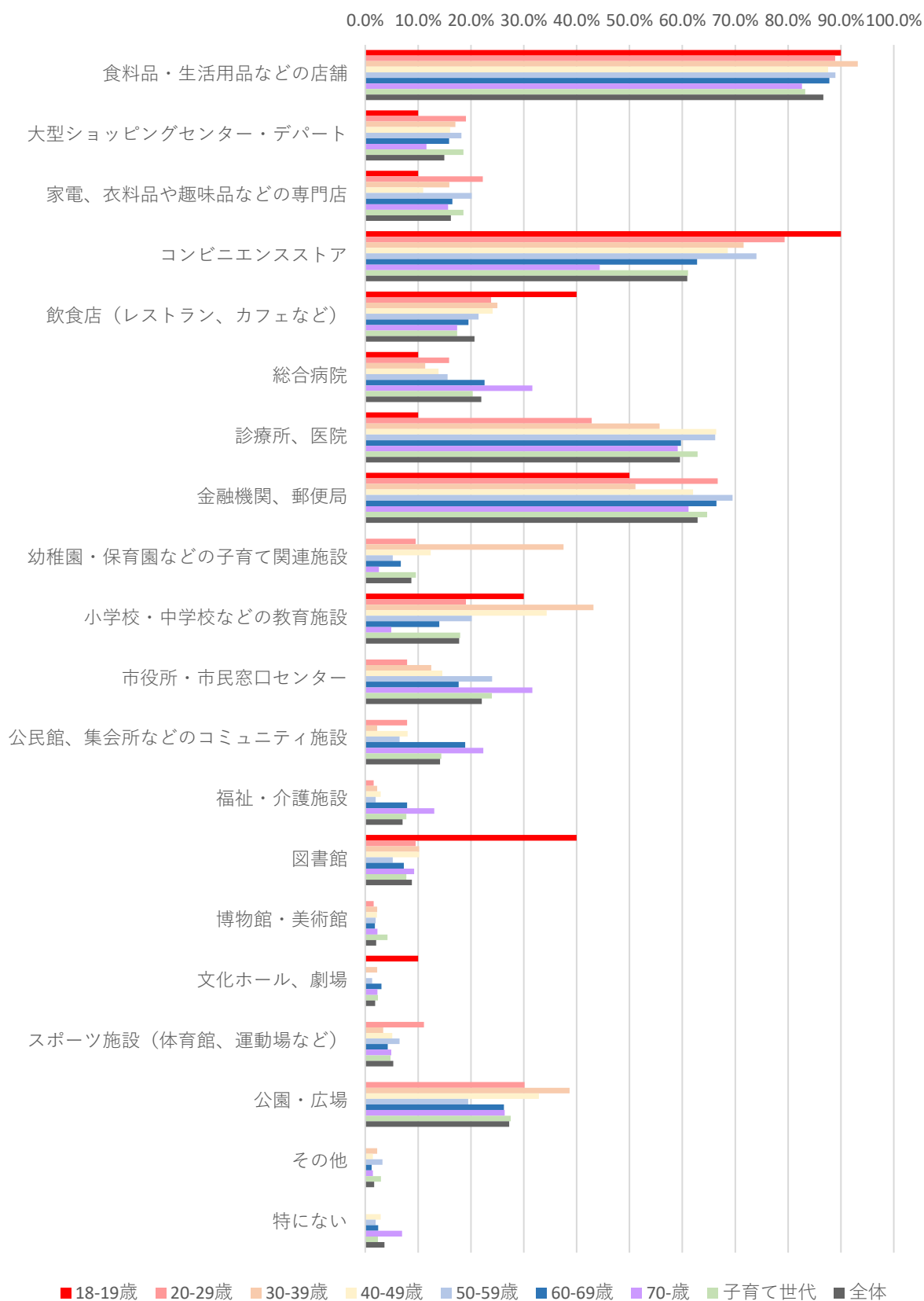
2-3 日常生活において自宅周辺(徒歩圏)に欠かせないと考える施設
(複数回答,n=962)



▶1-2 年齢・1-6 子育て世代とのクロス集計

各年齢と子育て世代が徒歩圏内に求めている施設の大まかな傾向を把握する。

- ・子育て世代も合わせて、全年齢層で「食料品・生活用品などの店舗」が最も高い。

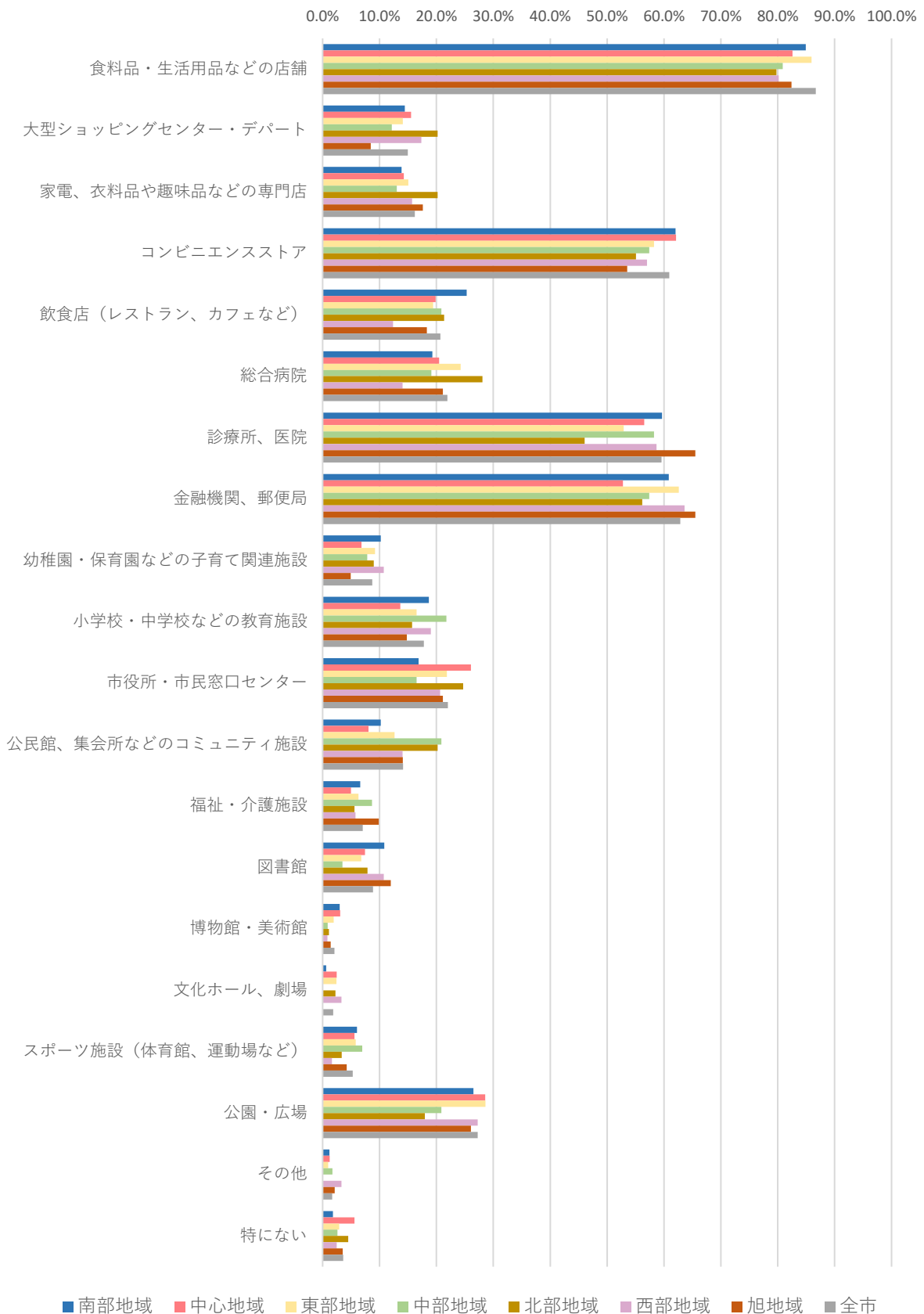


	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-歳	子育て世代	全体
食料品・生活用品などの店舗	90.0%	88.9%	93.2%	87.6%	89.0%	87.8%	82.6%	83.2%	86.7%
大型ショッピングセンター・デパート	10.0%	19.0%	17.0%	16.1%	18.2%	15.9%	11.6%	18.6%	15.0%
家電、衣料品や趣味品などの専門店	10.0%	22.2%	15.9%	10.9%	20.1%	16.5%	15.7%	18.6%	16.2%
コンビニエンスストア	90.0%	79.4%	71.6%	68.6%	74.0%	62.8%	44.3%	61.1%	60.9%
飲食店（レストラン、カフェなど）	40.0%	23.8%	25.0%	24.1%	21.4%	19.5%	17.4%	17.4%	20.7%
総合病院	10.0%	15.9%	11.4%	13.9%	15.6%	22.6%	31.6%	20.4%	21.9%
診療所、医院	10.0%	42.9%	55.7%	66.4%	66.2%	59.8%	59.1%	62.9%	59.6%
金融機関、郵便局	50.0%	66.7%	51.1%	62.0%	69.5%	66.5%	61.2%	64.7%	62.9%
幼稚園・保育園などの子育て関連施設	0.0%	9.5%	37.5%	12.4%	5.2%	6.7%	2.6%	9.6%	8.7%
小学校・中学校などの教育施設	30.0%	19.0%	43.2%	34.3%	20.1%	14.0%	4.9%	18.0%	17.8%
市役所・市民窓口センター	0.0%	7.9%	12.5%	14.6%	24.0%	17.7%	31.6%	24.0%	22.0%
公民館、集会所などのコミュニティ施設	0.0%	7.9%	2.3%	8.0%	6.5%	18.9%	22.3%	14.4%	14.1%
福祉・介護施設	0.0%	1.6%	2.3%	2.9%	1.9%	7.9%	13.0%	7.8%	7.1%
図書館	40.0%	9.5%	10.2%	10.2%	5.2%	7.3%	9.3%	7.8%	8.8%
博物館・美術館	0.0%	1.6%	2.3%	2.2%	1.9%	1.8%	2.3%	4.2%	2.1%
文化ホール、劇場	10.0%	0.0%	2.3%	0.0%	1.3%	3.0%	2.3%	2.4%	1.9%
スポーツ施設（体育館、運動場など）	0.0%	11.1%	3.4%	5.1%	6.5%	4.3%	4.9%	4.8%	5.3%
公園・広場	0.0%	30.2%	38.6%	32.8%	19.5%	26.2%	26.4%	27.5%	27.2%
その他	0.0%	0.0%	2.3%	1.5%	3.2%	1.2%	1.4%	3.0%	1.7%
特にない	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	1.9%	2.4%	7.0%	2.4%	3.6%
回答者数(n値)	10	63	88	137	154	164	345	167	962

▶1-3 居住地域とのクロス集計

各地域が徒歩圏内に求めている施設の大まかな傾向を把握する。

- ・全地域で「食料品・生活用品などの店舗」が最も多い。



	南部地域	中心地域	東部地域	中部地域	北部地域	西部地域	旭地域	全市
食料品・生活用品などの店舗	84.9%	82.6%	85.9%	80.9%	79.8%	80.2%	82.4%	86.7%
大型ショッピングセンター・デパート	14.5%	15.5%	14.1%	12.2%	20.2%	17.4%	8.5%	15.0%
家電、衣料品や趣味品などの専門店	13.9%	14.3%	15.0%	13.0%	20.2%	15.7%	17.6%	16.2%
コンビニエンスストア	62.0%	62.1%	58.3%	57.4%	55.1%	57.0%	53.5%	60.9%
飲食店（レストラン、カフェなど）	25.3%	19.9%	19.4%	20.9%	21.3%	12.4%	18.3%	20.7%
総合病院	19.3%	20.5%	24.3%	19.1%	28.1%	14.0%	21.1%	21.9%
診療所、医院	59.6%	56.5%	52.9%	58.3%	46.1%	58.7%	65.5%	59.6%
金融機関、郵便局	60.8%	52.8%	62.6%	57.4%	56.2%	63.6%	65.5%	62.9%
幼稚園・保育園などの子育て関連施設	10.2%	6.8%	9.2%	7.8%	9.0%	10.7%	4.9%	8.7%
小学校・中学校などの教育施設	18.7%	13.7%	16.5%	21.7%	15.7%	19.0%	14.8%	17.8%
市役所・市民窓口センター	16.9%	26.1%	21.8%	16.5%	24.7%	20.7%	21.1%	22.0%
公民館、集会所などのコミュニティ施設	10.2%	8.1%	12.6%	20.9%	20.2%	14.0%	14.1%	14.1%
福祉・介護施設	6.6%	5.0%	6.3%	8.7%	5.6%	5.8%	9.9%	7.1%
図書館	10.8%	7.5%	6.8%	3.5%	7.9%	10.7%	12.0%	8.8%
博物館・美術館	3.0%	3.1%	1.9%	0.9%	1.1%	0.8%	1.4%	2.1%
文化ホール、劇場	0.6%	2.5%	2.4%	0.0%	2.2%	3.3%	0.0%	1.9%
スポーツ施設（体育館、運動場など）	6.0%	5.6%	5.8%	7.0%	3.4%	1.7%	4.2%	5.3%
公園・広場	26.5%	28.6%	28.6%	20.9%	18.0%	27.3%	26.1%	27.2%
その他	1.2%	1.2%	1.0%	1.7%	0.0%	3.3%	2.1%	1.7%
特にない	1.8%	5.6%	2.9%	2.6%	4.5%	2.5%	3.5%	3.6%
回答者数(n値)	166	161	206	115	89	121	142	962

問3. 拠点のニーズ（拠点まちづくりについて）

●結果概要

<平塚駅周辺>

- ・平塚駅周辺への交通手段は、自家用車が約半数を占めており[問 3-1-1 (p.47)]、駐車場の利用しやすさに不満がある人の割合が高い。[問 3-2 (p.50)]路線バスが4分の1程度であり[問 3-1-1 (p.47)]、バスでの行き来のしやすさは満足している人の割合が高い。[問 3-2 (p.50)]
- ・駅周辺への交通手段を地域別でみると、中部地域、北部地域、西部地域、旭地域の自家用車の利用が多く、南部地域と中心地域は自転車や徒歩が多い。[問 3-1-1 (p.47)]
- ・平塚駅周辺の利用頻度は、週1回以下が8割を占め、月1回以下も4割程度である。地域別では、中部地域、北部地域、西部地域の利用頻度が低い。[問 3-1-2 (p.48)]
- ・いずれの地域も買物での駅周辺利用が多く[問 3-1-3×1-3(p.49)]、望ましい中心拠点の姿として「飲食や買い物がしやすい商業施設が充実したまち」と答えている人が最も多い。次いで、特色のある店や医療・福祉施設、公園や緑の充実が望まれている。[問 3-3 (p.51)]

<平塚駅周辺以外の拠点>

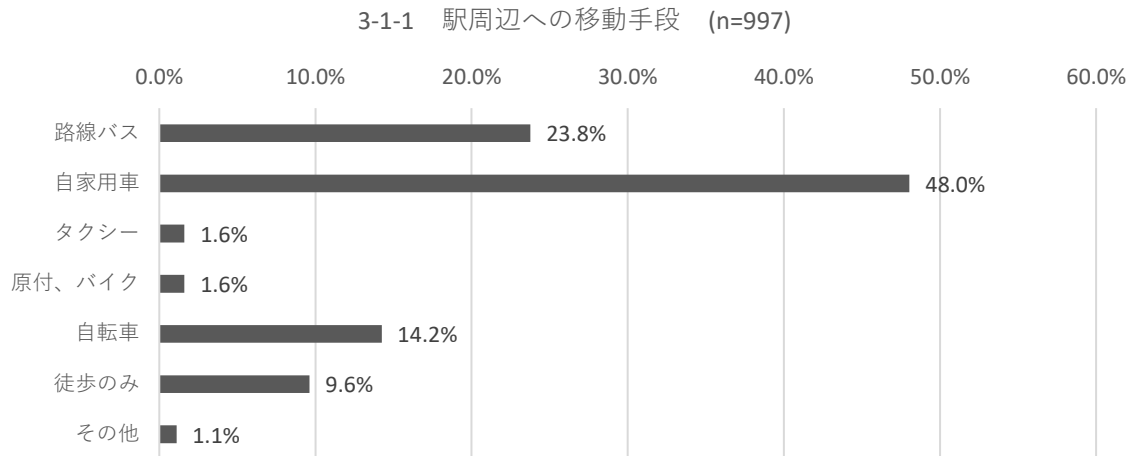
- ・平塚駅周辺以外で、住んでいる地域内または地域周辺で拠点となるエリアの必要性については、必要という回答が多く[問 3-4 (p.54)]、いずれの地域でも、充実する機能として「食料品・生活用品などの店舗」が最も多い。[問 3-6 (p.62)]
- ・地域別で拠点の必要性をみると、中部地域、北部地域、西部地域、旭地域では、居住地周辺で拠点となるエリアが必要という回答が多く[問 3-4×1-3 (p.54)]、具体的な場所としては、ロードサイドの生活利便施設が立地している場所を示す回答が多い。[問 3-5 (p.58-61)]

問 3-1 平塚駅周辺は商業・業務・文化など多様な施設が集積し、本市の中心拠点として、魅力づくり、にぎわいづくりを目指してまちづくりに取り組んでいるところです。

平塚駅周辺（別紙 平塚駅周辺地区図 参照）に行く主な「移動手段」や「頻度」、「理由」について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。

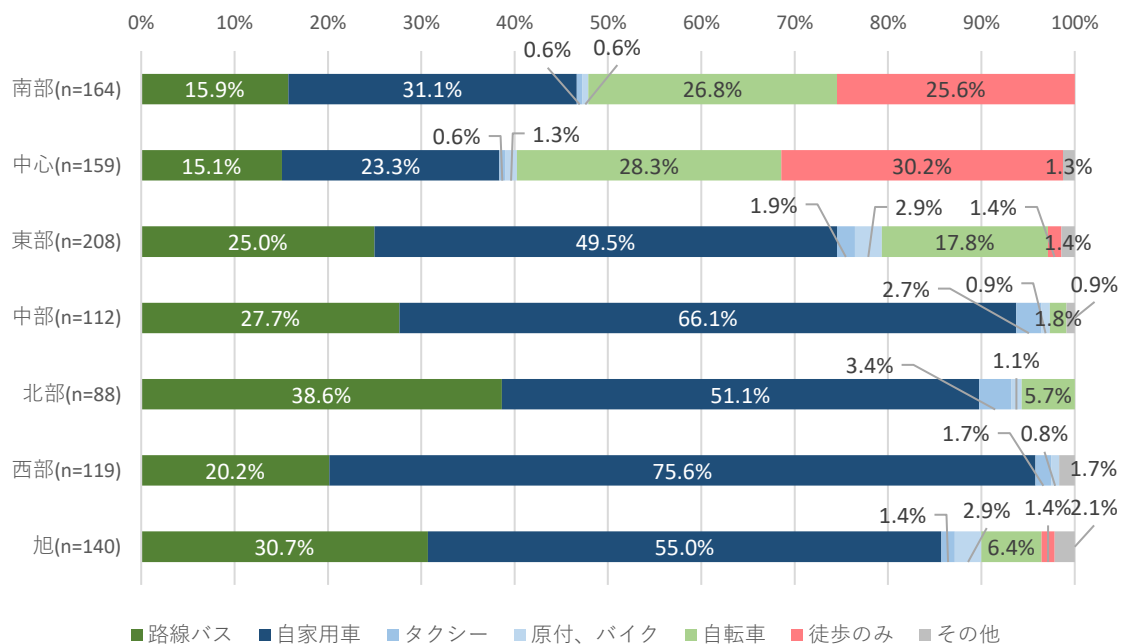
問 3-1-1 平塚駅周辺への移動手段

・「自家用車」(48.0%)、「路線バス」(23.8%)の割合が多い。



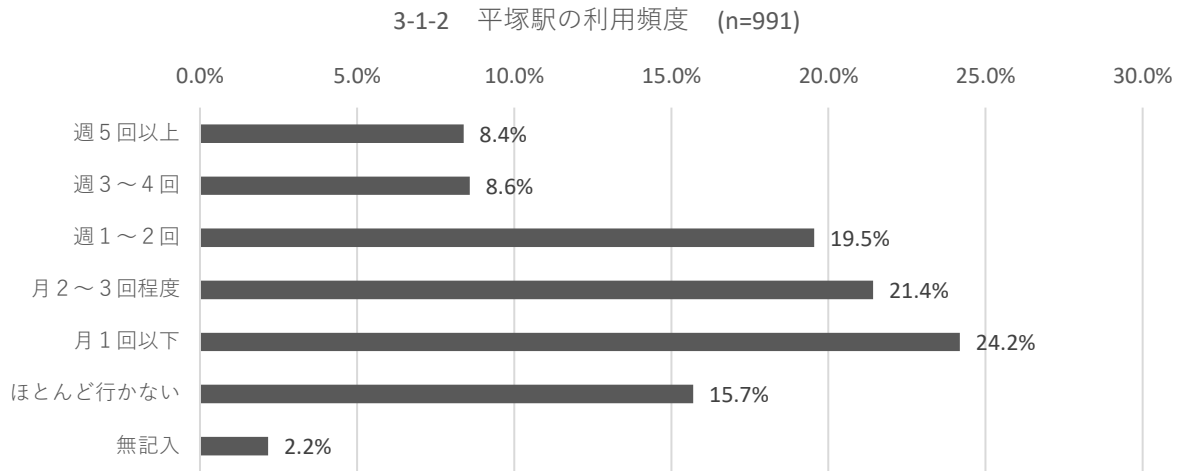
▶1-3 居住地域とのクロス集計

- ・南部地域と中心地域は、「自転車」「徒歩のみ」の割合が比較的多い。
- ・北部地域と旭地域は「路線バス」の割合が比較的多い。
- ・西部地域と中部地域は「自家用車」の割合が比較的多い。



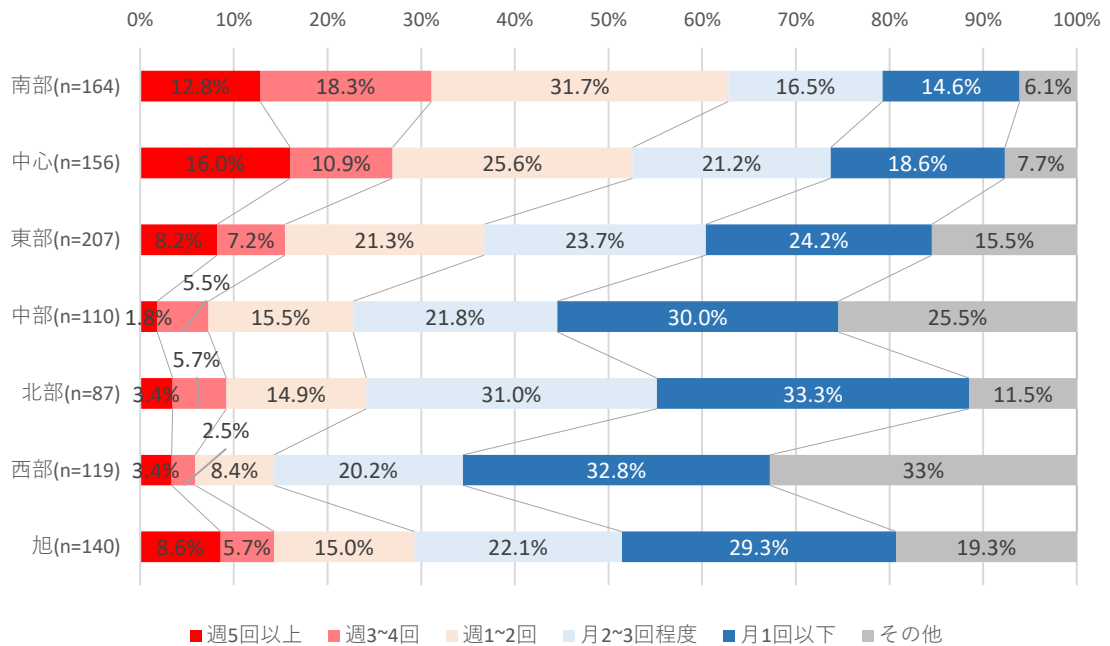
問 3-1-2 平塚駅周辺へ行く頻度

・「月 1 回以下」(24.2%)、「月 2～3 回程度」(21.4%)、「週 1～2 回」(19.5%)の順に多い。比較的低頻度の利用の傾向が見られる。



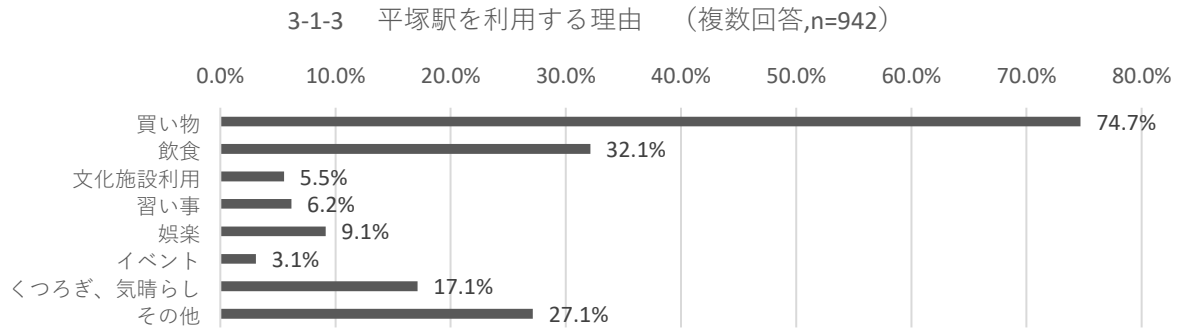
▶1-3 居住地域とのクロス集計

・南部・中心地域では、「週 1～2 回」が最も多い。



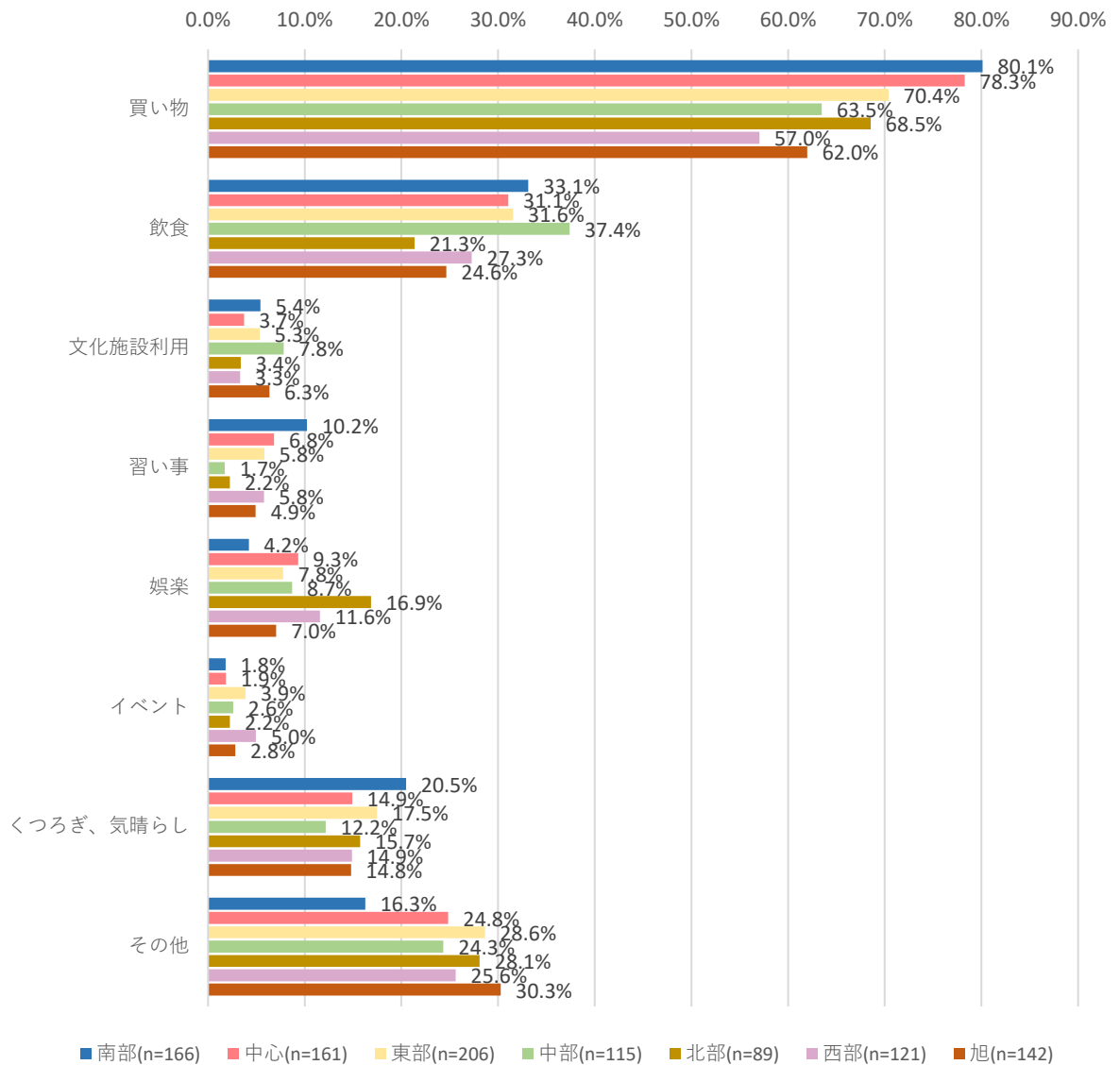
問 3-1-3 平塚駅周辺へ行く理由

・「買い物」(74.7%) が最も多い。次いで、「飲食」(32.1%)が多い。商業利用が多い傾向が見られる。



▶1-3 居住地域とのクロス集計

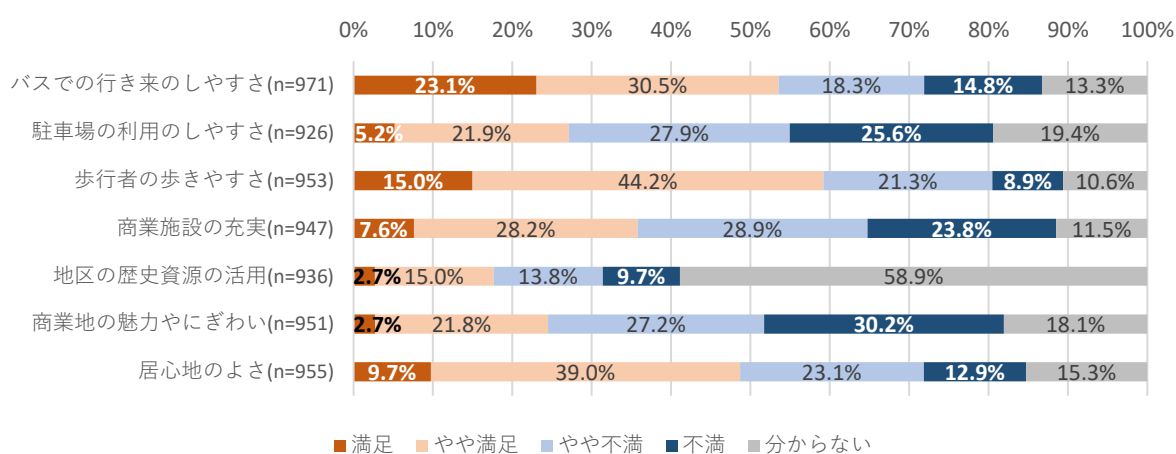
・各地域での駅周辺へ行く理由を把握する。概ね似た傾向であり、全地域で「買い物」が最も多い。



問 3-2 平塚駅周辺について、以下のそれぞれの項目の現状についてどの程度満足していますか。各項目についてそれぞれ1つ選んで番号に○をつけてください。

- ・「満足」・「やや満足」を合計した『満足している人』の割合が5割を超えるのは、「バスでの行き来のしやすさ」(53.6%)、「歩行者の歩きやすさ」(59.2%)になり、比較的満足している。
- ・「不満」・「やや不満」を合計した『不満足な人』の割合が5割を超えるのは、「駐車場の利用のしやすさ」(53.5%)、「商業施設の充実」(52.7%)、「商業地の魅力やにぎわい」(57.4%)になり、比較的不満を抱えている。
- ・「地区の歴史資源の活用」は「分からない」(58.9%)が多い。地区の歴史資源が認識されていないと推測される。

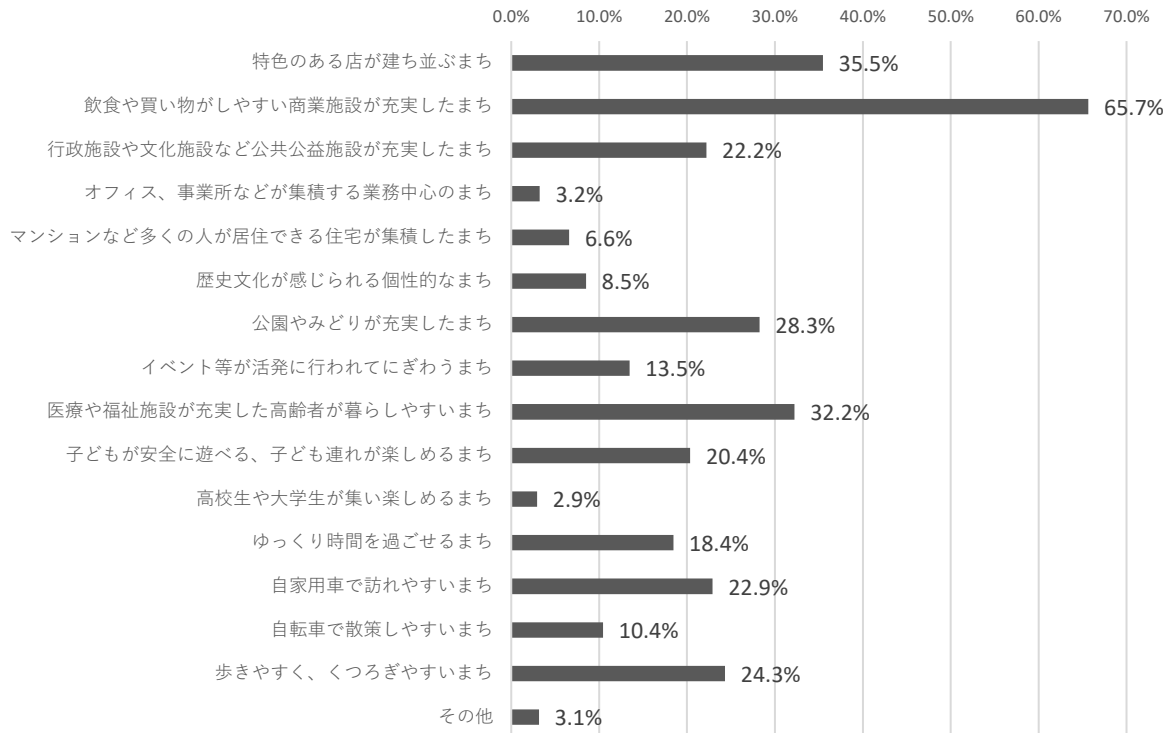
3-2 駅周辺項目別満足度



問 3-3 平塚駅周辺について、中心拠点としてどのようなまちの姿が望ましいとお考えですか。あてはまるものを3つまで選んで番号に○をつけてください。

・「飲食や買い物がしやすい商業施設が充実したまち」(65.7%)が最も多い。次いで、「特色のある店が建ち並ぶまち」(35.5%)、「医療や福祉施設が充実した高齢者が暮らしやすいまち」(32.2%)、「公園やみどりが充実したまち」(28.3%)が多い。商業施設かつ特色のある店舗群・医療福祉施設・公園緑地の充実が中心拠点に求められている。

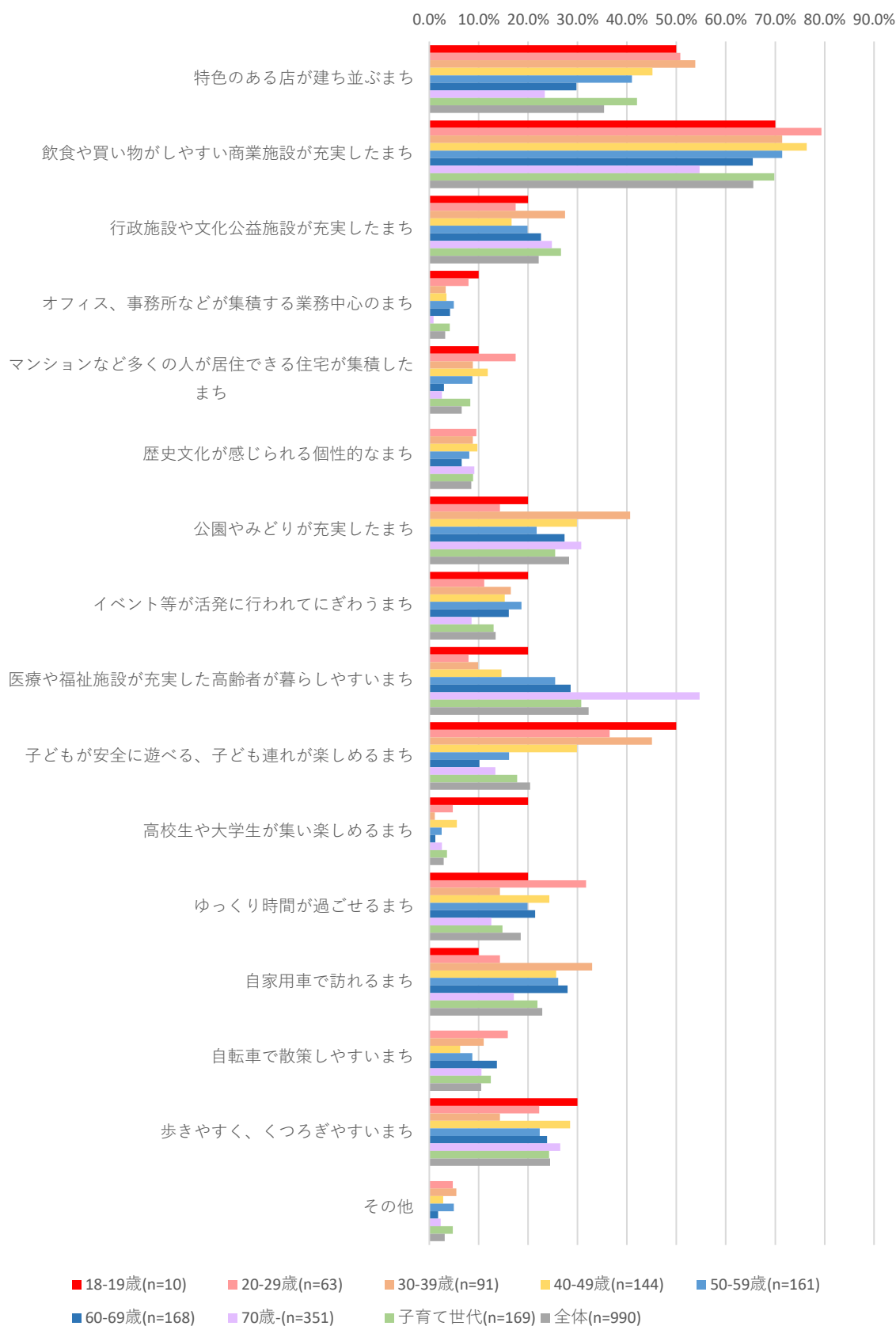
3-3 中心拠点として望ましい駅周辺の姿（複数回答,n=990）



▶1-2 年齢・1-6 子育て世代とのクロス集計

各世代で求められている中心拠点のあり方の大まかな傾向を把握する。

- ・全年齢で「飲食や買い物しやすい商業施設が充実したまち」が最も多い。

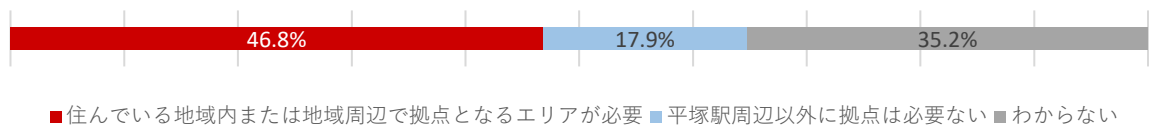


	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳-	子育て世代	全体
特色のある店が建ち並ぶまち	50.0%	50.8%	53.8%	45.1%	41.0%	29.8%	23.4%	42.0%	35.5%
飲食や買い物しやすい商業施設が充実したまち	70.0%	79.4%	71.4%	76.4%	71.4%	65.5%	54.7%	69.8%	65.7%
行政施設や文化公益施設が充実したまち	20.0%	17.5%	27.5%	16.7%	19.9%	22.6%	24.8%	26.6%	22.2%
オフィス、事務所などが集積する業務中心のまち	10.0%	7.9%	3.3%	3.5%	5.0%	4.2%	0.9%	4.1%	3.2%
マンションなど多くの人が居住できる住宅が集積したまち	10.0%	17.5%	8.8%	11.8%	8.7%	3.0%	2.6%	8.3%	6.6%
歴史文化が感じられる個性的なまち	0%	9.5%	8.8%	9.7%	8.1%	6.5%	9.1%	8.9%	8.5%
公園やみどりが充実したまち	20.0%	14.3%	40.7%	29.9%	21.7%	27.4%	30.8%	25.4%	28.3%
イベント等が活発に行われてにぎわうまち	20.0%	11.1%	16.5%	15.3%	18.6%	16.1%	8.5%	13.0%	13.5%
医療や福祉施設が充実した高齢者が暮らしやすいまち	20.0%	7.9%	9.9%	14.6%	25.5%	28.6%	54.7%	30.8%	32.2%
子どもが安全に遊べる、子ども連れが楽しめるまち	50.0%	36.5%	45.1%	29.9%	16.1%	10.1%	13.4%	17.8%	20.4%
高校生や大学生が集い楽しめるまち	20.0%	4.8%	1.1%	5.6%	2.5%	1.2%	2.6%	3.6%	2.9%
ゆっくり時間が過ごせるまち	20.0%	31.7%	14.3%	24.3%	19.9%	21.4%	12.5%	14.8%	18.4%
自家用車で訪れるまち	10.0%	14.3%	33.0%	25.7%	26.1%	28.0%	17.1%	21.9%	22.9%
自転車で散策しやすいまち	0%	15.9%	11.0%	6.3%	8.7%	13.7%	10.5%	12.4%	10.4%
歩きやすく、くつろぎやすいまち	30.0%	22.2%	14.3%	28.5%	22.4%	23.8%	26.5%	24.3%	24.3%
その他	0%	4.8%	5.5%	2.8%	5.0%	1.8%	2.3%	4.7%	3.1%
回答者数(n値)	10	63	91	144	161	168	351	169	990

問 3-4 平塚駅から離れた地域など、地域の生活圏を支えるため、バスなど公共交通でアクセスできる場所に、既存の各種施設の立地を活かしながら、スーパーや医療施設などを充実させ、利便性を高めるための地域の拠点（※）とし、便利で快適なまちづくりを進めていくことを検討しています。
平塚駅周辺の中心拠点以外で、お住まいの地域の拠点となるエリアは必要とお考えですか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

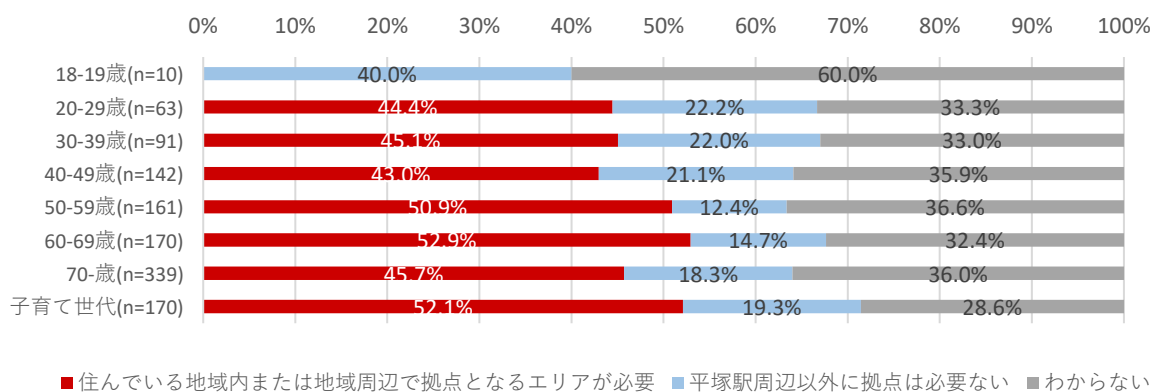
- ・「住んでいる地域内または地域周辺で拠点となるエリアが必要」(46.8%)が最も多く、比較的必要だと考えられている。
- ・次いで、「わからない」(35.2%)が多い割合となり、中心以外の拠点の必要性を判断できない人も一定数いる。

3-4 中心拠点以外の拠点の必要性 (n=976)



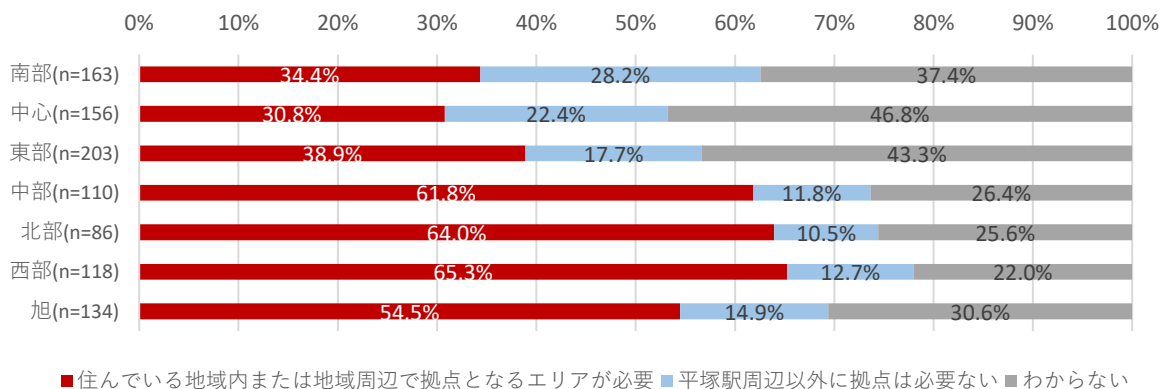
▶ **1-2 年齢・1-6 子育て世代とのクロス集計**

・年齢別では、20代以上はいずれも必要という回答が最も多い。



▶ **1-3 居住地域とのクロス集計**

・地域別では、中部・北部・西部・旭地域で必要という回答が比較的多い。

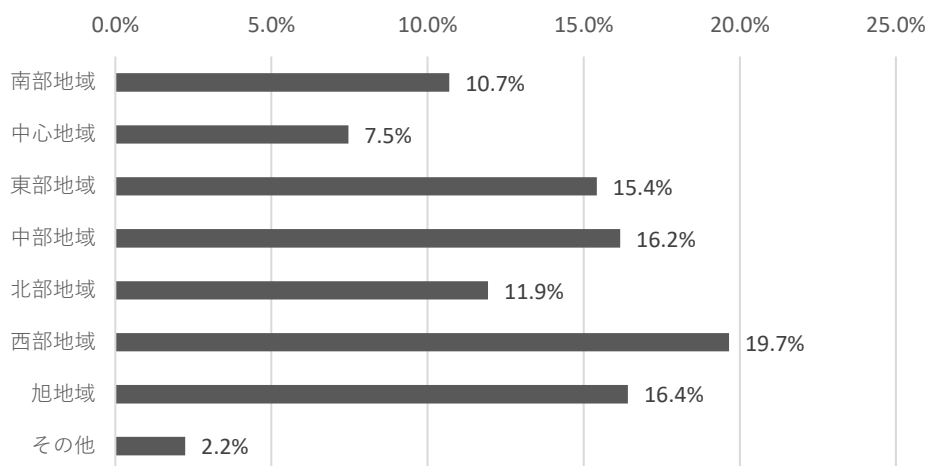


問 3-5 上の問3 - 4 で「1 (住んでいる地域内または地域周辺で拠点となるエリアが必要)」を選んだ方にお聞きします。お住まいの地域で拠点となるエリアはどこがよいとお考えですか。具体の町丁目名や、地名、目印となる施設などをお書きください。

●**地域別の回答率**

- ・地域別の回答率は、「西部地域」(19.7%)、「旭地域」(16.4%)、「中部地域」(16.2%)、「東部地域」(15.4%)の順に多い。
- ・「中心地域」(7.5%)、「南部地域」(10.7%)、「北部地域」(11.9%) の順に少ない。

3-5 居住地域で地域拠点となるべきエリアの回答率(n=402)



- ・具体的な場所としては、ロードサイドの生活利便施設が立地している場所を示す回答が多い。以降に、具体的な位置を地図に示した。

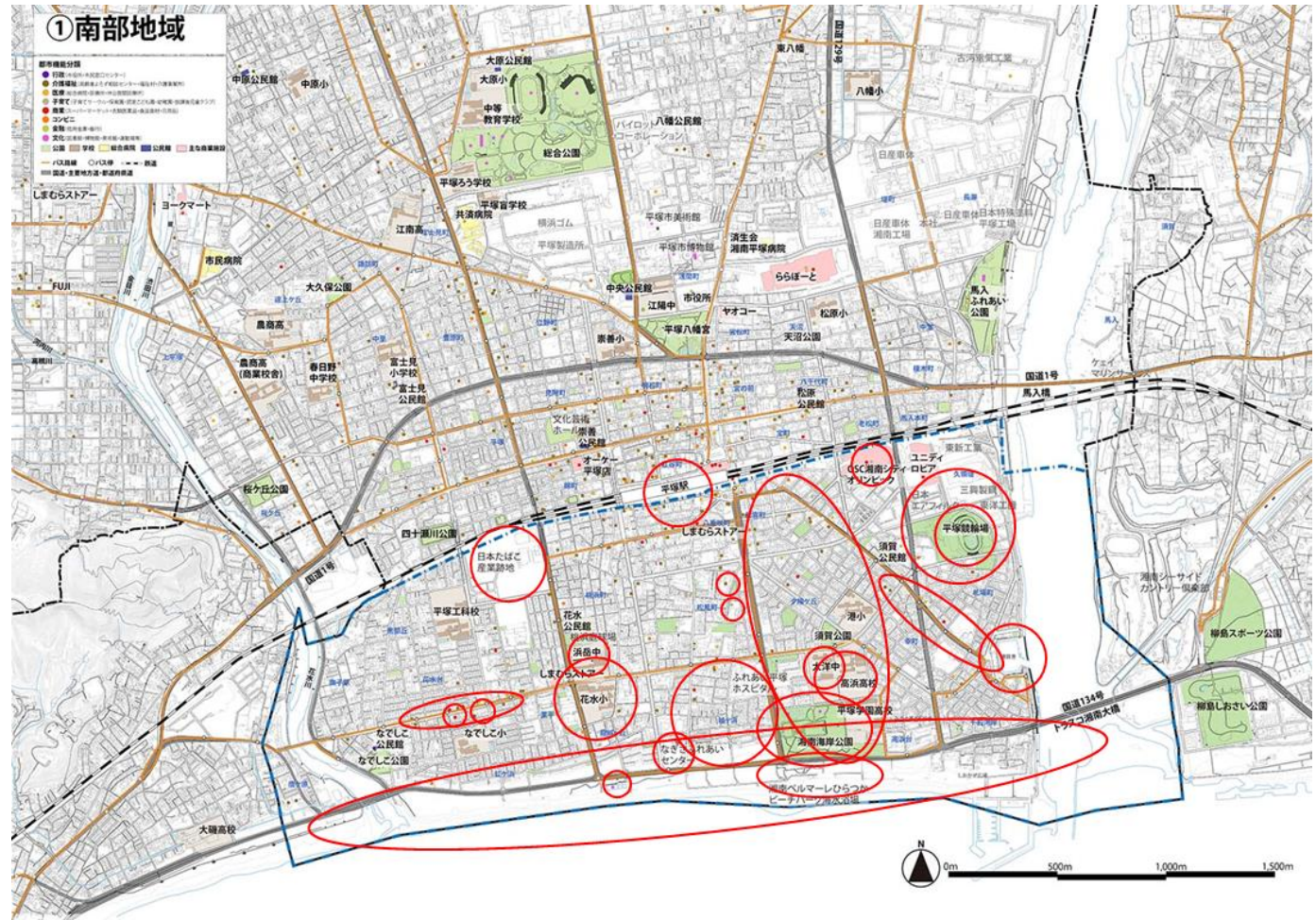
●拠点にふさわしい場所の具体的な位置

【南部地域】

・沿岸部や、県道沿いに集中し、地域の南側に多い傾向がある。JT（日本たばこ産業）や龍城ヶ丘プール跡地を拠点とする意見(5件)も見られる。

袖ヶ浜	1
夕陽ヶ丘、代官町、高浜地区	1
海・海岸	3
平塚ビーチ	1
旧港	1
湘南海岸公園	3
平塚信用金庫須賀支店のある通り	1
平塚駅	2
なぎさふれあいセンター	1
スーパーがあれば良い	1
オリンピック	1
生活クラブ ひらつか西海岸デポ	1
マツモトキヨシ	3
西海岸商店街 マリンロード	2
花水小学校近辺	1
大洋中学校	1
平塚市立濱岳中学校	1
高浜高校・太陽中学	1
県立平塚農商高等学校	1
J T(日本たばこ産業)跡地	3
龍城ヶ丘プール跡地	2
税務署跡地、ガソリンスタンド跡地	1
競輪場	1
競輪場付近	1
無回答	8

橙字：地域外
青字：場所不明

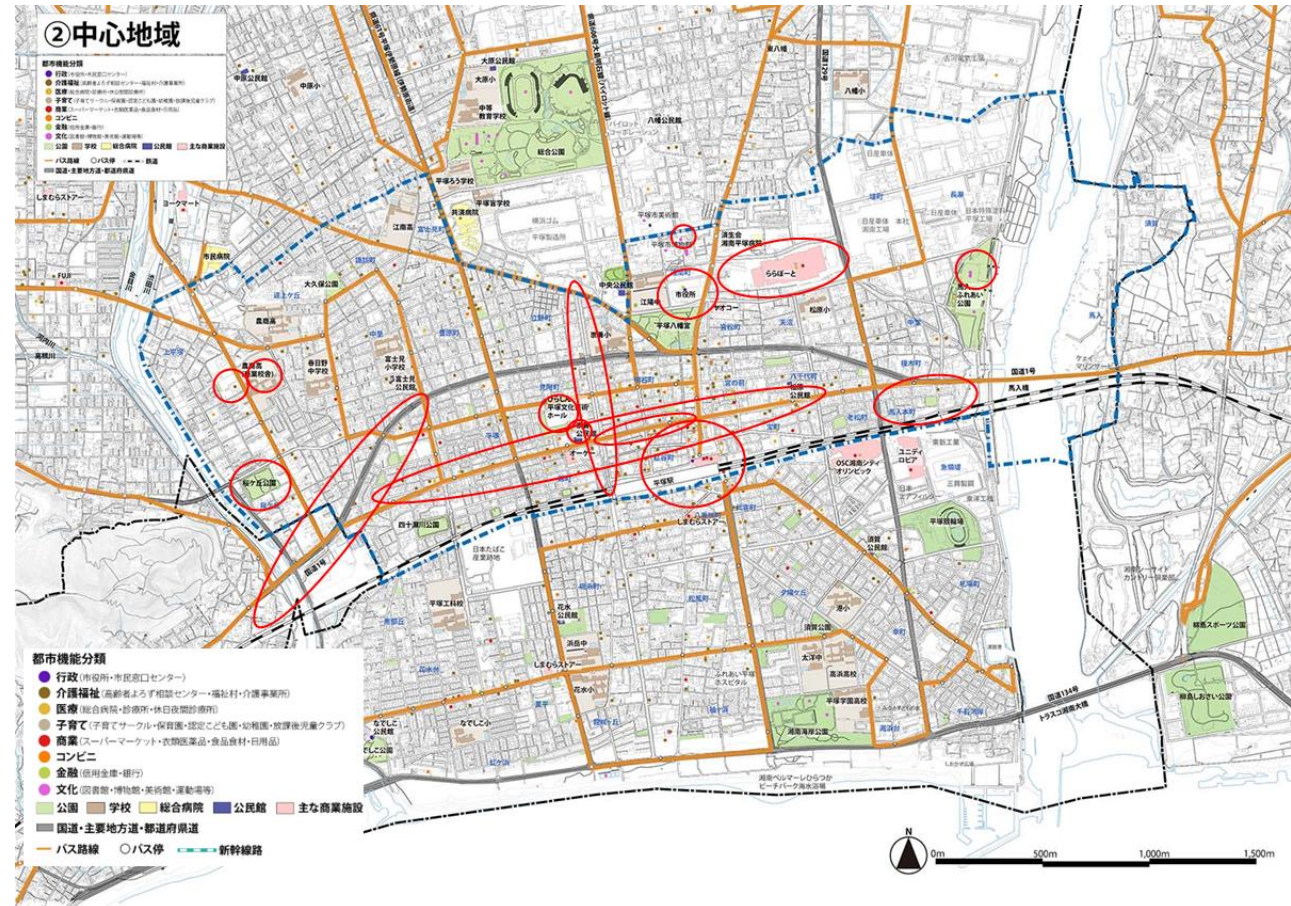


【中心地域】

・ららぽーと湘南平塚店(9件)が多い。商店街・駅周辺にある程度集中している。

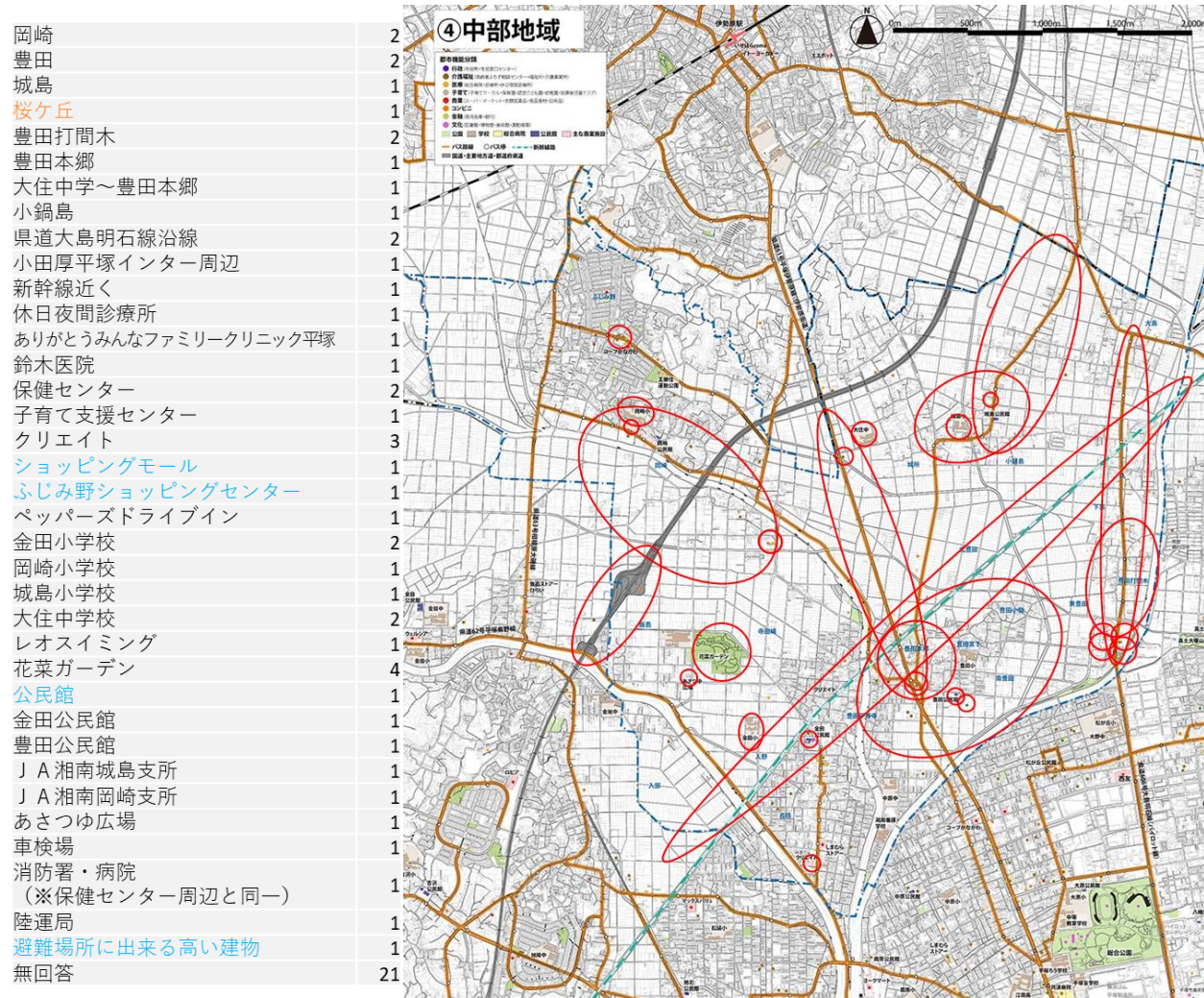
平塚5丁目～大磯	1
馬入本町	1
旧国道沿い	1
プラザロード	1
銀座通り	1
平塚駅周辺・エリア	2
桜ヶ丘公園	2
平塚市役所	1
ららぽーと湘南平塚店	9
ヤマダ電気	1
市民学習センター	1
中央図書館	1
ひらしん平塚文化ホール	1
ひらつかサン・ライフアリーナ	1
平塚商業高校跡地	2
無回答	6

橙字：地域外
青字：場所不明



【中部地域】

・花菜ガーデン(4件)が多い。県道・新幹線路沿いに集中する傾向がある。比較的域内に点在している。



橙字：地域外
青字：場所不明

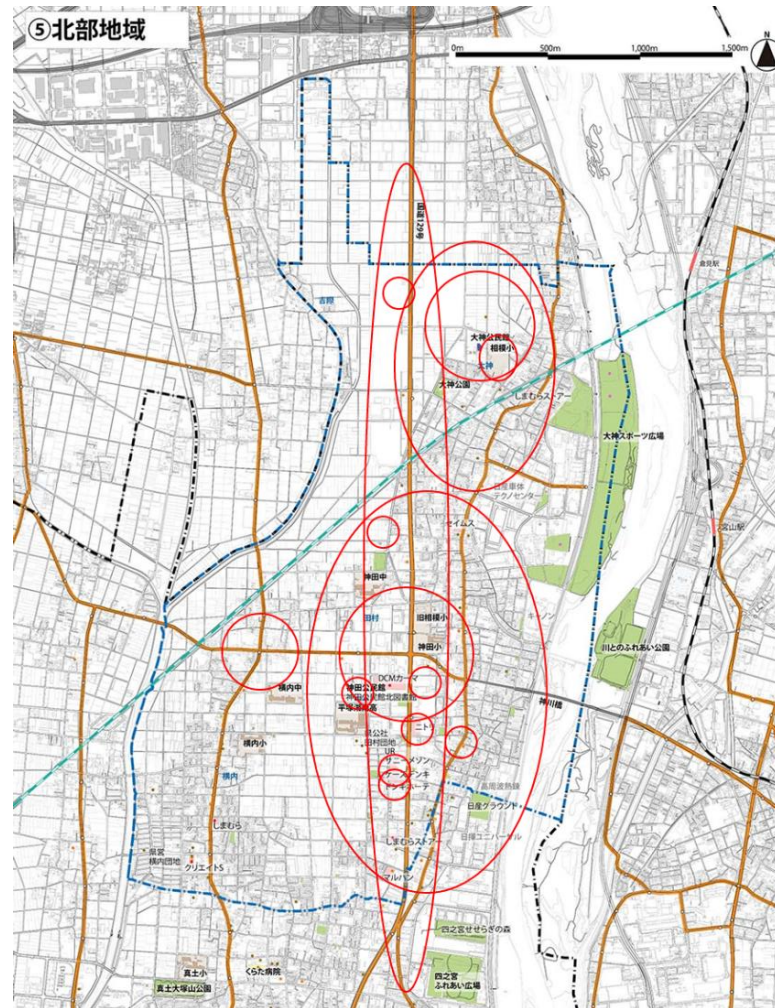
【北部地域】

・ツインシティ周辺(8件)が多い。国道129号線沿いに集中している。

国道129号線	1
国道129号線田村十字路口付近	1
横内四ツ角	1
ツインシティ 新設イオンモール近辺	8
厚木インターチェンジ	1
大神	1
田村	3
駒返橋バス停	1
医療施設	1
保健センター	1
ドンキホーテ	1
ニトリ	2
ヤマダ電機	1
山田うどん	1
ケーズデンキ	1
神田幼稚園	1
相模小学校	1
北公民館	1
神田公民館 (※うち北図書館1件)	3
無回答	15

橙字：地域外

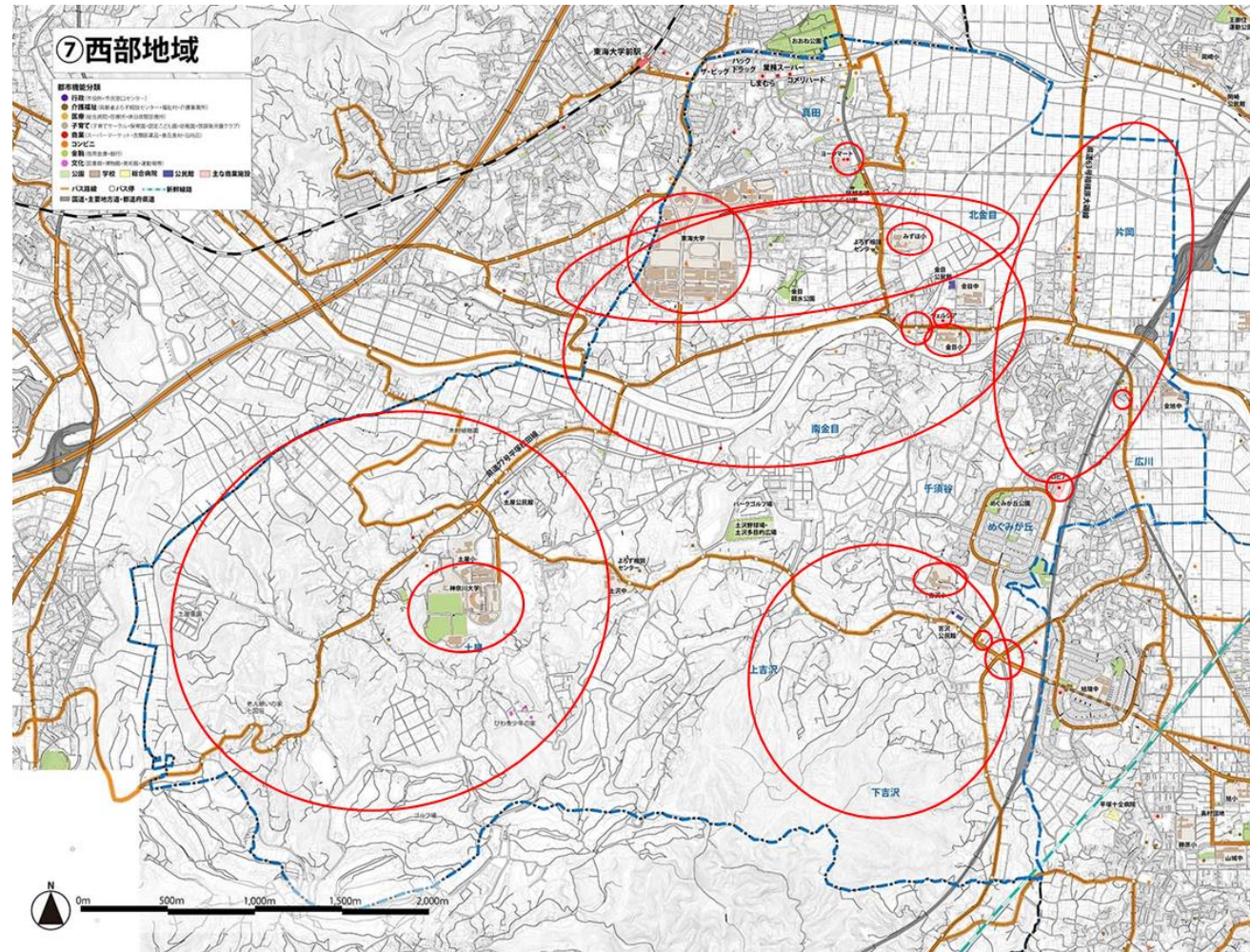
青字：場所不明



【西部地域】

・東海大学湘南キャンパス（6件）、神奈川大学平塚キャンパス跡地（6件）、ヨークマート（5件）、ヨークタウン（4件）が多く、大学や大型スーパーが拠点にふさわしいエリアと考えられている。地域の北側、東側に偏っている。

金目	1
下吉沢	1
土屋	2
片岡	1
北金目	1
中沢橋	1
金目駅バス停	1
医療・健康増進の総合施設	1
ウエルシア（※地域内に2店舗）	1
ウエルシア平塚南金目店	1
ショッピングセンター	1
スーパー	1
ファミリーマート湘南めぐみカ丘店	1
マクドナルド	1
ヨークタウン	4
ヨークマート	5
ヨークマートまたは東海大学	1
ロピア	3
学校	1
みずほ小学校	1
吉沢小学校	1
金目小学校	3
神奈川大学平塚キャンパス	4
神奈川大学跡地	2
東海大学湘南キャンパス	6
東海大前駅周辺	1
公民館	2
公民館が行政センター	1
旧公民館跡地	1
平塚花菜ガーデン周辺	1
どこでも	1
分からない	1
目印は特にはないです。	1
無回答	21



橙字：地域外
青字：場所不明

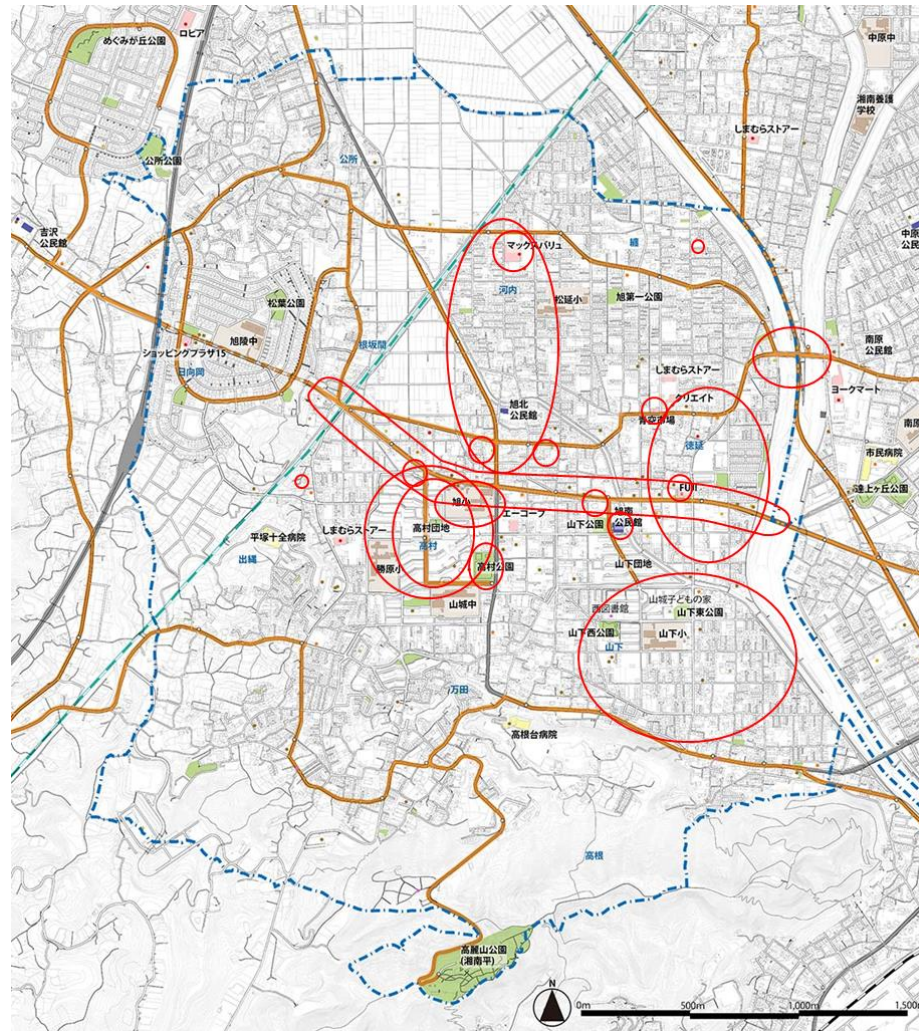
【旭地域】

・高村団地（13件）が多い。地域の東側に偏っている。

河内	1
高村	2
山下	2
東雲橋	1
徳延	1
高村公園	1
白鳥幼稚園	1
スーパー	1
タイヤ館	1
マクドナルド平塚山下店	4
マクドナルド平塚山下店（平塚大橋～日向岡トンネルの通り全体）	1
マックスバリュ	2
生鮮市場 おかべ （※青空市場）	1
FUJI徳延店	1
ヨークマートそば	1
旭地区商店街	1
小学校	1
旭小学校	4
旭小学校 高村団地	1
高村団地	13
公民館等	1
旭南公民館	2
八坂神社（※地域内に2箇所）	1
J A旭支店	1
無回答	19

橙字：地域外

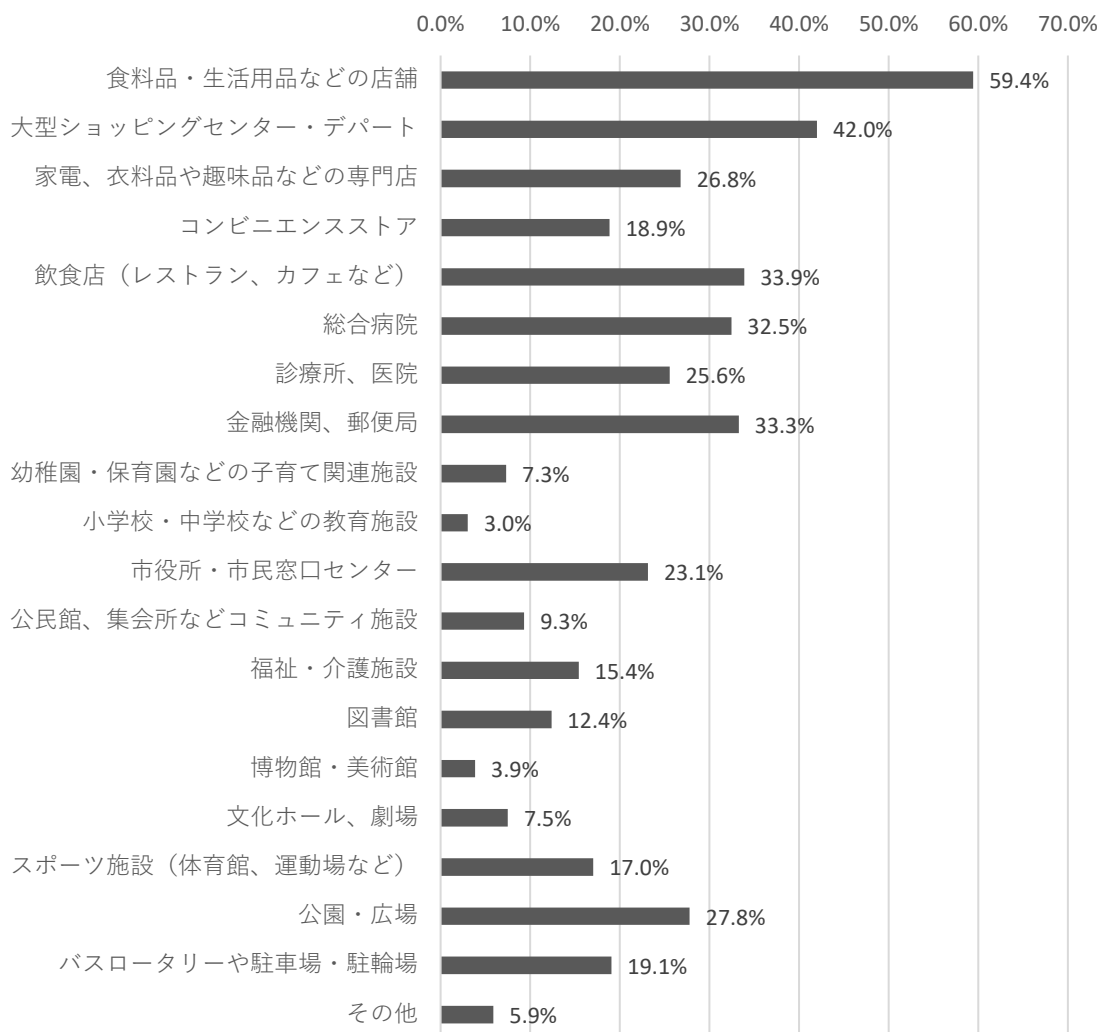
青字：場所不明



問 3-6 上の問3-5であげた場所を拠点とする場合、何が充実することが望ましいとお考えですか。以下からあてはまるものを5つまで選んで○をつけてください。

- ・平塚駅周辺以外の拠点で充実が望ましいものは、「食料品・生活用品などの店舗」(59.4%)が最も多い。次いで、「大型ショッピングセンター・デパート」(42.0%)、「飲食店(レストラン、カフェなど)」(33.9%)、「金融機関、郵便局」(33.3%)、「総合病院」(32.5%)の順に多い。
- ・[2-3. 日常生活において自宅周辺(徒歩で行ける範囲内)に欠かせないと考える施設]と比較してもそれほど大きな傾向の差は見られないが、本設問では「コンビニエンスストア」(18.9%)の割合が低い。

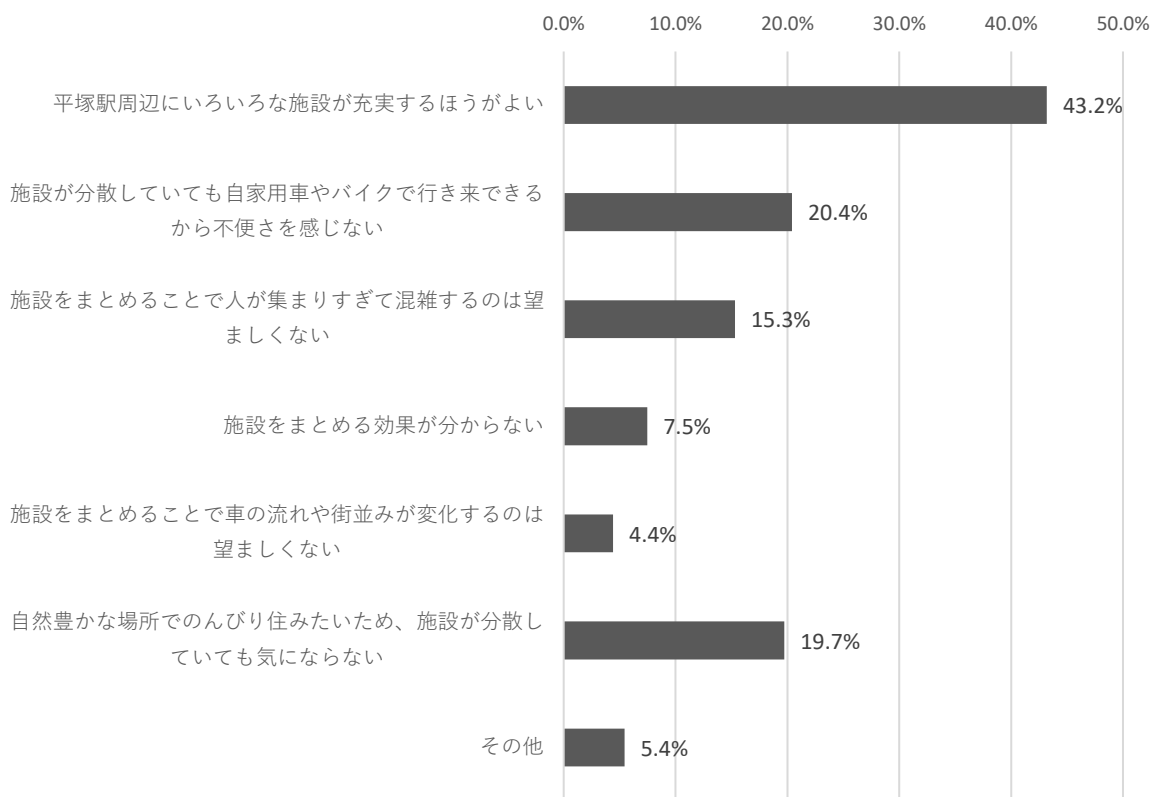
3-6 地域拠点で充実すべき機能（複数回答,n=493）



問 3-7 上の問3-4で「2（平塚駅周辺以外に拠点は必要ない）」を選んだ方にお聞きします。その理由としてあてはまるものを2つまで選んで番号に○をつけてください。

- ・平塚駅周辺以外に拠点は必要ない理由は、「平塚駅周辺にいろいろな施設が充実する方がよい」(43.2%)が最も多い。次いで、「施設が分散していても自家用車やバイクで行き来できるから不便さを感じない」(20.4%)、「自然豊かな場所でのんびり住みたいため、施設が分散していても気にならない」(19.7%)が多い。
- ・中心拠点での多様な施設充実や、地域内では悠々とした生活を求める傾向から、施設の集約の必要性は求めている傾向がある。

3-7 中心以外の拠点が必要ない理由（複数回答,n=294）



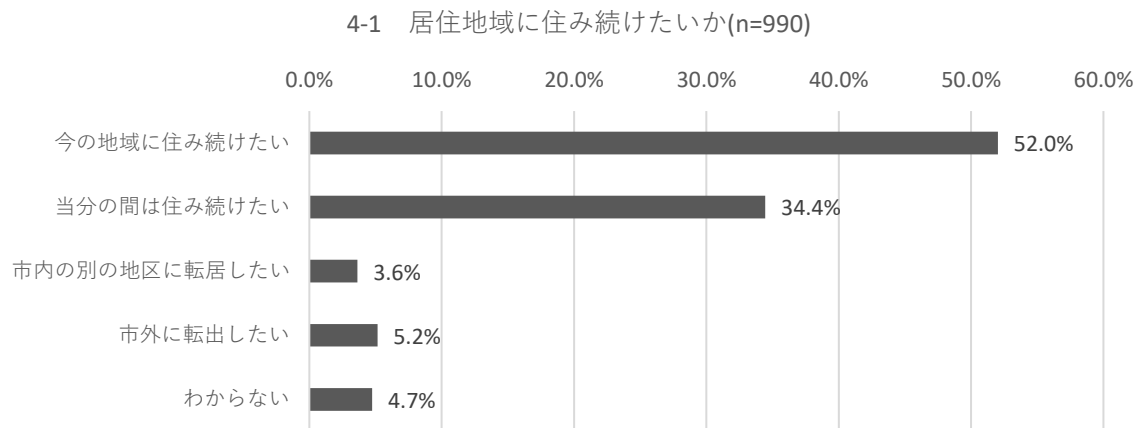
問4. 居住環境のニーズ（居住地域について）

●結果概要

- ・いずれの地域も、居住地域に住み続けたい人が8～9割程度を占めており、転居や転出の意向は少ない。[問4-1×1-3 (p.65)]
- ・転居や転出をしたい人の理由は、バスなどの交通や買物の不便、災害時の安全性への不安が多い。[問4-2 (p.66)]
- ・住み続けるために重要なことは、防災対策、生活道路の安全、歩きやすい道路環境が多く、特に30代までの若い年齢層や子育て世代で多く選ばれている。60歳以上の高齢者層では、日常的な買物の店舗や医療・福祉施設が比較的多く選ばれている。[問4-3×1-2,1-6 (p.68)]
- ・地域別では、旭地域、西部地域、中心地域、東部地域、南部地域では防災対策が重要という回答が最も多いのに対して、北部地域では医療や福祉施設が重要、中部地域では日常的な買物の店舗が重要という回答が最も多い。[問4-3×1-3 (p.70-72)]

問4-1 今のお住まいの地域に住み続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

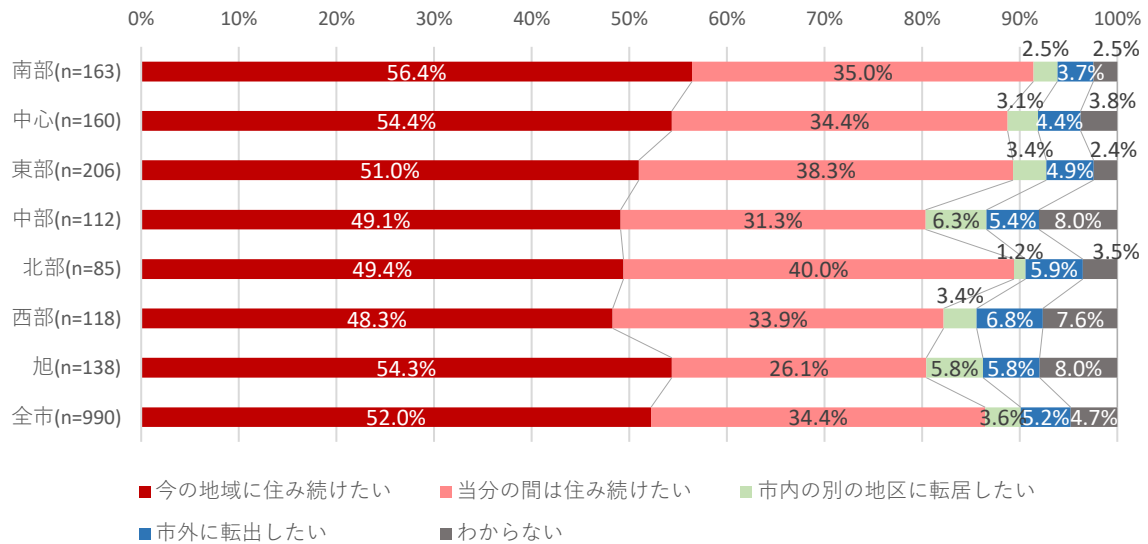
- ・「今の地域に住み続けたい」(52.0%)、「当分の間は住み続けたい」(34.4%)と、継続的に居住したい意向が多い傾向である。



▶ 1-3 居住地域とのクロス集計

各地域での継続的な居住の意向の大きな傾向を把握する。

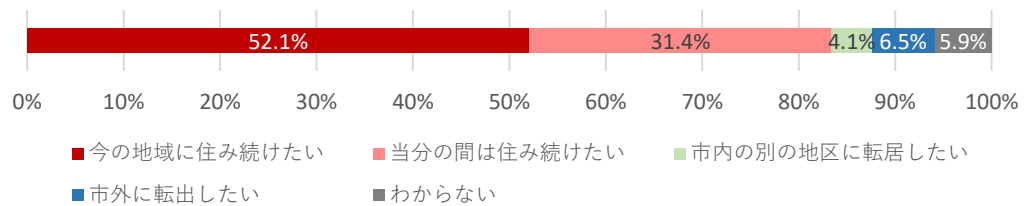
- ・すべての地域で、「今の地域に住み続けたい」、「当分の間は住み続けたい」と、継続的に居住したい意向が多い傾向である。



▶ 1-6 子育て世代(n=169)とのクロス集計

子育て世代の継続的な居住の意向を把握する。

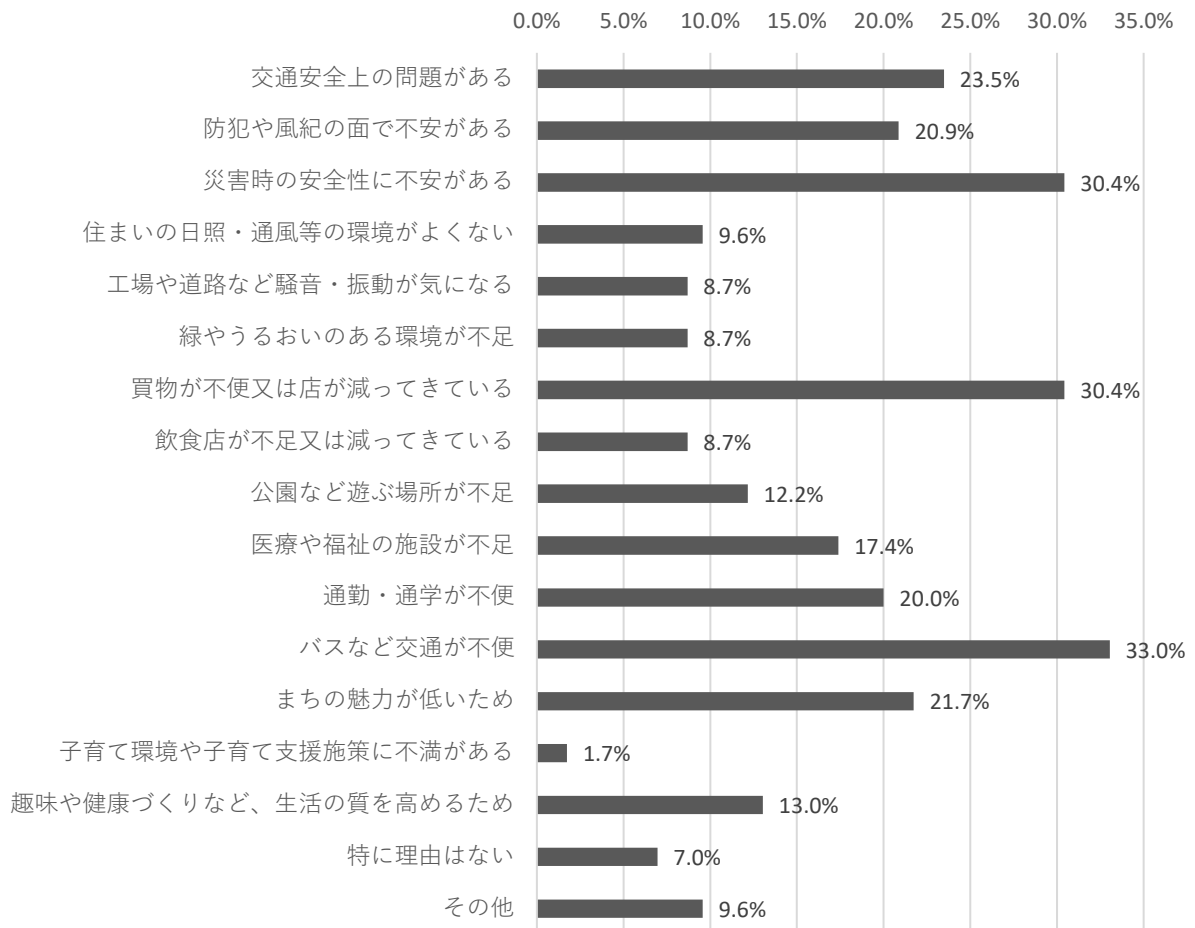
- ・子育て世代についても同様に「今の地域に住み続けたい」(52.1%)、「当分の間は住み続けたい」(31.4%)と、継続的に居住したい意向が多い傾向である。



問 4-2 上の問 4-1 で「3（市内の別の土地に転居したい）」又は「4（市外に転出したい）」とお答えの方にお聞きます。転居・転出したいと思う理由は何ですか。あてはまるものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。

・「バスなど交通が不便」(33.0%)、「災害時の安全性に不安がある」(30.4%)・「買物が不便又は店が減ってきている」(30.4%)の順に多い。転出・転居希望者には公共交通利便性・災害安全性・生活利便性（購買）に不安が見られる。

4-2 転出転居したい理由（複数回答,n=115）

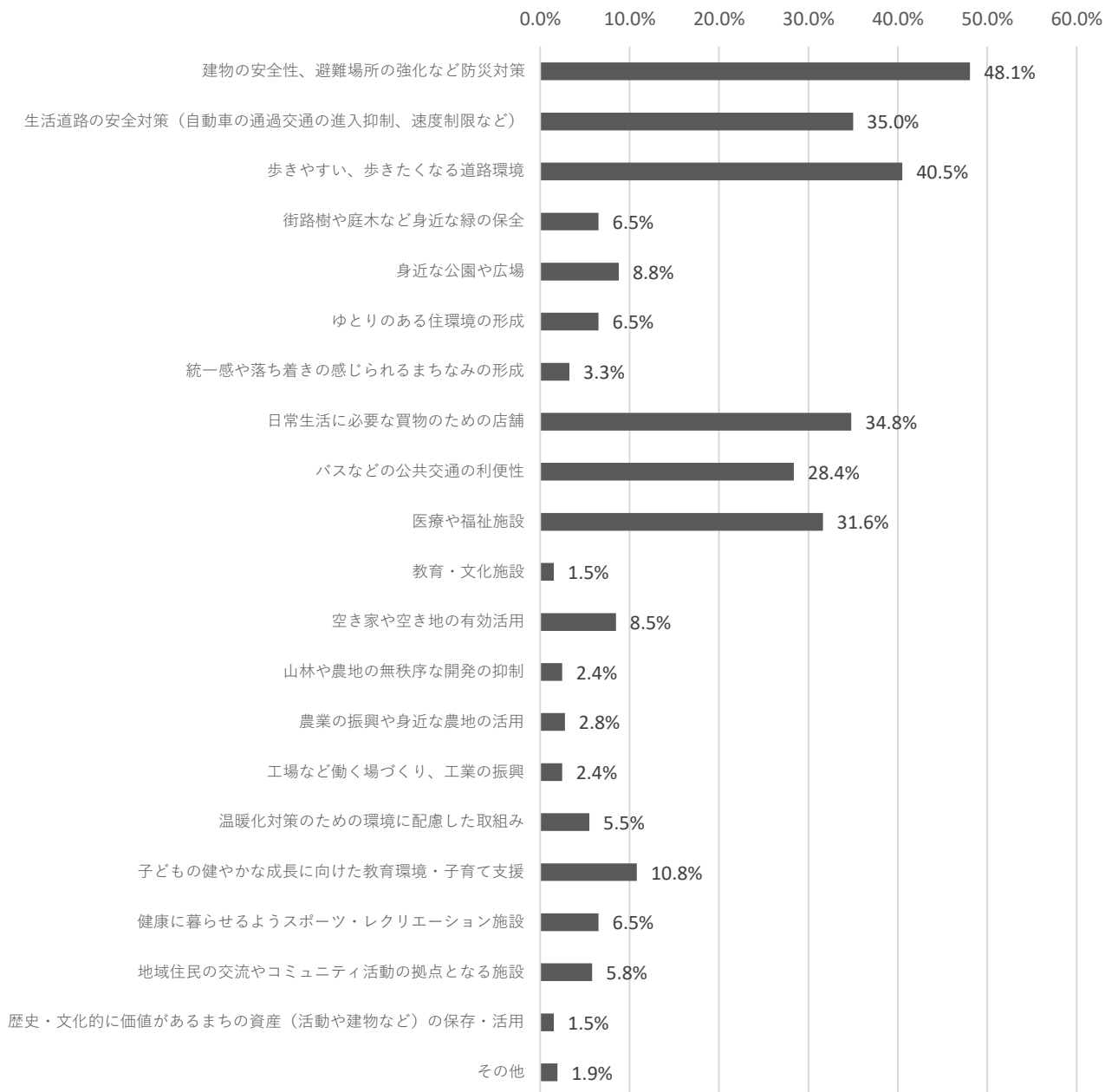


問 4-3 今後さらに人口減少や高齢化が進むと生活サービスなどが低下することが予測されますが、お住まいの地域で住み続けていくために重要と思うことは何ですか。あてはまるものを3つまで選んで、番号に○をつけてください。

・「建物の安全性、避難場所の強化など防災対策」(48.1%)、「歩きやすい、歩きたくなる道路環境」(40.5%)、「生活道路の安全対策(自動車の通過交通の進入抑制、速度制限など)」(35.0%)、「日常生活に必要な買物のための店舗」(34.8%)、「医療や福祉施設」(31.6%)、「バスなどの公共交通の利便性」(28.4%)の順に多い。

居住環境の指標の中でも、災害安全性(防災対策)・交通安全性(生活道路の安全対策)・快適性(歩行環境向上)・生活利便性(生活必需品の購買店舗、医療福祉施設)・交通便利性(バス等)が、平塚市の持続性に重要と考えられている。

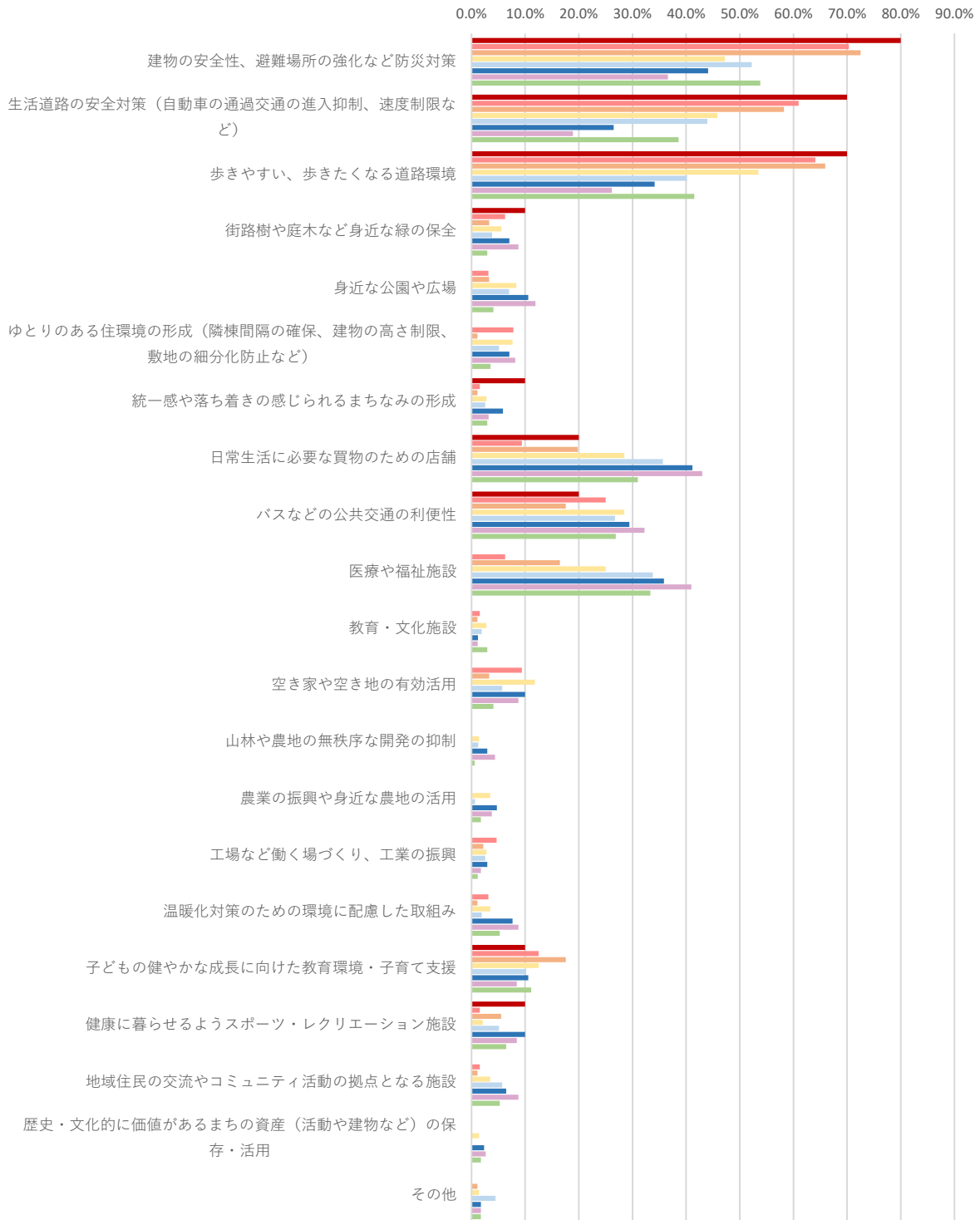
4-3 居住地域で住み続けるために重要だと思うこと(複数回答,n=980)



▶1-2 年齢・1-6 子育て世代とのクロス集計

各世代や子育て世代で、住み続けるために重要度が高い項目の大きな傾向を把握する。

- ・年齢別では、30代まで「建物の安全性、避難場所の強化など防災対策」、「生活道路の安全対策」「歩きやすい、歩きたくなる道路環境」が比較的多く、60代以上では「日常生活に必要な買物のための店舗」、「医療や福祉施設」が比較的多い。



■ 18-19歳(n=10) ■ 20-29歳(n=64) ■ 30-39歳(n=91) ■ 40-49歳(n=144) ■ 50-59歳(n=157) ■ 60-69歳(n=170) ■ 70歳-(n=344) ■ 子育て世代(n=171)

	18-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳-	子育て世代	全体
建物の安全性、避難場所の強化など防災対策	80.0%	70.3%	72.5%	47.2%	52.2%	44.1%	36.6%	53.8%	48.1%
生活道路の安全対策（自動車の通過交通の進入抑制、速度制限など）	70.0%	60.9%	58.2%	45.8%	43.9%	26.5%	18.9%	38.6%	35.0%
歩きやすい、歩きたくなる道路環境	70.0%	64.1%	65.9%	53.5%	40.1%	34.1%	26.2%	41.5%	40.5%
街路樹や庭木など身近な緑の保全	10.0%	6.3%	3.3%	5.6%	3.8%	7.1%	8.7%	2.9%	6.5%
身近な公園や広場	0%	3.1%	3.3%	8.3%	7.0%	10.6%	11.9%	4.1%	8.8%
ゆとりのある住環境の形成（隣棟間隔の確保、建物の高さ制限、敷地の細分化防止など）	0%	7.8%	1.1%	7.6%	5.1%	7.1%	8.1%	3.5%	6.5%
統一感や落ち着いた感じられるまちなみの形成	10.0%	1.6%	1.1%	2.8%	2.5%	5.9%	3.2%	2.9%	3.3%
日常生活に必要な買物のための店舗	20.0%	9.4%	19.8%	28.5%	35.7%	41.2%	43.0%	31.0%	34.8%
バスなどの公共交通の利便性	20.0%	25.0%	17.6%	28.5%	26.8%	29.4%	32.3%	26.9%	28.4%
医療や福祉施設	0%	6.3%	16.5%	25.0%	33.8%	35.9%	41.0%	33.3%	31.6%
教育・文化施設	0%	1.6%	1.1%	2.8%	1.9%	1.2%	1.2%	2.9%	1.5%
空き家や空き地の有効活用	0%	9.4%	3.3%	11.8%	5.7%	10.0%	8.7%	4.1%	8.5%
山林や農地の無秩序な開発の抑制	0%	0%	0%	1.4%	1.3%	2.9%	4.4%	0.6%	2.4%
農業の振興や身近な農地の活用	0%	0%	0%	3.5%	0.6%	4.7%	3.8%	1.8%	2.8%
工場など働く場づくり、工業の振興	0%	4.7%	2.2%	2.8%	2.5%	2.9%	1.7%	1.2%	2.4%
温暖化対策のための環境に配慮した取組み	0%	3.1%	1.1%	3.5%	1.9%	7.6%	8.7%	5.3%	5.5%
子どもの健やかな成長に向けた教育環境・子育て支援	10.0%	12.5%	17.6%	12.5%	10.2%	10.6%	8.4%	11.1%	10.8%
健康に暮らせるようスポーツ・レクリエーション施設	10.0%	1.6%	5.5%	2.1%	5.1%	10.0%	8.4%	6.4%	6.5%
地域住民の交流やコミュニティ活動の拠点となる施設	0%	1.6%	1.1%	3.5%	5.7%	6.5%	8.7%	5.3%	5.8%
歴史・文化的に価値があるまちの資産（活動や建物など）の保存・活用	0%	0%	0%	1.4%	0%	2.4%	2.6%	1.8%	1.5%
その他	0%	0%	1.1%	1.4%	4.5%	1.8%	1.7%	1.8%	1.9%
回答者数(n値)	10	64	91	144	157	170	344	171	980

▶1-3 居住地域とのクロス集計

各地域で住み続けるにあたって必要度の高い項目の大まかな傾向を把握する。

- ・旭地域・西部地域・中心地域・東部地域・南部地域では、「建物の安全性、避難場所の強化など防災対策」が最上位にきており、旭地域・中心地域・東部地域・南部地域では、「歩きやすい、歩きたくなる道路環境」が上位2番目にきており、各地域で比較的重要だと考えられている。
- ・北部地域では、「医療や福祉施設」の割合が最も大きい。
- ・中部地域では、「日常生活に必要な買物のための店舗」の割合が最も大きい。
- ・他にも、西部地域・東部地域では「生活道路の安全対策（自動車の通過交通の進入抑制、速度制限など）」が、西部地域・中部地域では「バスなどの公共交通の利便性」が、比較的重要だと考えられている。
- ・「統一感や落ち着きの感じられるまちなみの形成」「教育・文化施設」「山林や農地の無秩序な開発の抑制」「農業の振興や身近な農地の活用」「工場など働く場づくり、工業の振興」「歴史・文化的に価値があるまちの資産（活動や建物など）の保存・活用」は、複数の地域で、比較的重要だと捉えられていない。

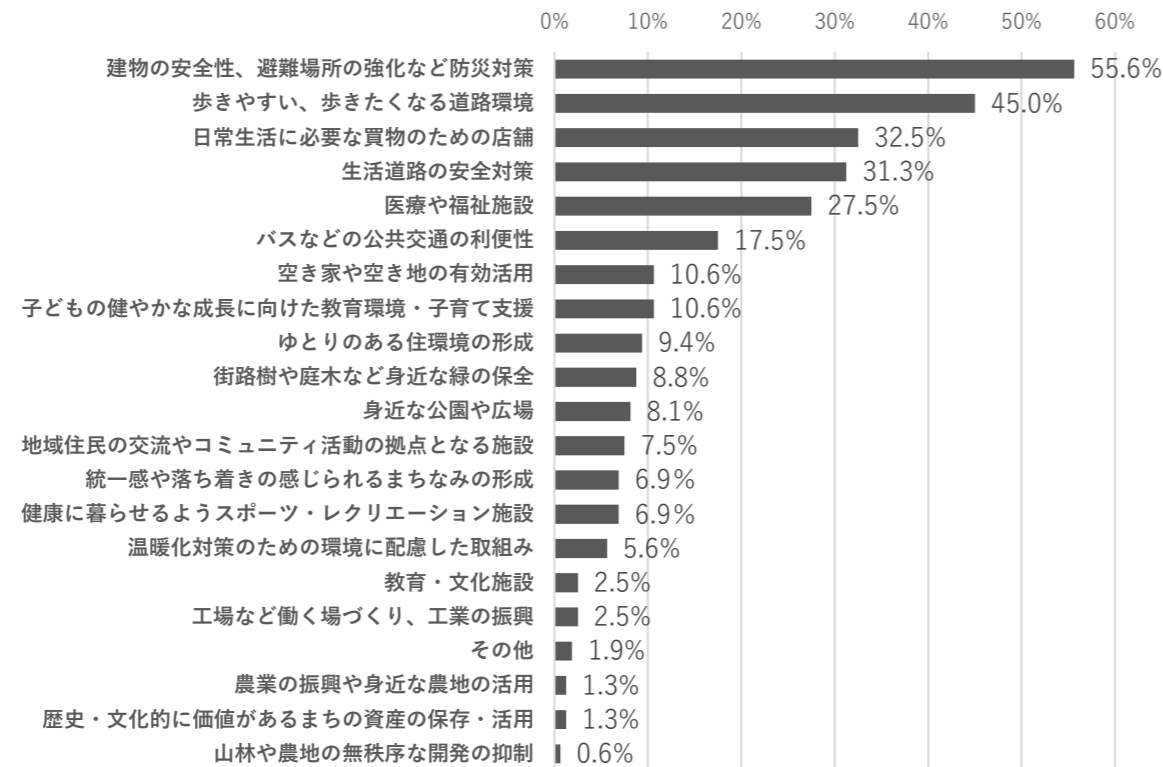
	南部地域	中心地域	東部地域	中部地域	北部地域	西部地域	旭地域	全市
建物の安全性、避難場所の強化など防災対策	52.4%	55.6%	50.5%	40.9%	38.8%	48.3%	41.5%	48.1%
生活道路の安全対策（自動車の通過交通の進入抑制、速度制限など）	32.3%	31.3%	44.1%	33.6%	31.8%	36.2%	33.3%	35.0%
歩きやすい、歩きたくなる道路環境	35.4%	45.0%	46.5%	40.0%	38.8%	36.2%	37.8%	40.5%
街路樹や庭木など身近な緑の保全	8.5%	8.8%	6.4%	4.5%	4.7%	3.4%	5.9%	6.5%
身近な公園や広場	6.1%	8.1%	7.9%	12.7%	7.1%	7.8%	13.3%	8.8%
ゆとりのある住環境の形成（隣棟間隔の確保、建物の高さ制限、敷地の細分化防止など）	13.4%	9.4%	5.0%	4.5%	9.4%	0%	3.0%	6.5%
統一感や落ち着きの感じられるまちなみの形成	6.1%	6.9%	1.0%	0.9%	2.4%	1.7%	3.0%	3.3%
日常生活に必要な買物のための店舗	30.5%	32.5%	30.7%	43.6%	43.5%	35.3%	35.6%	34.8%
バスなどの公共交通の利便性	23.2%	17.5%	24.3%	40.0%	29.4%	38.8%	34.1%	28.4%
医療や福祉施設	32.9%	27.5%	30.2%	29.1%	47.1%	30.2%	30.4%	31.6%
教育・文化施設	0.6%	2.5%	1.5%	1.8%	0%	0.9%	2.2%	1.5%
空き家や空き地の有効活用	9.1%	10.6%	7.4%	3.6%	9.4%	9.5%	8.9%	8.5%
山林や農地の無秩序な開発の抑制	2.4%	0.6%	2.5%	2.7%	2.4%	6.9%	0.7%	2.4%
農業の振興や身近な農地の活用	1.8%	1.3%	2.0%	6.4%	4.7%	1.7%	3.7%	2.8%
工場など働く場づくり、工業の振興	2.4%	2.5%	4.0%	0.9%	1.2%	3.4%	1.5%	2.4%
温暖化対策のための環境に配慮した取組み	4.3%	5.6%	6.4%	5.5%	8.2%	3.4%	5.2%	5.5%
子どもの健やかな成長に向けた教育環境・子育て支援	13.4%	10.6%	7.4%	5.5%	14.1%	12.1%	14.1%	10.8%
健康に暮らせるようスポーツ・レクリエーション施設	6.7%	6.9%	5.4%	8.2%	7.1%	8.6%	4.4%	6.5%
地域住民の交流やコミュニティ活動の拠点となる施設	6.1%	7.5%	5.9%	1.8%	5.9%	4.3%	8.1%	5.8%
歴史・文化的に価値があるまちの資産（活動や建物など）の保存・活用	0.6%	1.3%	2.0%	0%	3.5%	2.6%	1.5%	1.5%
その他	2.4%	1.9%	1.0%	2.7%	0%	3.4%	2.2%	1.9%
回答者数(n値)	164	160	202	110	85	116	135	980

4-3 平塚市で住み続けるために必要なこと×1-3 居住地域

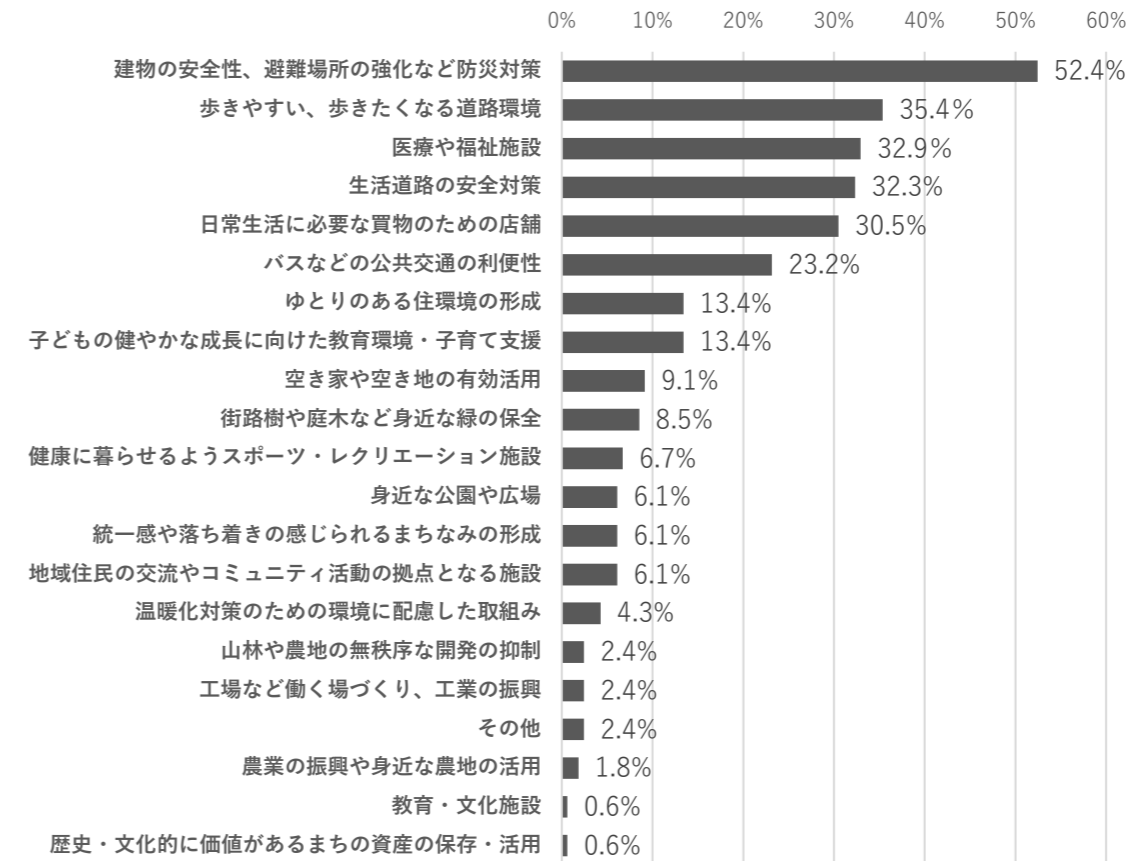
〈7 地域区分〉



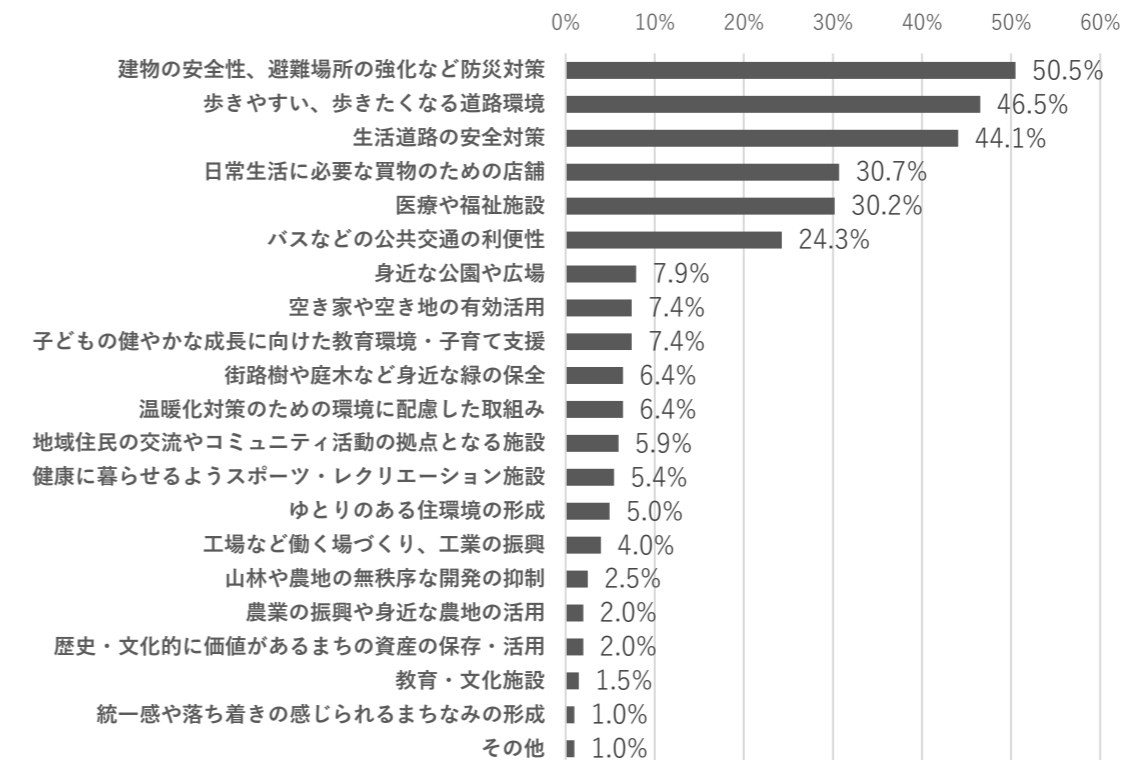
〈中心地域(n=160)〉



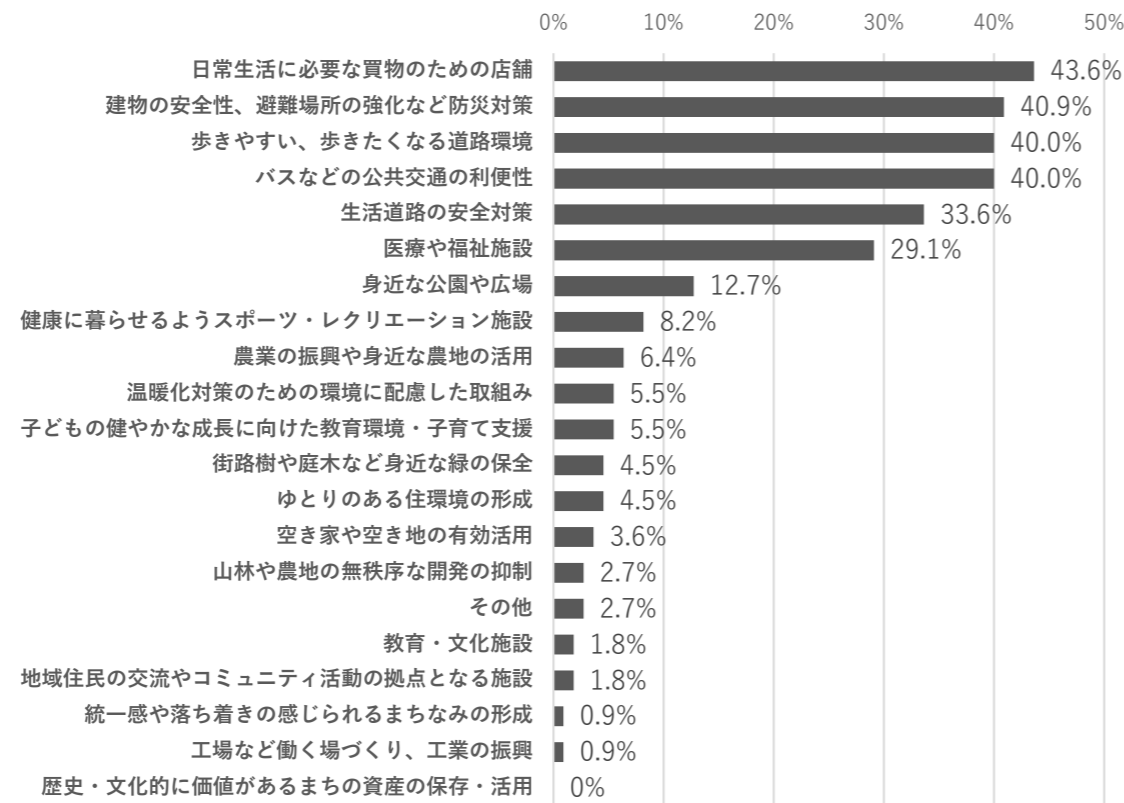
〈南部地域(n=164)〉



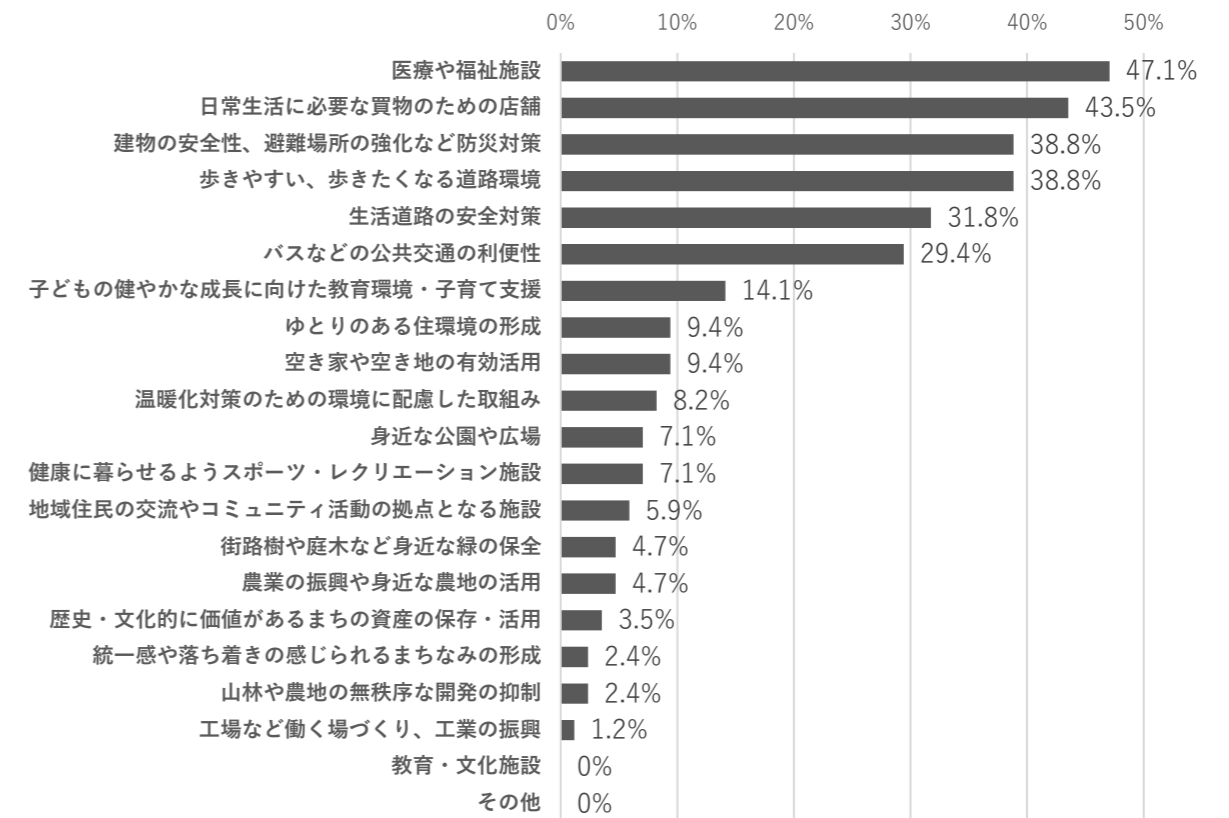
〈東部地域(n=202)〉



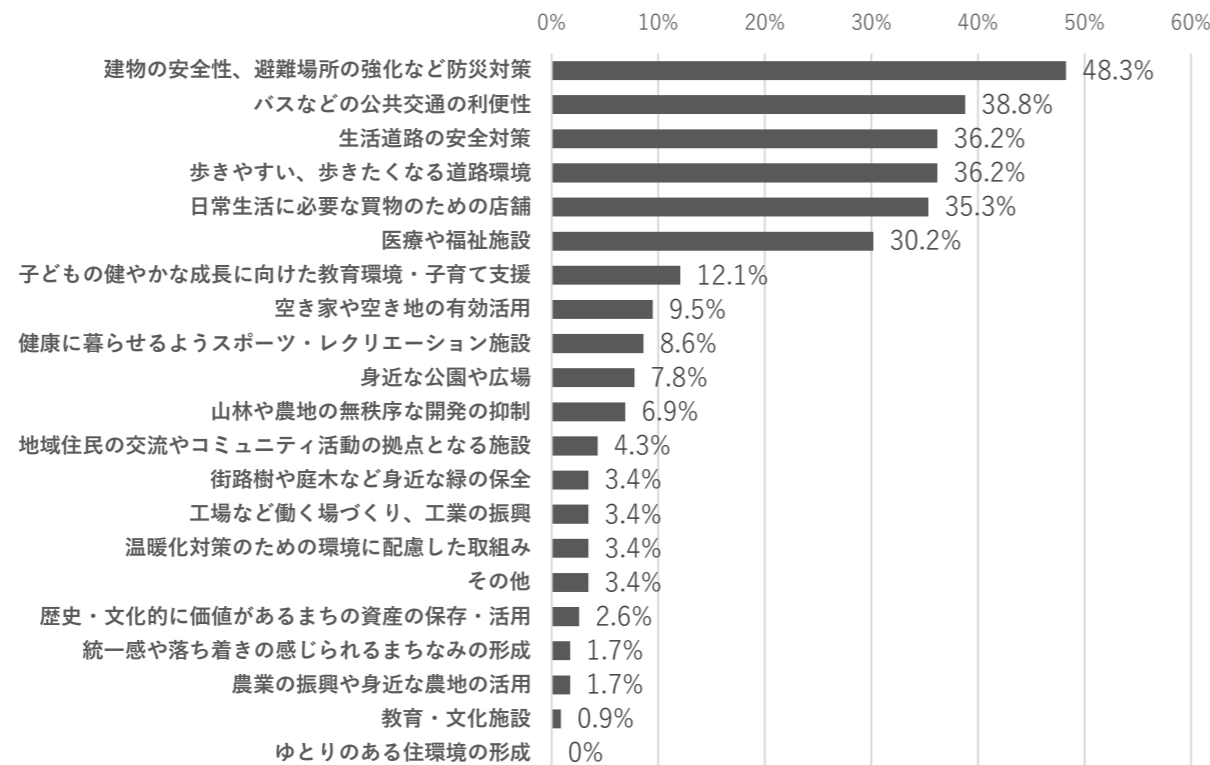
〈中部地域(n=110)〉



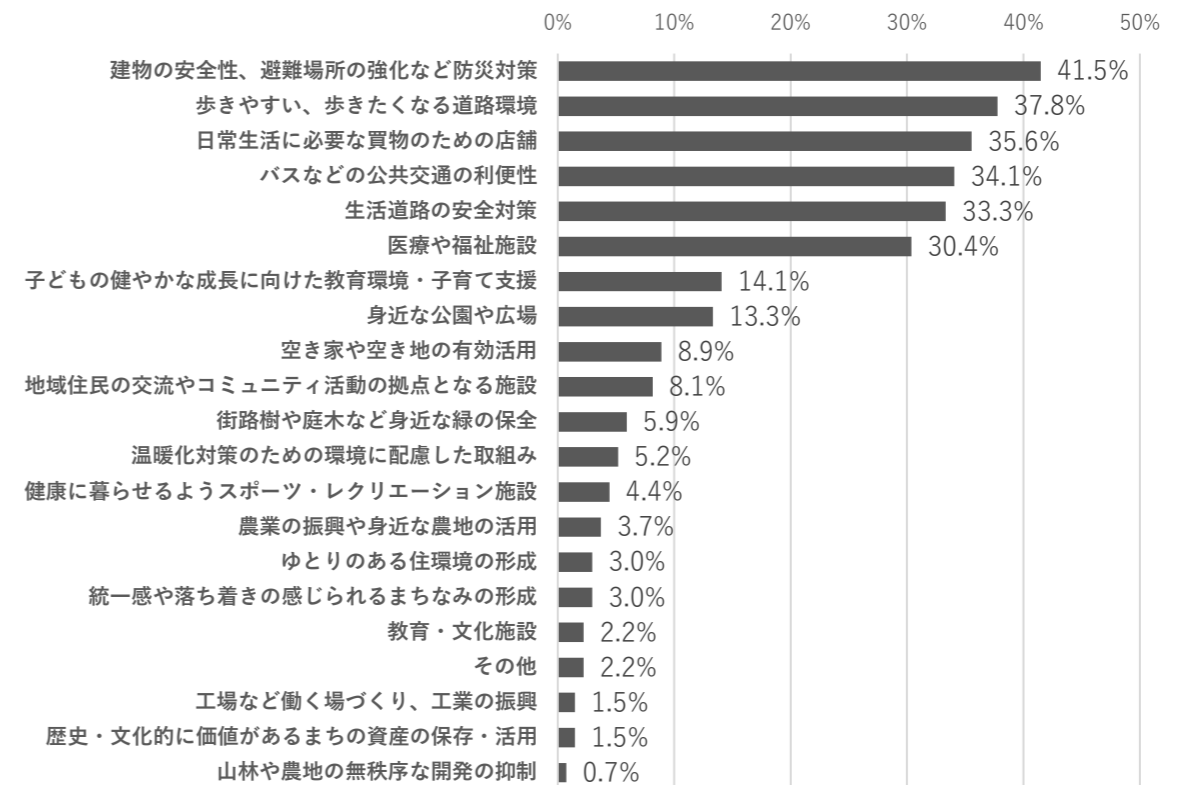
〈北部地域(n=85)〉



〈西部地域(n=116)〉



〈旭地域(n=135)〉



問5. 防災への意識・意向（防災について）

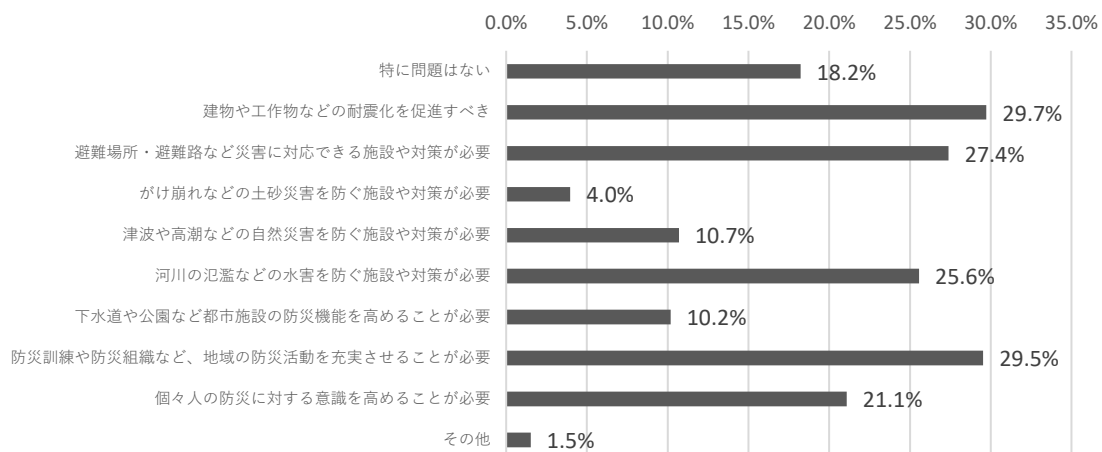
●結果概要

- ・全般的に、災害リスクを理解したうえで住み続けたいという回答が多い。[問 5-2 (p.75)]
- ・必要な防災対策については、地域ごとの災害リスクと関連して異なる傾向がある。[問 5-3×1-3 (p.77)]
- ・河川の氾濫等による浸水想定区域が広い北部地域、中部地域、旭地域では水害対策や避難施設を必要とする回答が多い。[問 5-3×1-3 (p.77)]
- ・津波や高潮による浸水想定区域がある南部地域では津波や高潮の対策を必要とする回答が多い。[問 5-3×1-3 (p.77)]
- ・東部地域、中心地域、西部地域では建物等の耐震化や防災活動を必要とする回答が多い。[問 5-1×1-3 (p.74)]
- ・防災対策の内容については、いずれの地域も、災害の危険性や防災に対する積極的な情報提供や、地域ごとの災害リスクの周知、情報伝達など、ソフト対策を必要とする回答が多い。[問 5-3×1-3 (p.77)]

問 5-1 現在お住まいの地域の防災対策についてどう思いますか。あてはまるものを2つ選んで番号に○をつけてください。

- ・「建物や工作物などの耐震化を促進すべき」(29.7%)、「防災訓練や防災組織など、地域の防災活動を充実させることが必要」(29.5%)が多い。ハード(建物)・ソフト(地域活動)での両対策を最上位に挙げている。次いで、「避難場所・避難路など災害に対応できる施設や対策が必要」(27.4%)、「河川の氾濫などの水害を防ぐ施設や対策が必要」(25.6%)が多い。避難対策や水害への意識が高い。

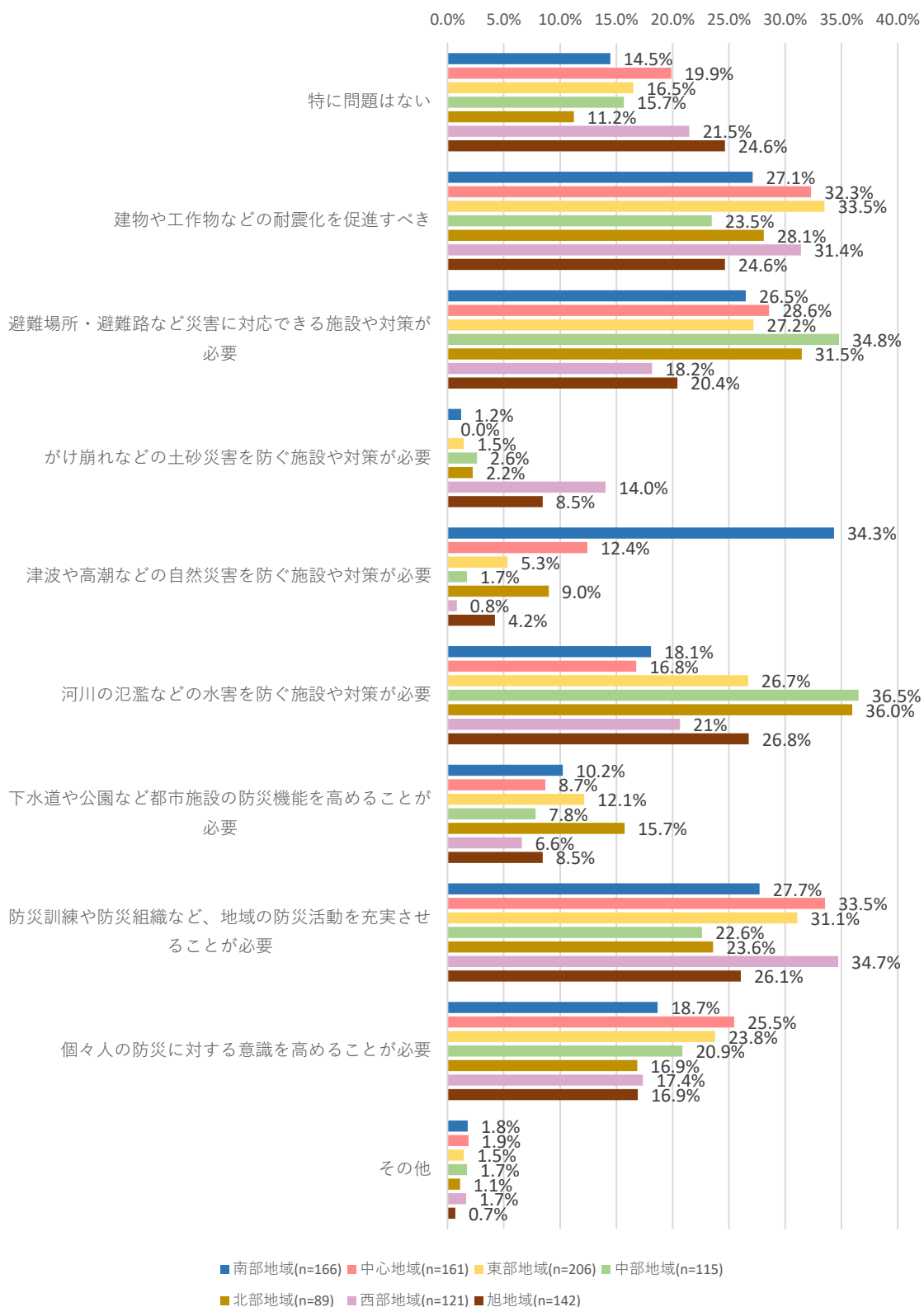
5-1 居住地域の防災対策について思うこと（複数回答,n=1000）



▶1-3 居住地域とのクロス集計

各地域での居住地域の防災対策への意識の大まかな傾向を把握する。

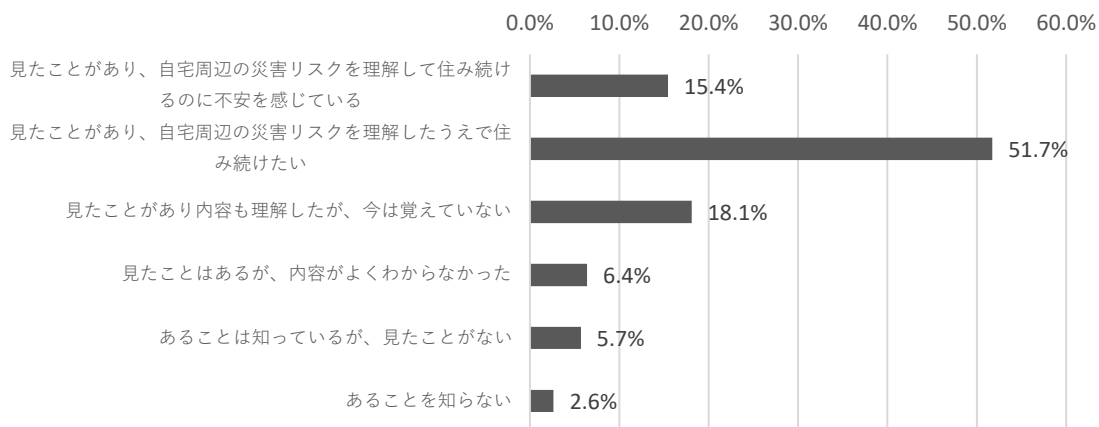
- ・地域別では、南部地域で「津波や高潮など自然災害を防ぐ施設や対策が必要」、中部地域「河川の氾濫などの水害を防ぐ施設や対策が必要」、東部・中心・西部地域では「建物や工作物などの耐震化を促進すべき」が比較的多い。



問 5-2 平塚市では、洪水や高潮、津波などのハザードマップを公開していますが、内容を確認したことはありますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○をつけてください。

・「見たことがあり、自宅周辺の災害リスクを理解したうえで住み続けたい」(51.7%)が5割を占め、災害リスクを承知の上で住み続ける意向を持っている人の割合が高い。

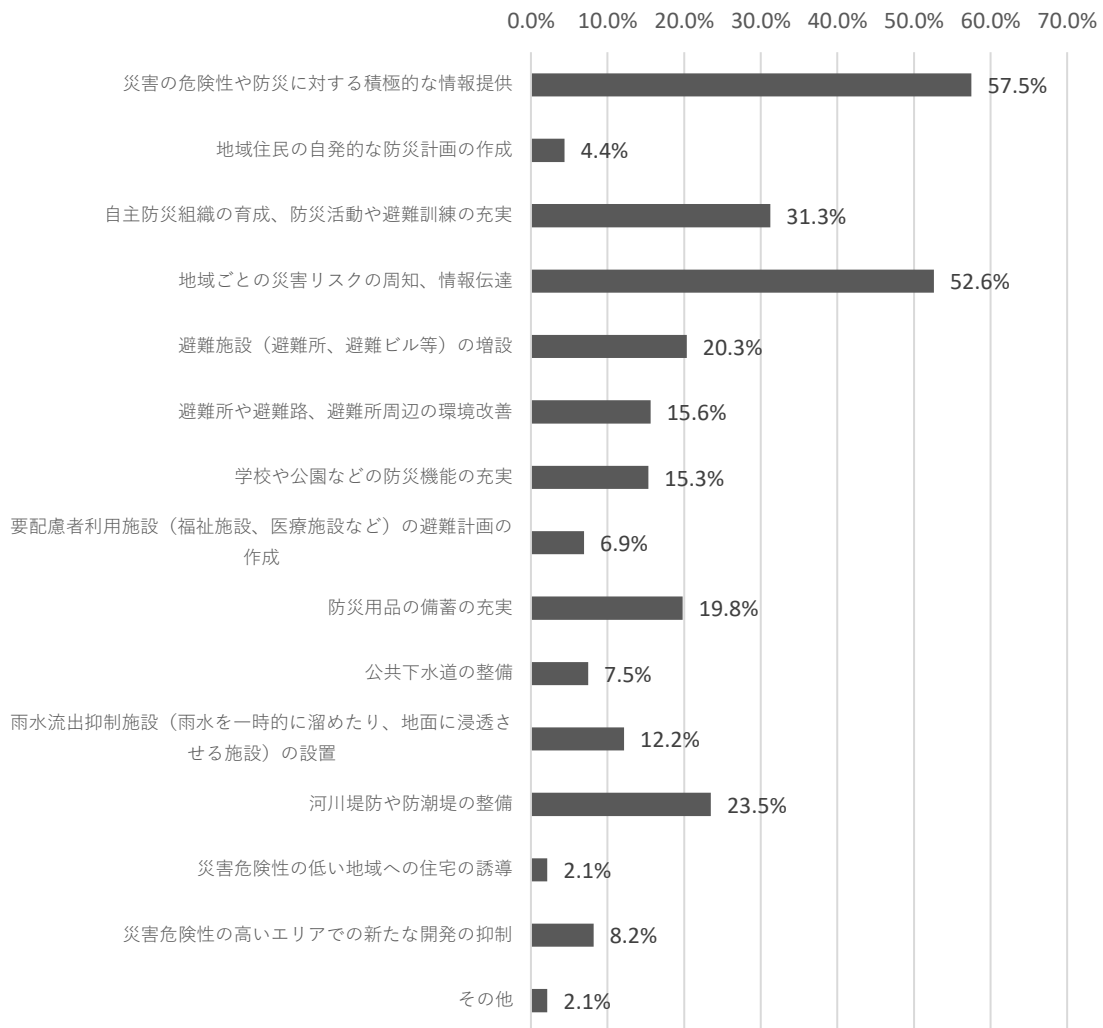
5-2 ハザードマップの理解度 (n=984)



問 5-3 平塚市において、自然災害の被害を減らすために、どのような対策が必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選んで番号に○をつけてください。

・「災害の危険性や防災に対する積極的な情報提供」(57.5%)、「地域ごとの災害リスクの周知、情報伝達」(52.6%)、「自主防災組織の育成、防災活動や避難訓練の充実」(31.3%)の順に多い。災害に関する情報提供・共有や、避難意識を高める組織や活動訓練の充実といった、ソフトの対策を必要と捉えている傾向がある。

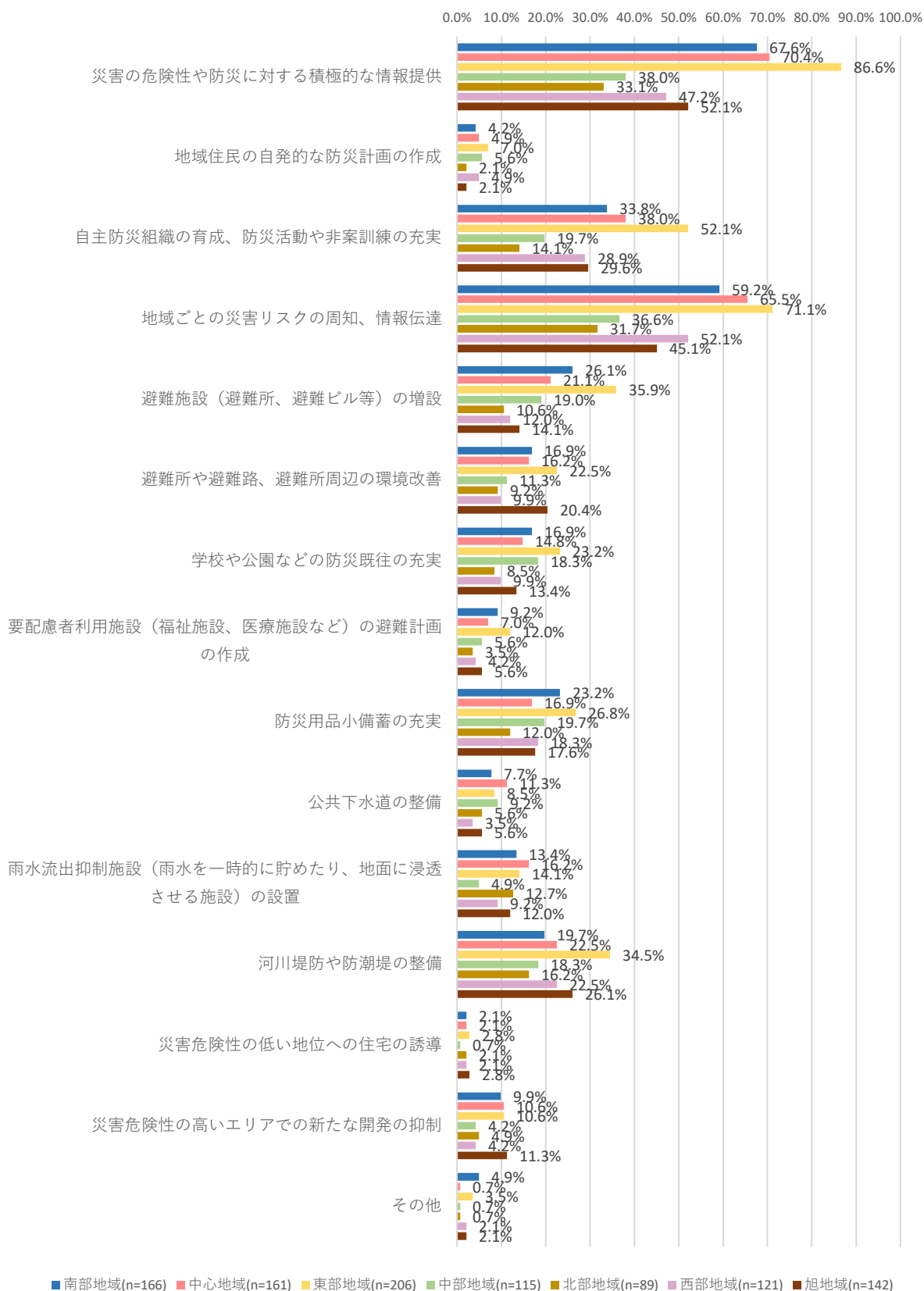
5-3 平塚市で、必要だと思う防災対策（複数回答,n=979）



▶1-3 居住地域とのクロス集計

各地域で必要と考えられている防災対策の大きな傾向を把握する。

- ・いずれの地域も「災害の危険性や防災に対する積極的な情報提供」が多い。

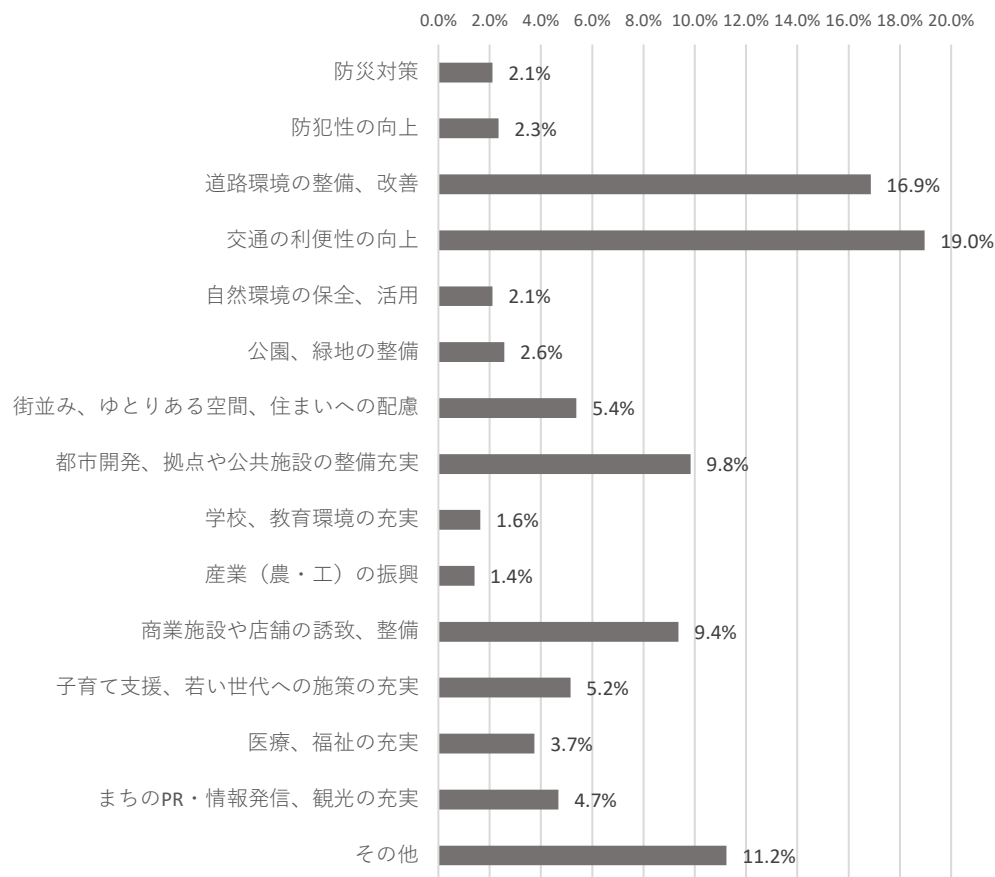


問 6. 平塚市のまちづくりへの自由意見（平塚市のまちづくりについて）

問 6-1 今後、平塚市が魅力あるまちとなるために取り組むべきことがありましたら、お書きください

- ・全部で 427 件あり、回答者の 42.2%から意見が寄せられた。
- ・平塚市が魅力あるまちとなるために取り組むべきこととして、「交通利便性の向上」（19%）が最も多く、「道路環境の整備、改善」（16.9%）と合わせて、道路交通に対しての改善を要する意見が多かった。
- ・次いで、「都市開発、拠点や公共施設の整備充実」（9.8%）、「商業施設や店舗の誘致、整備」（9.4%）が多かった。

6-1 平塚市が魅力あるまちとなるために取り組むべきこと(n=427)



▶項目別の主な意見の摘要

●防災対策

- ・台風や大雨時の県道大島明石線通行止めへの対策や、地下調整池により渋田川の流量を抑制すべき
- ・防災意識向上のため、市が強制的に訓練をすべき
- ・津波時の避難所の確保と明示をすべき
- ・被災後に避難生活をする場所の確保をすべき
- ・高齢者に配慮した防災対策をすべき

●防犯性の向上

- ・街灯の設置など、夜間でも安心して歩ける環境づくりをすべき
- ・治安が悪いというイメージの払しょくをすべき
- ・駅北側商業エリアの夜間の防犯性や風紀向上をすべき

●交通利便性の向上

- ・交通渋滞の解消をすべき
- ・駅前の駐輪場やバイク置き場を充実させるべき
- ・バス運行本数の増加（夜間や土日祝日の朝での運行も含む）をすべき
- ・東西を走るバス路線の新設や、中型バスによる細かなバス路線網による交通弱者への支援をすべき
- ・小田急線駅沿線を含めたデマンドバス、コミュニティバス運行をすべき
- ・勾配がきついエリアでの歩行の補助をすべき
- ・駅のバスターミナルの鳥害対策、雨除け屋根の設置をすべき

●道路環境の整備・改善

- ・通学路での車のスピードが速く、道が狭くて危険なので、子供から高齢者まで安心できる道を整備すべき
- ・自動車の速度抑制や、歩行者と車と自転車の分離をすべき
- ・自転車専用レーン設置や、サイクリングロード整備など、平地を活かした自転車に優しいまちづくりをすべき
- ・高齢者の手押し車や、子供を乗せた自転車のための、歩道の高低差解消をすべき
- ・住宅街での交通量が多く、歩道や道路標示がなくて危険な場所が多いので、解消すべき
- ・不法駐輪や駐車防止をすべき
- ・海へアクセスできる道路を増やすべき

●自然環境の保全・活用

- ・自然と街の共存を念頭に、緑地や農地を残して、自然を守り、活用すべき
- ・河川の整備や活用をすべき
- ・自然(山や川)を活かしたキャンプ、川あそび、BBQ等のレジャーにより、山でも遊べるようにすべき

●公園緑地の整備

- ・子供が遊べる公園やスポーツ施設の新設をすべき
- ・スケボーやダンスなどができる若い人が遊べる場所を増やすべき
- ・利用されていない小公園を、子供から老人までが行きたいと思え、交流できる場にすべき
- ・総合公園のような誰もが楽しめる場所をもう少し増やすべき
- ・公園と小規模な商業施設の併設を検討すべき
- ・まずは近隣の公園を清潔にすべき
- ・ゆっくり散歩ができる遊歩道を設置すべき

●街並み、ゆとりある空間、住まいへの配慮

- ・特徴ある街並み整備（昭和の香り、横丁、レトロな雰囲気）をすべき
- ・かつての賑わいもあり、適度に田舎的要素があるごみごみしていない雰囲気を取り戻したい
- ・駅周辺建物の隣棟間隔にゆとりをもたせるべき
- ・高い建物が密集しない建て方を考えて、町なみをきれいすっきり見えるようにすべき
- ・空き家の把握と管理をすべき

●都市開発、拠点・公共施設の整備充実

- ・駅周辺の開発や、文化施設と商業施設の併設などにより、賑わい、華やかさ、遊び心、休日に行きたくなる魅力ある施設を整備すべき
- ・商店街の活性化について対策すべき
- ・図書館の老朽化対策や改善をすべき
- ・スポーツ観戦施設の老朽化に伴う整備をすべき
- ・跡地となっている場所の再開発をすべき
- ・魅力的な利用ができる海岸エリアの整備をすべき

●学校・教育環境の充実

- ・外国語教育の徹底をすべき
- ・小・中学校の公教育の充実させるべき
- ・施設を充実させ、通学時の快適さを確保すべき
- ・最低限の文化芸術に触れやすい環境を用意すべき

●産業（農・工）の振興

- ・農業漁業が盛んであることが分かるように体験イベントを催すべき
- ・大企業の誘致をすべき

●産業（商業）の誘致・魅力的な施設整備

- ・駅北口、銀座通りの商店を特色あるものに整備し、東海道（平塚宿場町）の味を出すべき

●子育て支援、若い世代への施策の充実

- ・子供たちへの補助金や補助制度を充実させるべき
- ・若い家族が住みやすく移住したくなるまちづくりをすべき
- ・若者のまちづくりの参加プロジェクトの立ち上げをすべき
- ・保育園の入園しやすさ、保育施設の充実や、保育士不足解消を検討すべき

●医療・福祉の充実

- ・新型コロナウイルスに伴う各種支援を、スピード感を持ってすべき
- ・高齢者が暮らしやすい町にすべき
- ・バリアフリー、ユニバーサルデザインへの配慮（駅前ロータリーのエスカレーター）をすべき
- ・障がい者用スポーツ施設を新設すべき

●魅力あるまちの PR、観光の充実

- ・七夕祭りの定期開催、開催地の拡大をすべき
- ・情報検索せずに、日常生活の中で自然に目に入ってくる文化的・歴史的施設やイベントを充実させるべき
- ・福祉施設で親子参加できるイベントなどの開催をして、土台となるコミュニティを形成。イベントの対象者を限定しない必要がある
- ・平塚市各課の SNS アカウントやキャラを統一して、連携した情報発信をすべき

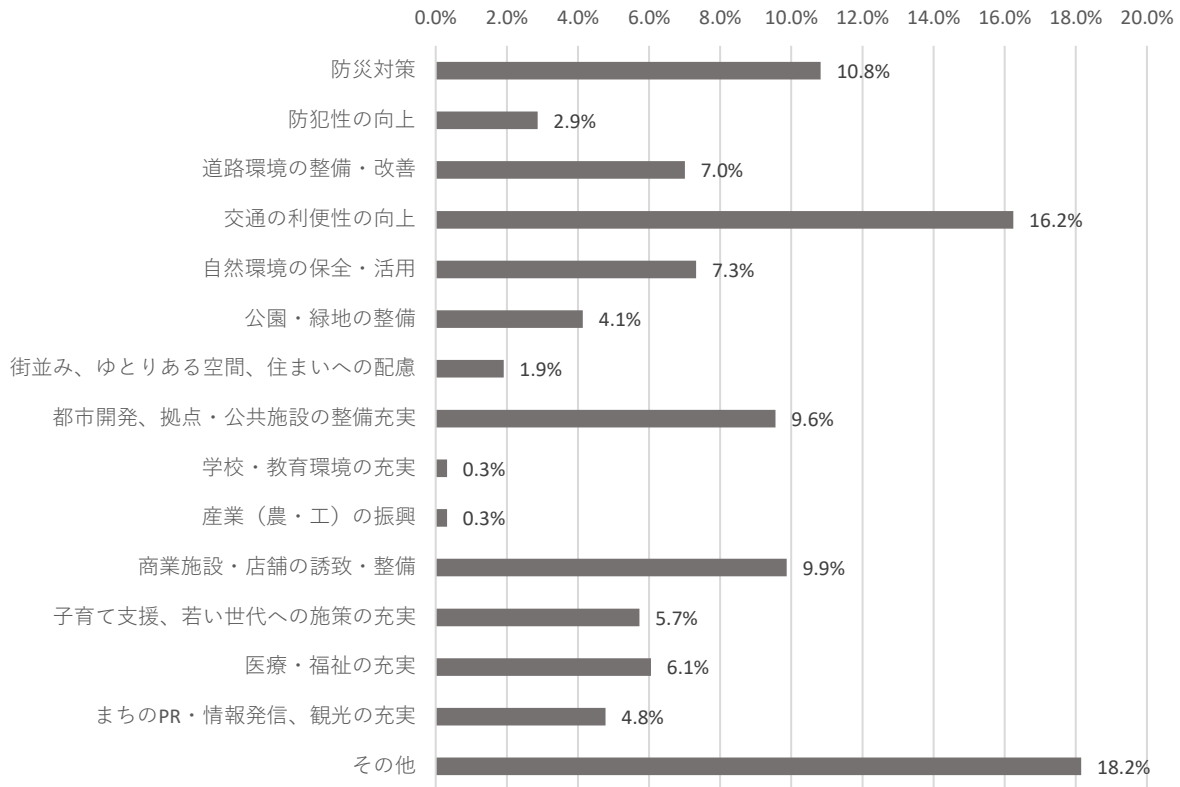
●その他

- ・良い町で特でない
- ・現状不便を感じないため、計画する意味が分からない
- ・無駄に画一的に商業施設をつくらず、住環境向上目指すべき
- ・テーマに基づいたまちづくりで多様性を受け入れるべき
- ・地域ごとの特徴を生かしたブランディングをすべき
- ・自治会の高齢化にともなう、市民と行政の協働・役割分担をすべき
- ・コミュニケーションがとりやすいまちづくりをすべき
- ・ベンチなど一息休めるスペースを充実させるべき
- ・ベルマーレ等を活かしたスポーツのまちづくりをすべき
- ・文化、芸術、コミュニティ施設の増設をすべき
- ・大好きな街だが何かが足りない

問 6-2 今後の平塚市のまちづくりに関してご意見・ご要望がありましたら、自由にお書きください

- ・全部で 314 件あり、回答者の 31.0%から意見が寄せられている。
- ・今後の平塚市のまちづくりに関する意見としては、6-1 と同様に、「交通の利便性の向上」(16.2%)が最も多い。
- ・次いで、「防災対策」(10.8%)、「商業施設・店舗の誘致・整備」(9.9%)「都市開発、拠点・公共施設の整備充実」(9.6%)が多い。

6-2 今後の平塚市のまちづくりに関する意見(n=314)



▶項目別の主な意見の摘要

●防災対策

- ・津波ハザードマップの改訂をすべき
- ・大雨時の増水に対応できるように、金目川以外の鈴川等の河川の整備をすべき
- ・大雨時の西部地域において金目川の洪水対策をすべき
- ・金目川と新幹線路が交差する場所の洪水対策をすべき
- ・洪水時にとるべき行動を市民全員で把握しておくべき
- ・リスクの低い災害も含めて、有効な対策をとり、安心して住めるようにすべき
- ・地域別や災害別の危険度を評価した情報の作成をすべき
- ・中心地域にマンホールがほぼないので、地下雨水貯蔵設備など対策を講ずるべき
- ・海岸の津波対策をすべき
- ・高齢者の避難場所確保や、ペットとの避難可にするなど、安心して誰もが避難できる避難場所をつくるべき
- ・学校の耐震補強の推進をすべき

- ・空き家を放置しないで、市で対策を講じるべき

●防犯性の向上

- ・競輪場の廃止をすべき
- ・パチンコ店、風俗店、マンション乱立の抑制をすべき
- ・地域の公園等を見回る夜間パトロールを、各地域で展開すべき
- ・夜間の明かり、街灯の増設をすべき
- ・夜間の駅周辺の治安向上をすべき

●自然環境の保全・活用

- ・海岸樹林帯、田畑や林を守るべき
- ・自然豊かな土地を、過去の考えに囚われず、新しい視点で守るべき
- ・まちなかに緑を多くすべき
- ・商業だけでなく、自然・地形を生かした開発をすべき
- ・川には多くの生き物が住んでいるので、まずは掃除からまちづくりを始めてみるべき
- ・市内の海、山、川で遊べるように整備するべき、平坦であることを活かすべき

●道路環境の整備・改善

- ・水田地域内の農道を拡幅すべき
- ・川沿いの散歩道を利用しやすいように再整備すべき
- ・自転車、ベビーカーで移動しやすいように平らに整備すべき
- ・歩行者の目線から道路の整備をすべき
- ・高齢者のために、歩道橋をスクランブル交差点に変換すべき
- ・歩行者にとって危険である、駅周辺の歩道上の自転車通行レーンの撤去をすべき
- ・事故が多い交差点での安全対策をすべき
- ・七夕まつり後の道路の汚れ、汚臭への対策をとるべき
- ・狭い道路では建て替え後のセットバックをすべき

●公園緑地の整備

- ・西部地域など小規模な公園しかない地域に、総合公園のような大規模公園をつくるべき
- ・子供が自由に遊べる公園・広場の整備。遊具の設置をすべき
- ・お年寄りが井戸端会議などできる公園の整備をすべき

●街並み、ゆとりある空間、住まいへの配慮

- ・敷地の細分化を抑制すべき
- ・屋外広告物の規制の強化すべき
- ・無理に活気づけなくてよい
- ・静かな町並みの整備をすべき
- ・イメージをよくするために街並みの景観を向上させるべき

●都市開発、拠点・公共施設の整備充実

- ・跡地・空き地での再開発を推進するべき
- ・駅前周辺での再開発をするべき
- ・複合施設をつくり、利便性を上げることや、そぞろ歩きを楽しめる民間施設を誘致することなど、駅前商店街の思い切ったリニューアルをすべき
- ・駅周辺でゆっくりくつろげる場所を増やすべき
- ・他の場所にはない個性を主張する、特徴的な計画を立てるべき
- ・図書館をリニューアルして、誰もが利用しやすい場所にすべき
- ・道の駅をつくり、地場産業を推進して、食事を楽しめるカフェを併設させるべき
- ・学校等の跡地は、文化的な施設を入れた開発をすべき
- ・工業・農業・商業がバランスよくなるまちづくりをすべき
- ・徒歩圏内にスーパー、医療機関が少ないので、市内にもっと点在させるべき

●学校・教育環境の充実

- ・義務教育の充実をさせるべき

●産業（農・工）の振興

- ・農家の高齢化に対応して、個人ではなく、組織で農業をできる仕組みをつくるべき

●商業施設の誘致・整備

- ・高齢者も行きたくなるような商業施設がほしい。中心・東部・北部地域に、大型ショッピングセンターを誘致すべき
- ・生活必需品が一括して購入できる施設をつくるべき
- ・地産地消など個性的な店舗があるとよい
- ・若いファミリー向けの商業施設（カフェ、レストランなど）で、コミュニティが育まれるよう工夫すべき
- ・高齢者にとって、駅南口周辺の大型商業施設を増やし、買い物の利便性を上げるべき

●子育て支援、若い世代への施策の充実

- ・子供が暮らしやすく、楽しいまちづくりをすべき
- ・子供が安心して遊べる児童館を増設すべき
- ・「子どもの家」を各地域で増設すべき
- ・子供が気軽に遊べる場所を増やすべき
- ・高齢者ばかりではなく、現役世代の子育てを具体的に支援すべき
- ・共働きに優しいまちをつくるべき
- ・もっと企業誘致を進めて、若い世代を平塚に呼び込むべき
- ・まちがにぎわうためには、若者・勤労者にとって魅力ある街区をつくるべき

- ・平塚で子育て・学習・生活をしたくなるように、30・40代を中心に、平塚のまちづくりに関するシンポジウム・ミーティングを開催すべき

●医療・福祉の充実

- ・まちなかにベンチを設置し、色々なお店を回るなど、高齢者が長い距離を歩いて楽しめるようにすべき
- ・北部地域に大きな病院が無いので、誘致すべき
- ・コロナウイルスへの対応が遅れているので、早急に対策すべき
- ・一人暮らしの高齢者が病気・事故を起こした時の対応を検討すべき
- ・若者世代の参加数減少や、高齢者の脱会により、自治会が形骸化してしまい、一部の市民に負担が集中している現状の改善をすべき
- ・身体障がい者の意見を取り入れたバリアフリーの推進
- ・特に高齢化率が高い地域（土屋など）で、生活に必要な施設を充実させ、高齢者が過ごしやすい環境をつくるべき

●魅力あるまちの PR、観光の充実

- ・国・県指定文化財、平塚市美術館、七夕まつり、平塚海岸、ベルマーレ、湘南平をもっとアピールすべき
- ・海山川といった自然を観光資源に活かすべき
- ・湘南平などを夜間にライトアップして観光資源として活用すべき
- ・駅周辺から漁港へのアクセス方法を分かりやすくすべき
- ・七夕に頼り切りにならずに、小さい単位でよいので、住民が楽しめる催しが沢山あるべき
- ・メディア・SNS など若い世代へ発信できる媒体によるアピールすべき
- ・もっといろいろなお店に出会いたいと思うので、YouTube チャンネルの更新を楽しみにしている

●その他

- ・特になし（思いつかない）
- ・平塚の生活に困ることがない、満足している
- ・ゴミ回収の頻度を上げるべき
- ・まちづくり委員会の設置をして、まちづくりに市民として参加したい
- ・自治会・商店会の高齢化に伴う運営の困難さへの対策をすべき
- ・商店街の鳥害対策をすべき
- ・防災無線の曲を季節で変え、季節感を演出すべき
- ・小さなことから積極的に仕掛けて売れる街にすべき
- ・遊び心を持ち、いつも新しさがある、新陳代謝するまちづくりを心掛けるべき
- ・オンライン図書館の蔵書増やすべき
- ・市役所の機能向上をし、行きやすい市役所にすべき

第3章 まとめ

本調査では、立地適正化計画の策定に向けた基礎資料として、日常的な利用サービス・生活圏域の実態や、中心・地域の拠点に関する意向、居住環境や防災に関する意向などを把握した。

各設問の結果概要をまとめる。

1. 回答者の属性からみる本アンケートの特性について（問1）

- 高齢者や子育てを終えた世代が多く回答しており、単純集計結果や意見はやや高齢者に寄った結果となっている。また、回答者には長く住み続けている人が多い。

2. 日常生活の実態と拠点のニーズについて（問2、問3）

- 日常的に必要な性が高い食料品や日用品の買物や、金融機関、通院、福祉・介護施設、コミュニティ施設の利用は、住んでいる地域内で比較的多く行われている傾向があり、住んでいる地域内または地域周辺での拠点（以下「身近な拠点」という）のニーズがある。
- 日常生活における移動手段は、全般的に自家用車が多いが、南部地域・中心地域では徒歩や自転車利用も多く、徒歩・自転車圏としての実態があると言える。
- 平塚駅周辺に週1～2回以上行く頻度は、中部地域、北部地域、西部地域、旭地域では低く、身近な拠点のニーズが高いと考えられる。それに対して、中心地域、南部地域、東部地域では、平塚駅周辺に行く頻度が比較的高く、身近な拠点のニーズは比較的低いと考えられる。
- 平塚駅周辺への移動は自家用車の利用が多く、駐車場の利用しやすさの満足度が低い一方、バスでの行き来のしやすさは満足度が高く、公共交通軸として一定の評価がされている。
- 拠点に必要な機能は、平塚駅周辺の拠点、身近な拠点のいずれも商業施設のニーズが高い。平塚駅周辺では、医療・福祉や公園・緑の充実のニーズも高い。

3. 住み続けたい居住環境について（問4）

- いずれの地域でも、居住地域に住み続けたい人が多く、転居転出の意向は少ない。
- 一方、転居転出を検討している人の理由は、買い物の利便性の他、交通や災害安全性への不満が挙げられており、住み続けるまちに向けた課題といえる。
- 住み続けるために重要なこととしても、災害対策や生活道路の安全性や、歩きやすい道路環境が多い。60代以上の高齢者層では、日常的な買い物の店舗と医療福祉施設も比較的多い。
- 地域別に見ると、南部・中心・東部・西部・旭地域では防災対策が、北部地域では医療福祉施設が、中部地域では日常的な買い物の店舗が最も多く、災害リスクや都市機能分布状況の違いにより、ニーズの地域差が出たと考えられる。

4. 防災への意識、必要な防災対策について（問5）

- 災害リスクを理解した上で、住み続けたいという人が多い。
- 必要な防災対策は、いずれの地域でも、災害危険性や防災に関する情報伝達、災害リスクの周知などソフトの対策が多いが、地域ごとの災害リスクと関連して、北部・中部・旭地域では水害対策や避難施設、南部地域では津波や高潮の対策、東部・中心・西部地域では建物の耐震化等や防災活動などのニーズの違いが見られた。